

第2部 調査結果の概要 I

第2部 調査結果の概要 I

第1章 10歳～14歳対象調査

1. 人生観・幸福感・居場所等

(1) 自己認識 (問1-1、問1-2)

問1-1 あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。「あてはまる」は1を、「どちらかといえば、あてはまる」は2を、「どちらかといえば、あてはまらない」は3を、「あてはまらない」は4を選んでください。(それぞれの質問について、あてはまる番号を1つお答えください)

問1-2 あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。

回答者の自己認識について、“今の自分が好きだ”、“自分の親（保護者）から愛されていると思う”、“うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む”、“周りの人（友人や家族など）の役に立ちたいと思う”の4つの肯定的項目と、“自分は役に立たないと強く感じる”の否定的項目、計5項目を聞いた（図表2-1-1-1-1）。

“今の自分が好きだ”という自己肯定感に関して、「あてはまる」との回答者は39.7%で、「どちらかといえば、あてはまる」を合わせると、自己を肯定的に捉えている回答者は83.1%となっている。

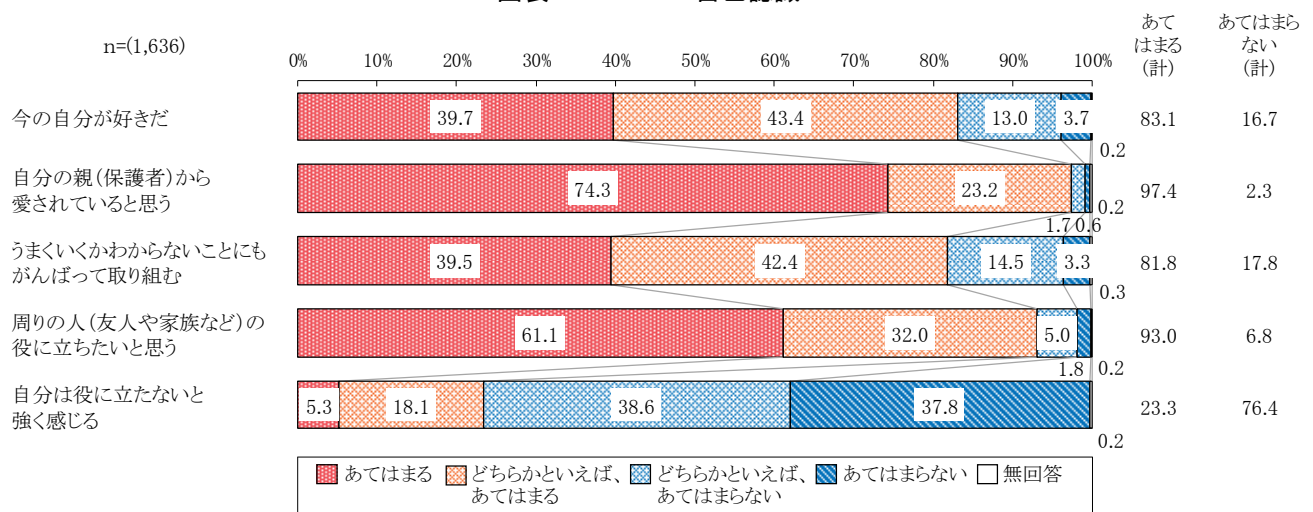
“自分の親（保護者）から愛されていると思う”では、「あてはまる」との回答は74.3%で、「どちらかといえば、あてはまる」(23.2%)を合わせた97.4%が肯定的な認識を持っており、4つの肯定的項目の中で最も高い。

“うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む”では、「あてはまる」との回答は39.5%で、「どちらかといえば、あてはまる」(42.4%)を合わせた81.8%が、肯定的な回答となっている。

“周りの人（友人や家族など）の役に立ちたいと思う”では、「あてはまる」との回答は61.1%と半数を超え、「どちらかといえば、あてはまる」(32.0%)を合わせた93.0%が肯定的な回答となっている。

“自分は役に立たないと強く感じる”という自己有用感について、「あてはまらない」は37.8%、「どちらかといえば、あてはまらない」が38.6%で、合わせると76.4%が肯定的な認識を持っているのに対し、「あてはまる」(5.3%)と「どちらかといえば、あてはまる」(18.1%)を合わせた23.3%は否定的な認識を持っている。

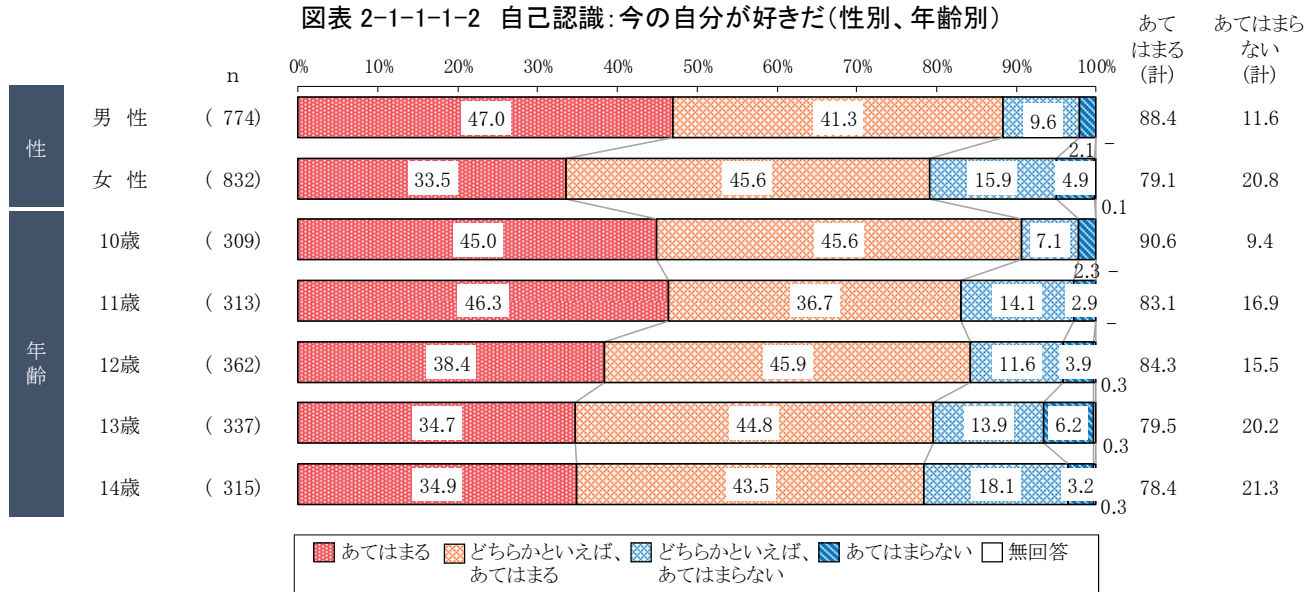
図表 2-1-1-1-1 自己認識



“今の自分が好きだ”という自己肯定感について、性別にみると（図表 2-1-1-1-2）、「あてはまる」という回答者は、男性では 47.0%であるのに対し女性では 33.5%で、男性が女性を約 13 ポイント上回っている。『あてはまる（計）』（「あてはまる」+「どちらかといえば、あてはまる」）についても、男性は 9割弱（88.4%）で、女性（79.1%）を約 9ポイント上回る。

年齢別にみると（図表 2-1-1-1-2）、『あてはまる（計）』の割合は概ね年齢が高い層ほど低くなる傾向がみられ、10歳（90.6%）では9割に達しているのに対し、11歳（83.1%）及び12歳（84.3%）では8割台、13歳（79.5%）及び14歳（78.4%）では7割台となっている。『あてはまらない（計）』（「あてはまらない」+「どちらかといえば、あてはまらない」）は、13歳以上では2割を超える（13歳 20.2%、14歳 21.3%）。

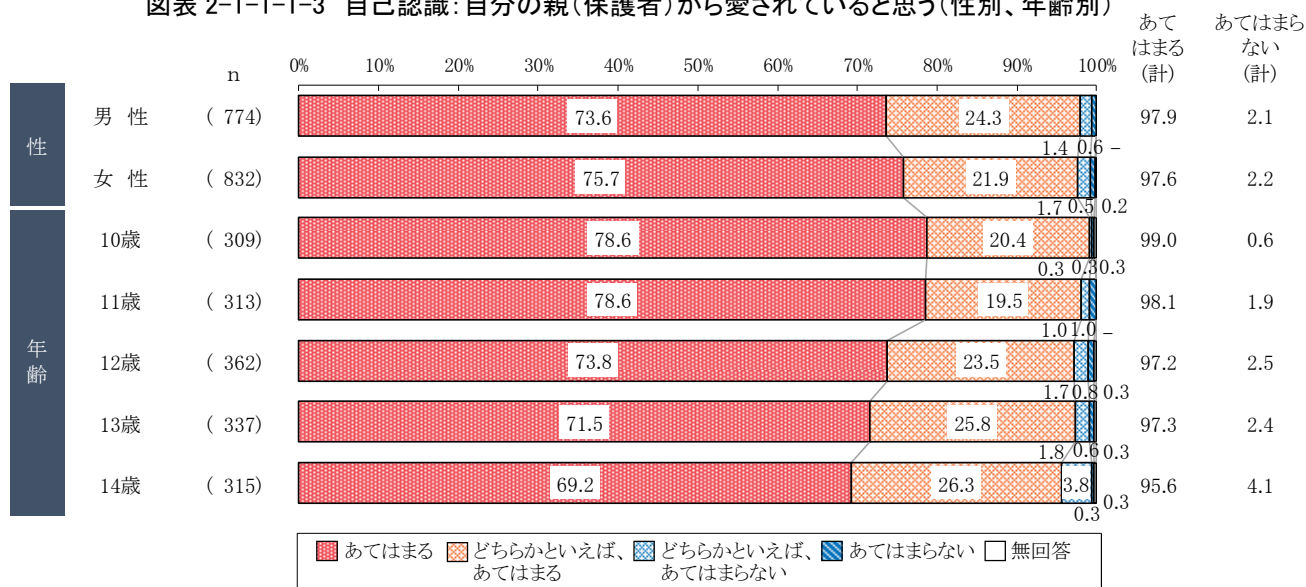
図表 2-1-1-1-2 自己認識:今の自分が好きだ(性別、年齢別)



“自分の親（保護者）から愛されていると思う”について、性別にみると（図表 2-1-1-1-3）、『あてはまる（計）』は、男性 97.9%、女性 97.6%と全数に近く、男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-1-1-1-3）、「あてはまる」との回答は、10歳及び11歳がともに 78.6%であるのに対し、12歳 73.8%、13歳 71.5%、14歳 69.2%となっており、概ね年齢が高い層ほど低くなる傾向がみられる。『あてはまる（計）』は、いずれの年齢層も 9割台後半となっている。

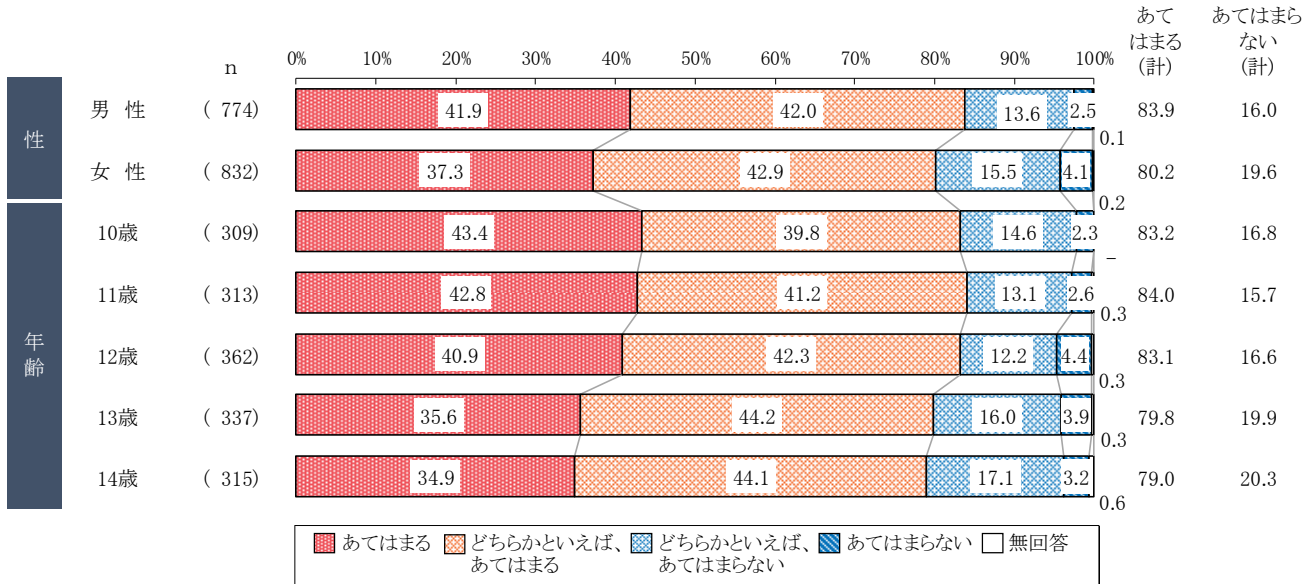
図表 2-1-1-1-3 自己認識:自分の親(保護者)から愛されていると思う(性別、年齢別)



“うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む”について、性別にみると(図表 2-1-1-1-4)、『あてはまる(計)』は、男性 83.9%、女性 80.2%で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると(図表 2-1-1-1-4)、「あてはまる」との回答は年齢が高い層ほど低くなる傾向がみられ、12歳以下では4割を超えるのに対し(10歳 43.4%、11歳 42.8%、12歳 40.9%)、13歳では 35.6%、14歳では 34.9%となっている。『あてはまらない(計)』も、13歳以上では2割前後となっている(13歳 19.9%、14歳 20.3%)。

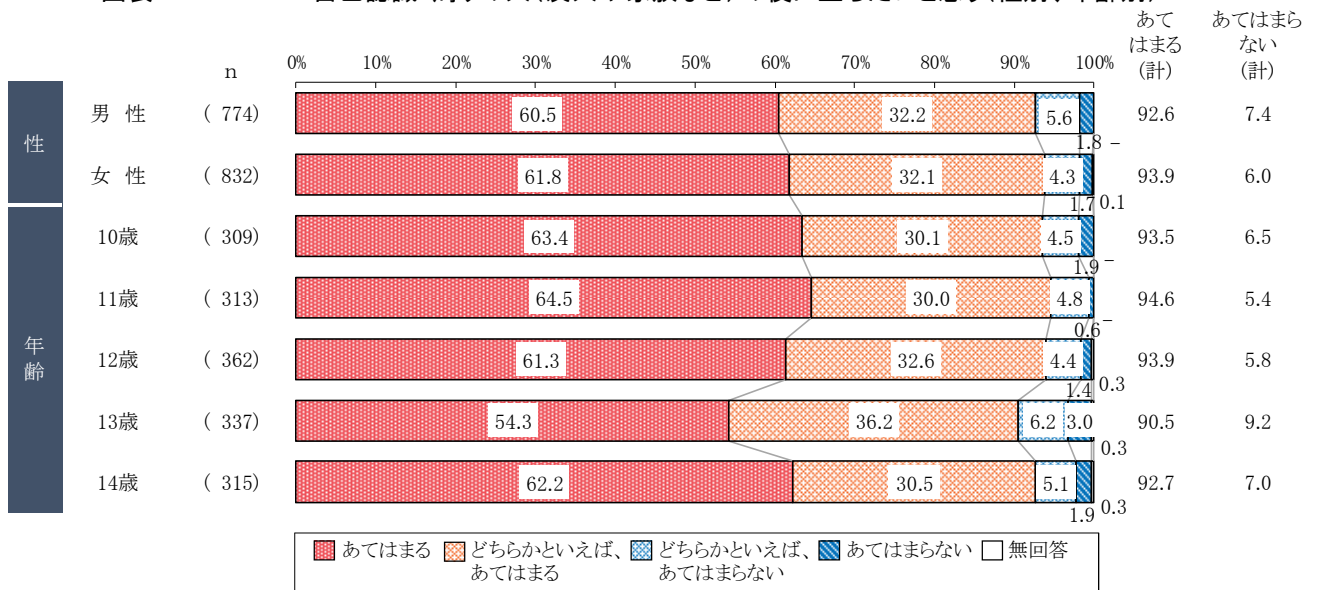
図表 2-1-1-1-4 自己認識:うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む(性別、年齢別)



“周りの人(友人や家族など)の役に立ちたいと思う”について、性別にみると(図表 2-1-1-1-5)、『あてはまる(計)』は男性 92.6%、女性 93.9%で大きな男女差はみられず、ともに9割を超えている。

年齢別にみると(図表 2-1-1-1-5)、「あてはまる」との回答は、13歳では 54.3%で他の年齢層に比べてやや低いものの、『あてはまる(計)』はいずれの年齢層でも9割台となっている。

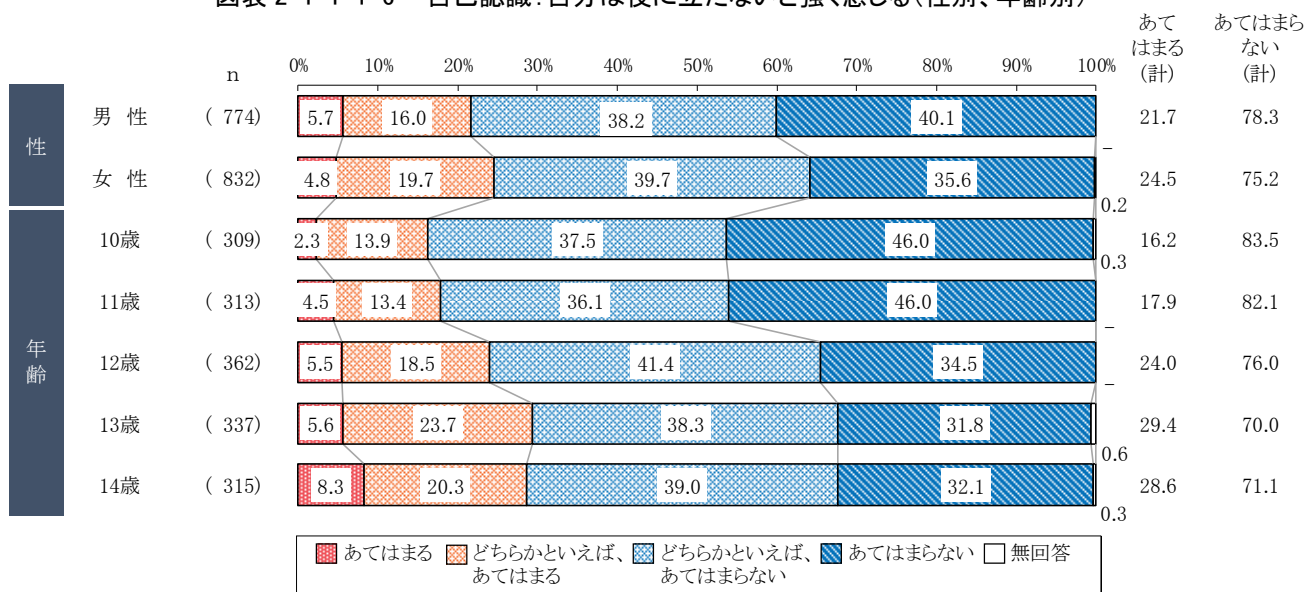
図表 2-1-1-1-5 自己認識:周りの人(友人や家族など)の役に立ちたいと思う(性別、年齢別)



“自分は役に立たないと強く感じる”という自己有用感について性別にみると（図表 2-1-1-1-6）、『あてはまらない（計）』は男女とも7割を上回り（男性 78.3%、女性 75.2%）、大きな男女差はみられない。なお、『あてはまる（計）』は、男性 21.7%、女性 24.5%で、否定的な認識を持つ人が男女ともに2割を超える。

年齢別にみると（図表 2-1-1-1-6）、「あてはまらない」との回答は、10歳及び11歳ではともに46.0%で、3割台の12歳以上（12歳 34.5%、13歳 31.8%、14歳 32.1%）に比べて高く、『あてはまらない（計）』は、10歳（83.5%）、11歳（82.1%）が8割を超えるのに対し、12歳以上では7割台（12歳 76.0%、13歳 70.0%、14歳 71.1%）となっている。一方、「あてはまる」または「どちらかといえば、あてはまる」と答えた自己有用感を持っていない人の割合は、13歳（29.4%）、14歳（28.6%）では約3割となっており、10歳（16.2%）及び11歳（17.9%）と開きがみられる。

図表 2-1-1-1-6 自己認識：自分は役に立たないと強く感じる（性別、年齢別）

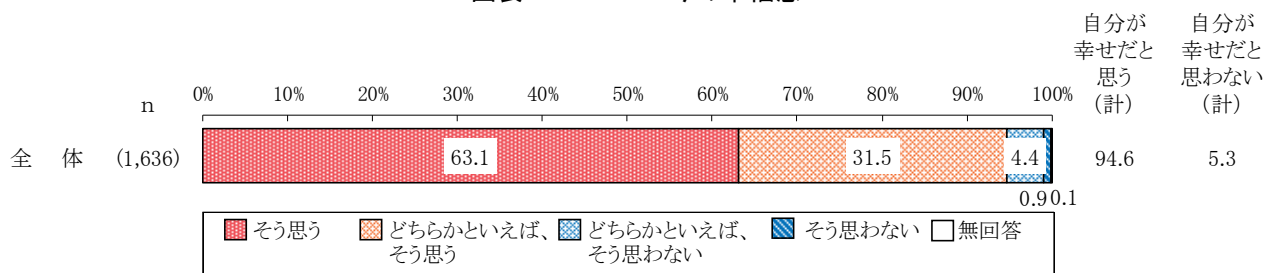


(2) 今の幸福感 (問2)

問2 あなたは、今、自分が幸せだと思いますか。あなたの実感をお答えください。(1つだけ)

“今、自分が幸せだと思う”との、今の幸福感について聞いたところ(図表2-1-1-2-1)、「そう思う」という回答者が63.1%で、「どちらかといえば、そう思う」(31.5%)を合わせると、肯定的な回答が94.6%を占める。一方、『自分が幸せだと思わない(計)』(「そう思わない」+「どちらかといえば、そう思わない」)は5.3%となっている。

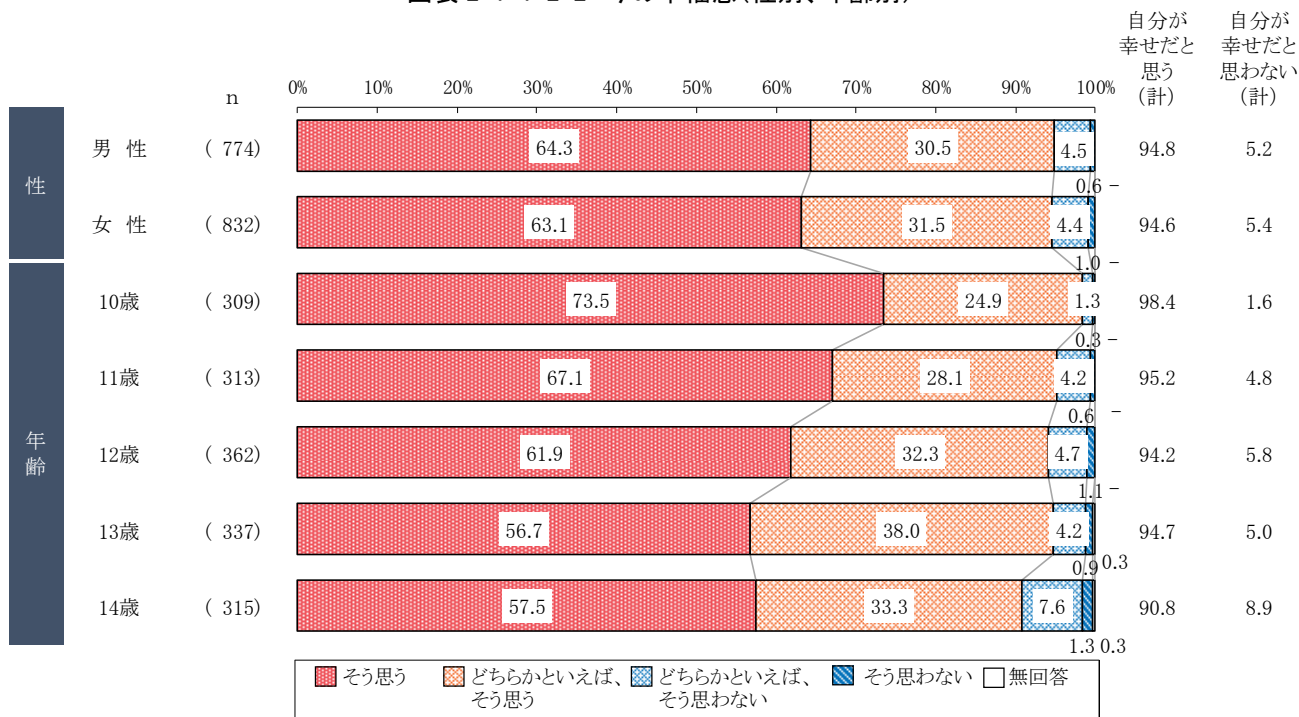
図表 2-1-1-2-1 今の幸福感



性別にみると(図表2-1-1-2-2)、『自分が幸せだと思う(計)』(「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う」)は男女ともに9割を超え(男性94.8%、女性94.6%)、男女差はみられない。

年齢別にみると(図表2-1-1-2-2)、「そう思う」との回答は、10歳(73.5%)で7割台、11歳(67.1%)、12歳(61.9%)では6割台、13歳(56.7%)及び14歳(57.5%)では5割台となっており、年齢層による差がみられる。『自分が幸せだと思う(計)』はいずれの年齢層でも9割を上回っているが、特に10歳では『自分が幸せだと思う(計)』が98.4%で、ほぼ全数に近い。一方、『自分が幸せだと思わない(計)』は14歳で最も多く、8.9%となっている。

図表 2-1-1-2-2 今の幸福感(性別、年齢別)

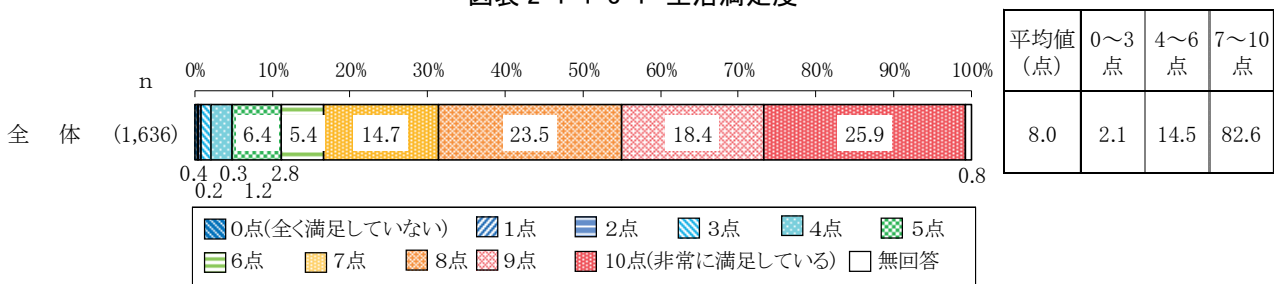


(3) 生活満足度 (問3)

問3 あなたは全体として現在の生活にどの程度満足していますか。「全く満足していない」を0点、「非常に満足している」を10点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれか1つだけ選んでください。(1つだけ、点数部分に○をつけてください)

全体として現在の生活にどの程度満足しているかを0点(全く満足していない)から10点(非常に満足している)の11件法で聞いたところ(図表2-1-1-3-1)、平均値は8.0点で、「10点」との回答が25.9%で最も多く、次いで「8点」(23.5%)、「9点」(18.4%)、「7点」(14.7%)の順となっている。7点以上を合わせると82.6%であるのに対し、0～3点合計は2.1%、4～6点合計は14.5%であり、大多数が7点以上の満足度を回答している。

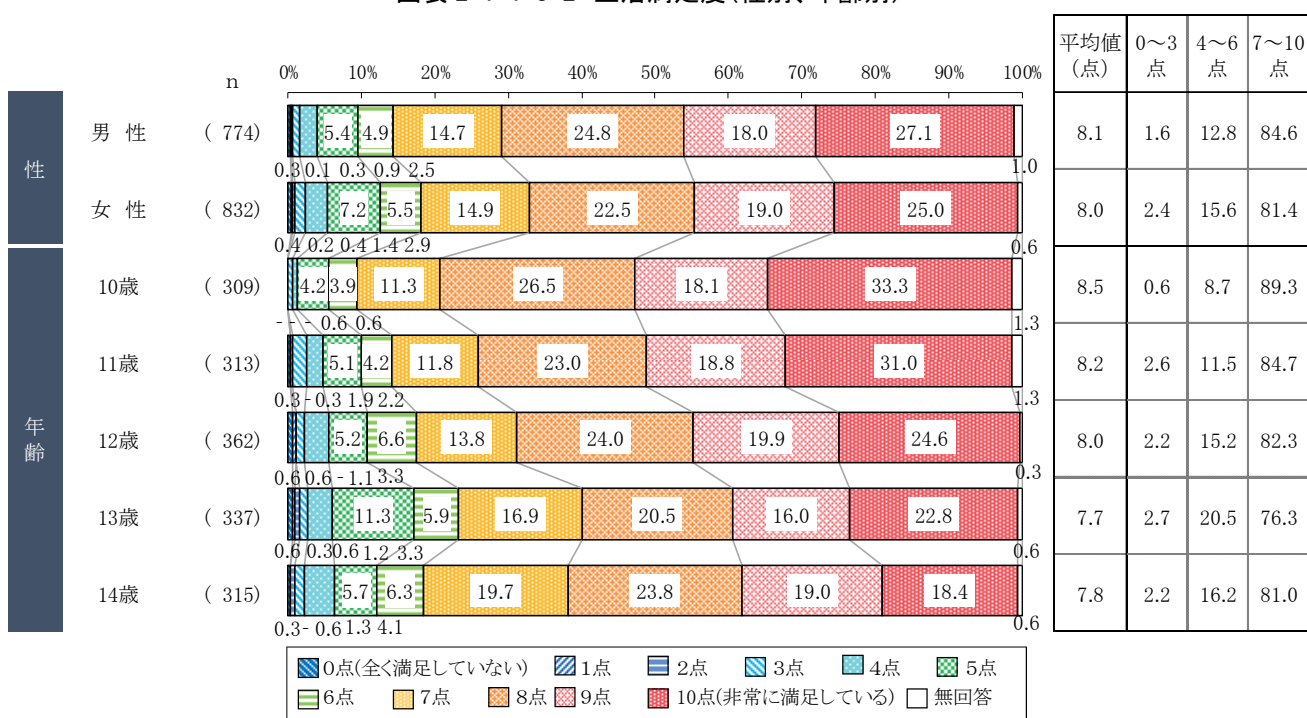
図表 2-1-1-3-1 生活満足度



性別にみると(図表2-1-1-3-2)、7点以上を合わせると、男性84.6%、女性81.4%で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると(図表2-1-1-3-2)、10歳(33.3%)、11歳(31.0%)では3割を超え、「10点」の回答が最も多い。12歳及び13歳では、「10点」と「8点」が2割台でほぼ同程度を占める。14歳は、「8点」が23.8%で最も多く、「7点」19.7%、「9点」19.0%、「10点」18.4%の順となっている。7点以上を合わせると、10歳が最も高く89.3%、次いで11歳84.7%、12歳82.3%、14歳81.0%、13歳76.3%の順である。

図表 2-1-1-3-2 生活満足度(性別、年齢別)



(4) 居場所 (問4)

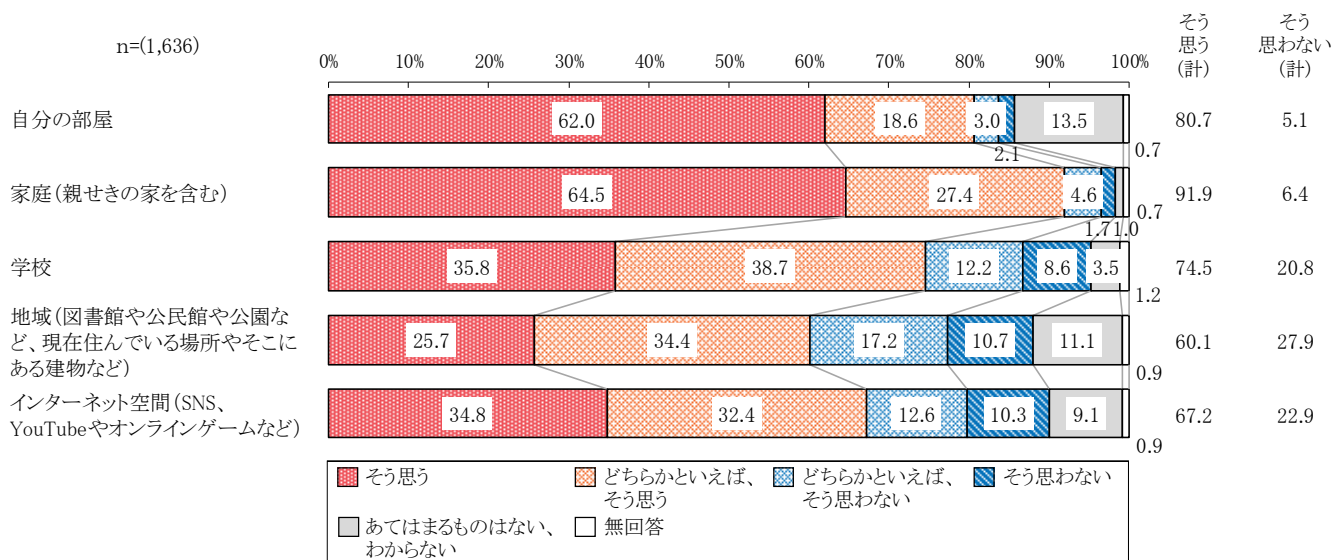
問4 次の場所は、今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、安心できる場所）になっていますか。（それぞれの質問について、あてはまる番号を1つお答えください）

“自分の部屋”、“家庭（親せきの家を含む）”、“学校”、“地域（図書館や公民館や公園など、現在住んでいる場所やそこにある建物など）”、“インターネット空間（SNS、YouTube やオンラインゲームなど）”の5つの場所について、それぞれ、回答者にとって居場所（ほっとできる場所、安心できる場所）になっているかを聞いた（図表 2-1-1-4-1）。

「そう思う」との回答は、“家庭”（64.5%），“自分の部屋”（62.0%）の2つの場所で6割を超え、「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『そう思う（計）』は、“家庭”は91.9%、“自分の部屋”は80.7%が居場所になっていると感じている。なお、“自分の部屋”に対して「あてはまるものはない、わからない」との回答は13.5%であり、1割を超える回答者に“自分の部屋”に相当する場所がない可能性も考えられる。

“家庭”、“自分の部屋”に次いで『そう思う（計）』が高いのは“学校”で74.5%、さらに“インターネット空間”（67.2%）と続き、5つの場所の中で居場所になっていると思う回答が最も少ないのは“地域”（60.1%）であった。

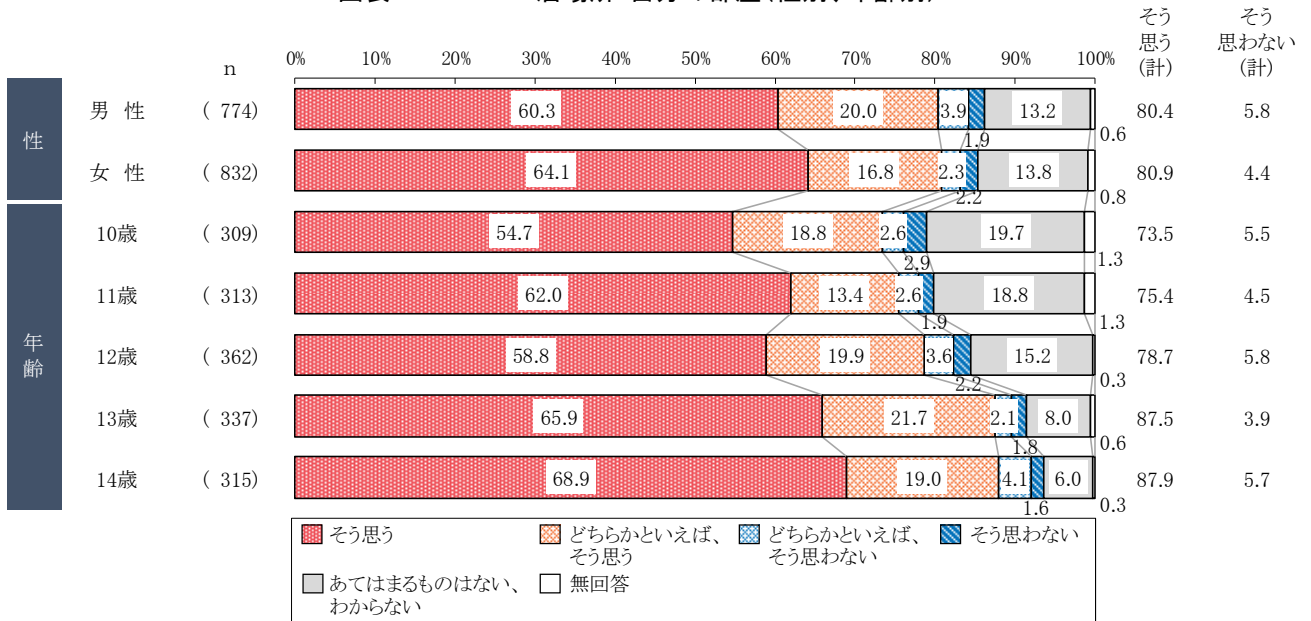
図表 2-1-1-4-1 居場所



“自分の部屋”が居場所となっているかについて、性別にみると（図表 2-1-1-4-2）、男女で大きな差はなく、『そう思う（計）』は、男性 80.4%、女性 80.9%である。

年齢別にみると（図表 2-1-1-4-2）、年齢が高い層ほど『そう思う（計）』が多くなっており、13歳及び14歳で9割弱（13歳 87.5%、14歳 87.9%）であるのに対し、12歳で78.7%、11歳75.4%、10歳73.5%となっている。一方、「あてはまるものはない、わからない」との回答は年齢が低い層ほど多く、10歳（19.7%）及び11歳（18.8%）では2割弱となっている。

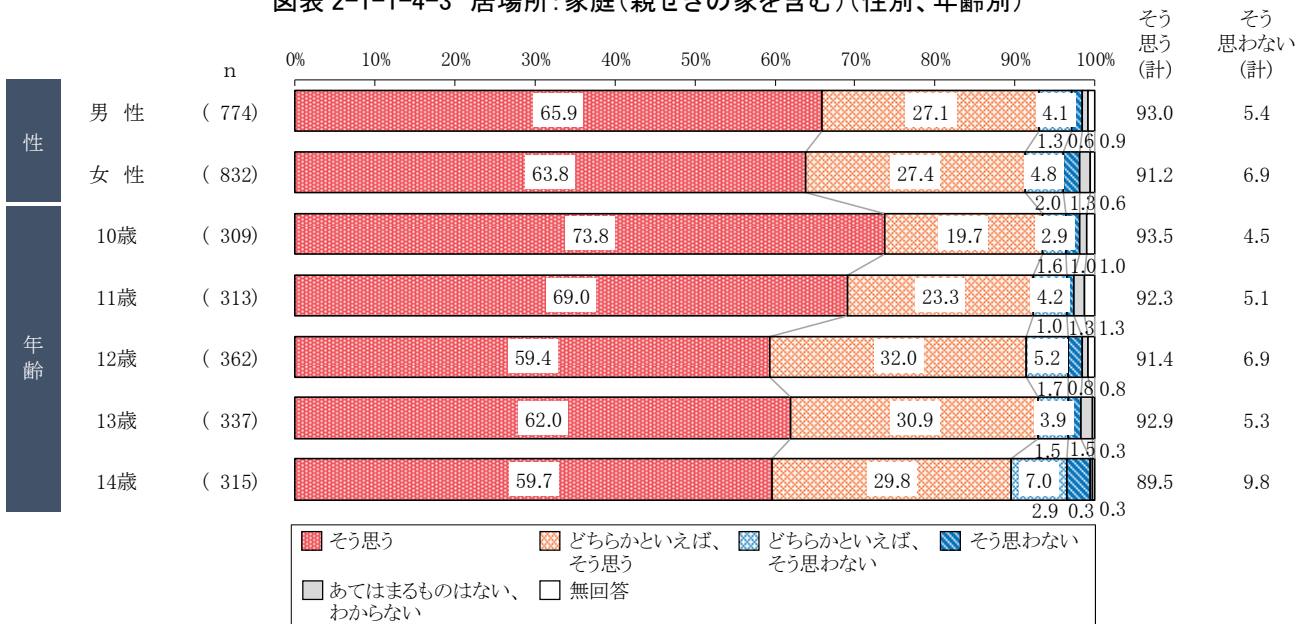
図表 2-1-1-4-2 居場所:自分の部屋(性別、年齢別)



“家庭（親せきの家を含む）”が居場所となっているかについて、性別にみると（図表 2-1-1-4-3）、男女で大きな差はなく、『そう思う（計）』は、男性 93.0%、女性 91.2%である。

年齢別にみると（図表 2-1-1-4-3）、「そう思う」との回答は10歳で73.8%、11歳で69.0%であるのに対し、12歳から14歳では6割前後（12歳 59.4%、13歳 62.0%、14歳 59.7%）と開きがみられる。「どちらかといえば、そう思う」を含めた『そう思う（計）』では、10歳（93.5%）を筆頭に9割前後となっている。

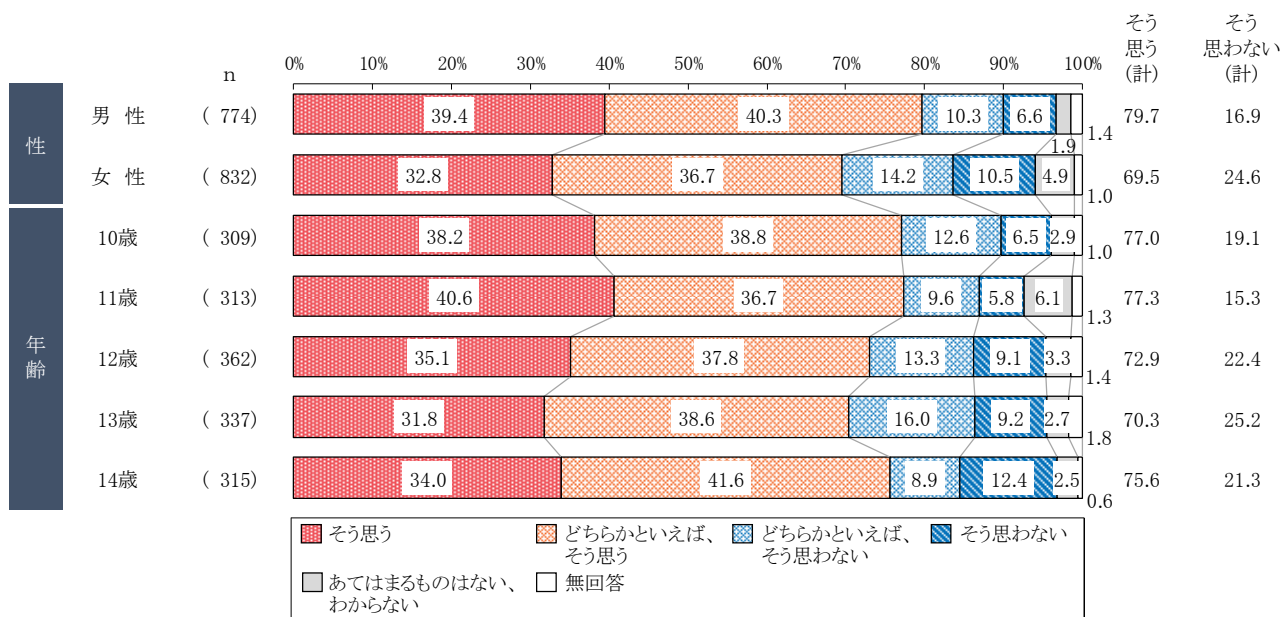
図表 2-1-1-4-3 居場所:家庭(親せきの家を含む)(性別、年齢別)



“学校”が居場所となっているかに関する回答を性別にみると（図表 2-1-1-4-4）、『そう思う（計）』は、男性（79.7%）は約8割であり、女性（69.5%）よりも約10ポイント高く、差がみられる。女性の『そう思わない（計）』（「そう思わない」+「どちらかといえば、そう思わない」）は24.6%であり、四人に一人は学校が居場所と感じられていない。

年齢別にみると（図表 2-1-1-4-4）、『そう思う（計）』はいずれの年齢層でも7割台であるが、『そう思わない（計）』は13歳で25.2%、12歳で22.4%、14歳では21.3%であり、12歳以上の年齢層では学校が居場所と感じられない人が2割を超えている。

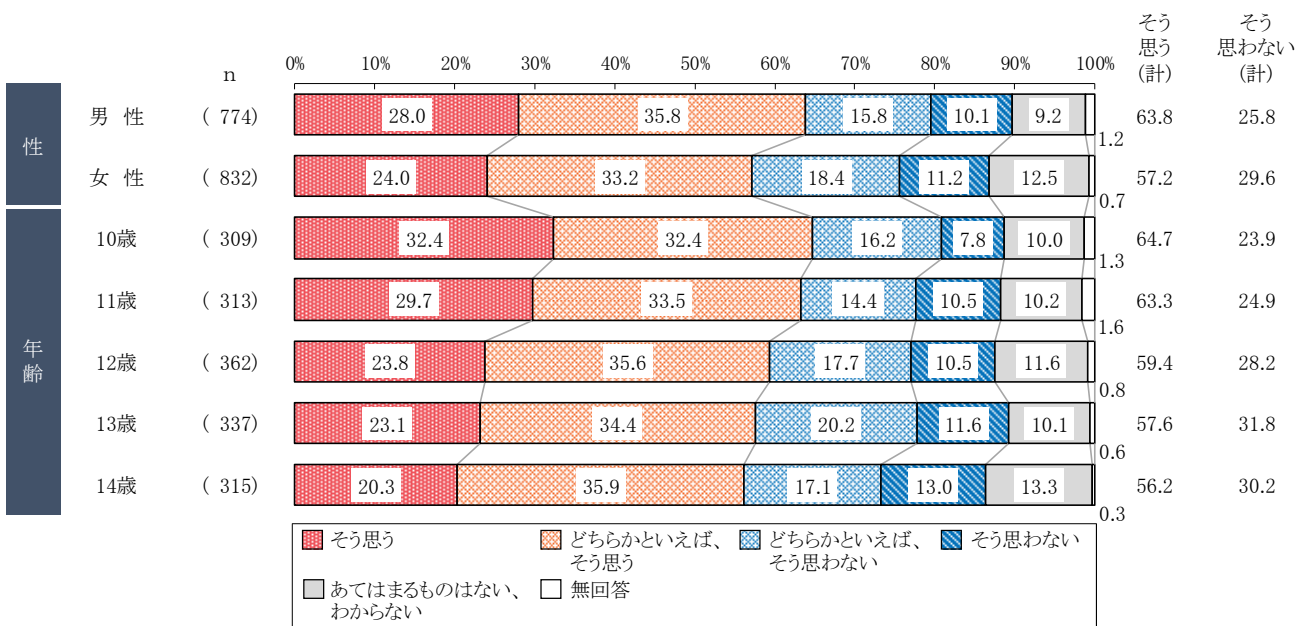
図表 2-1-1-4-4 居場所:学校(性別、年齢別)



“地域（図書館や公民館や公園など、現在住んでいる場所やそこにある建物など）”が居場所となっているかについて、性別にみると（図表 2-1-1-4-5）、『そう思う（計）』は、男性（63.8%）は女性（57.2%）よりも約7ポイント多くやや開きがみられる。『そう思わない（計）』は、女性で29.6%、男性で25.8%となっており、男女とも2割半を超える人に地域が居場所と感じられていない。

年齢別にみると（図表 2-1-1-4-5）、『そう思う（計）』は年齢が低い層ほど高い傾向がみられ、10歳（64.7%）及び11歳（63.3%）では6割を超えるのに対し、12歳以上では6割を下回る（12歳59.4%、13歳57.6%、14歳56.2%）。また、『そう思わない（計）』は、13歳で31.8%、14歳で30.2%であり、13歳以上の年齢層では地域が居場所と感じられない人が3割を超えている。

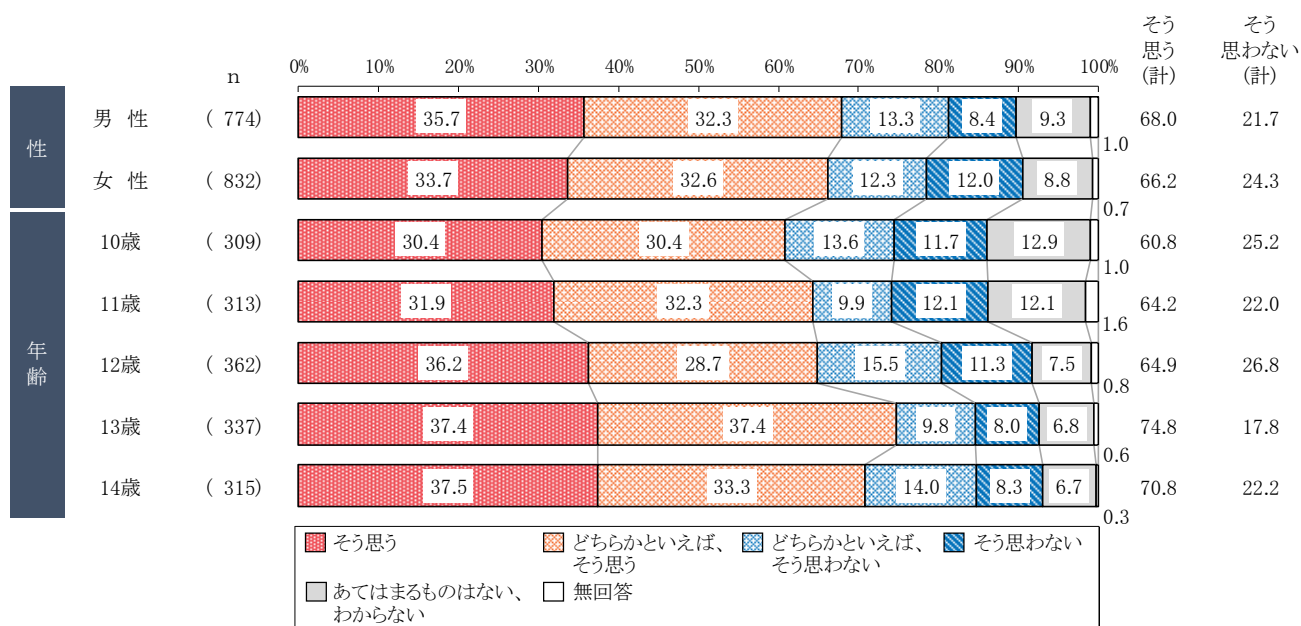
図表 2-1-1-4-5 居場所：地域（性別、年齢別）



“インターネット空間（SNS、YouTube やオンラインゲームなど）” が居場所となっているかについて性別にみると（図表 2-1-1-4-6）、男女で大きな差はなく、『そう思う（計）』は、男性 68.0%、女性 66.2% である。

年齢別にみると（図表 2-1-1-4-6）、『そう思う（計）』は、13 歳が 74.8% で最も高く、次いで 14 歳の 70.8% で、13 歳以上では 7 割を超えているのに対し、10 歳から 12 歳では 6 割台（10 歳 60.8%、11 歳 64.2%、12 歳 64.9%）となっている。

図表 2-1-1-4-6 居場所：インターネット空間（性別、年齢別）



2. 人とのつながり

(1) 孤独感（間接質問）（問5）

本調査では、孤独感について把握するため、「直接質問」、「間接質問」の2種類の質問を行っており、本問は後者の「間接質問」である。

本問は、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）のラッセルが、孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定するために考案した「UCLA孤独感尺度」¹の3項目短縮版の表現を英国国家統計局（Office for National Statistics）が子ども向けに調整²したものを参考に作成したものであり、以下の3つの項目への回答をスコア化し、その合計スコアが高いほど孤独感が高いと評価する内容となっている³。

問5 以下のア)～ウ)の項目について、あなたはどれくらいよく感じていますか。（それぞれの質問について、あてはまる番号を1つお答えください）

ア) 自分には話せる人がいないと感じることがある

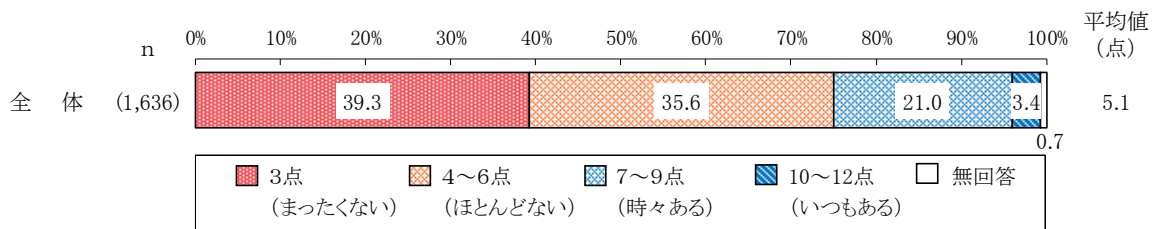
イ) 自分はまわりから、取りのこされていると感じることがある

ウ) 自分はひとりぼっちだと感じることをある

※ア)～ウ)の選択肢はいずれも、「まったくない」、「ほとんどない」、「時々ある」、「いつもある」

本報告書では、内閣府「人々のつながりに関する基礎調査」を参考に、「まったくない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「いつもある」を4点としてスコア化し、その合計スコアについて便宜的に「3点」（まったくない）、「4～6点」（ほとんどない）、「7～9点」（時々ある）、「10～12点」（いつもある）の4区分に整理している。

図表 2-1-2-1-1 孤独感(間接質問)

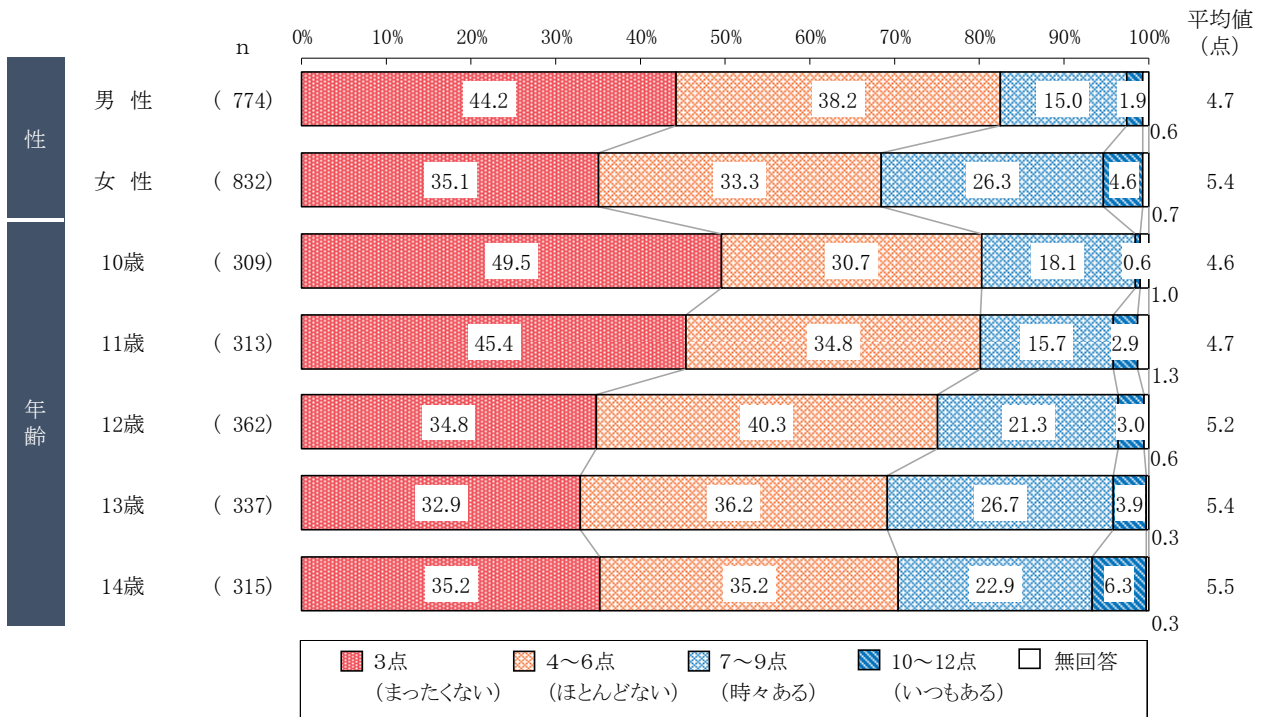


¹ Russell DW. UCLA loneliness scale (version 3): reliability, validity, and factor structure. J Pers Assess. 1996;66(1):20-40.

² Office for National Statistics: Measuring loneliness: guidance for use of the national indicators on surveys: 5 December 2018 (訳出に当たっては「西村 多久磨、村上 達也、櫻井 茂男: 子ども用孤独感尺度 (Five-LSC) の作成: 心理学研究 2015年 第86巻 第4号 pp. 368-373」を参考にした。)

³ 質問に「孤独」という言葉を使用していないことから「間接質問」と呼称している。

図表 2-1-2-1-2 孤独感(間接質問)(性別、年齢別)

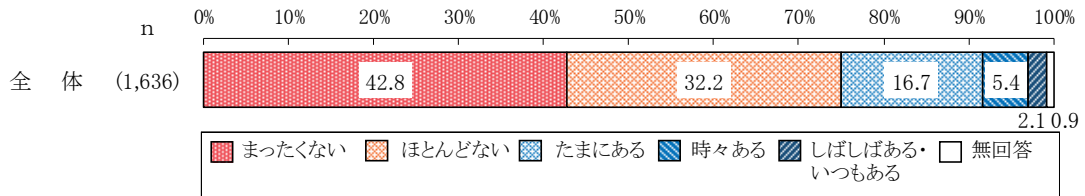


(2) 孤独感 (直接質問) (問6)

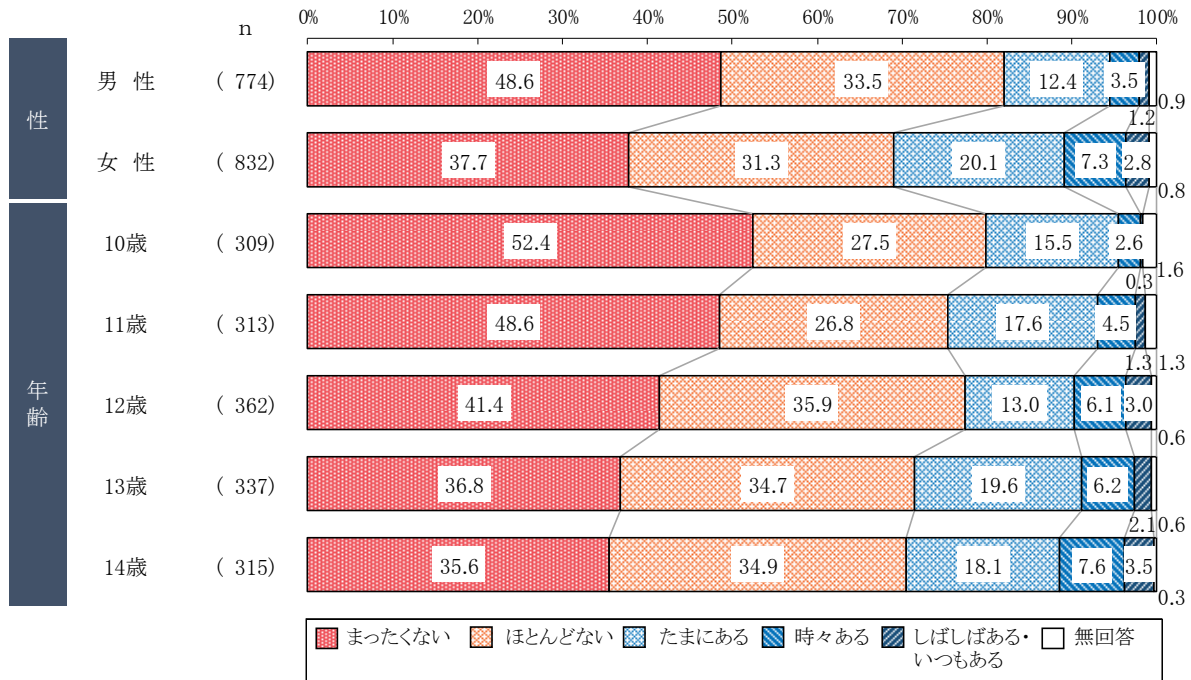
問6 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。(1つだけ)

本問は、孤独感について把握するための「直接質問」である。

図表 2-1-2-2-1 孤独感(直接質問)



図表 2-1-2-2-2 孤独感(直接質問)(性別、年齢別)



3. 他者との関わり方

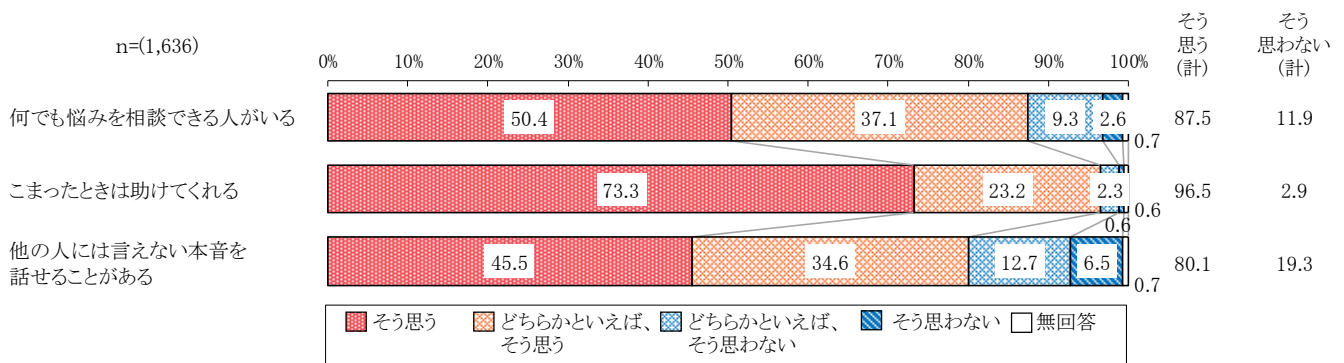
(1) 家族・親族との関わり方 (問7)

問7 家族・親せきとあなたのかかわりは、どのようなものですか。(それぞれの質問について、あてはまる番号を1つお答えください)

回答者の他者との関わり方のうち、家族・親族との関わり方について、“何でも悩みを相談できる人がいる”、“こまったときは助けてくれる”、“他の人には言えない本音を話せることがある”の3項目を「そう思う」から「そう思わない」までの4段階で聞いた(図表2-1-3-1-1)。

『そう思う(計)』(「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う」)⁴をみると、“こまったときは助けてくれる”は96.5%で、ほぼ全数に近く、“何でも悩みを相談できる人がいる”では87.5%、“他の人には言えない本音を話せることがある”では80.1%となっている。中でも、“こまったときは助けてくれる”の「そう思う」との回答は73.3%であり、他の2項目よりも特に高い。一方で、『そう思わない(計)』(「そう思わない」+「どちらかといえば、そう思わない」)は、“こまったときは助けてくれる”では2.9%と少数であるのに対し、“他の人には言えない本音を話せることがある”では19.3%、“何でも悩みを相談できる人がいる”では11.9%であり、1~2割の人には、家族・親族が本音や悩みを何でも話せる関わり方になっていない可能性がある。

図表2-1-3-1-1 家族・親族との関わり方

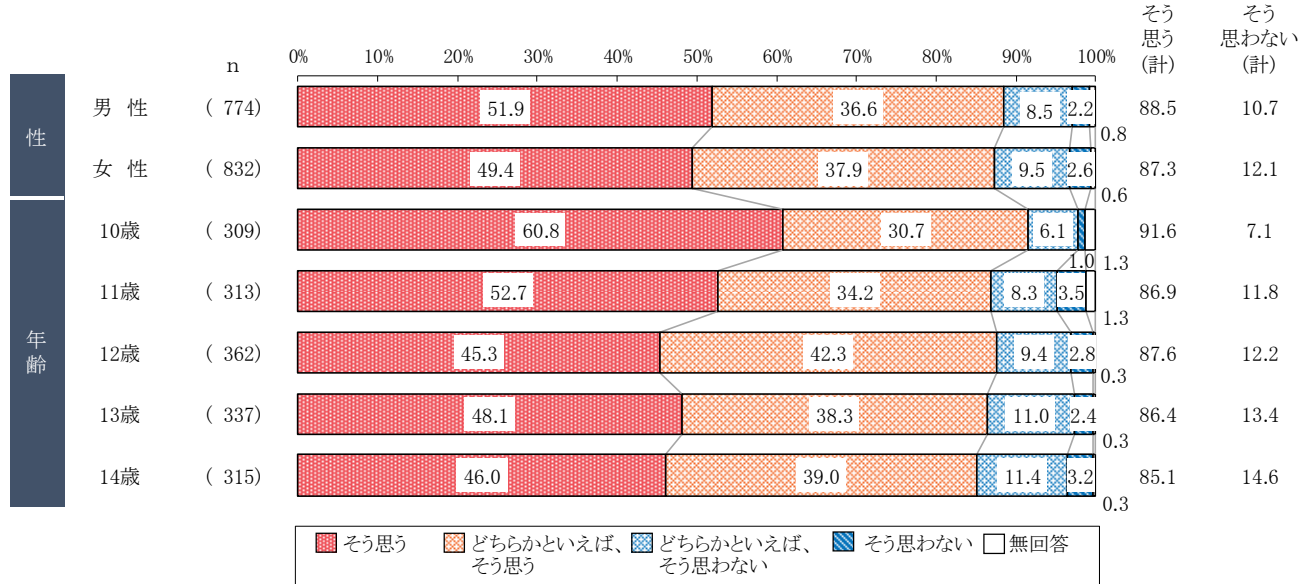


⁴ 『そう思う(計)』及び『そう思わない(計)』の内訳は、問7から問10まで同様であるため、問8から問10までの記載は割愛する。内訳の詳細は、『そう思う(計)』が「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」の合計であり、『そう思わない(計)』が「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」の合計である。

家族・親族との関わり方で“何でも悩みを相談できる人がいる”について性別にみると（図表 2-1-3-1-2）、男女で大きな差はなく、『そう思う（計）』は、男性 88.5%、女性 87.3%である。

年齢別にみると（図表 2-1-3-1-2）、『そう思う（計）』は、10歳（91.6%）で9割を超え、11歳から14歳では8割台となっている。年齢が高い層ほど『そう思わない（計）』は高くなる傾向がみられる。

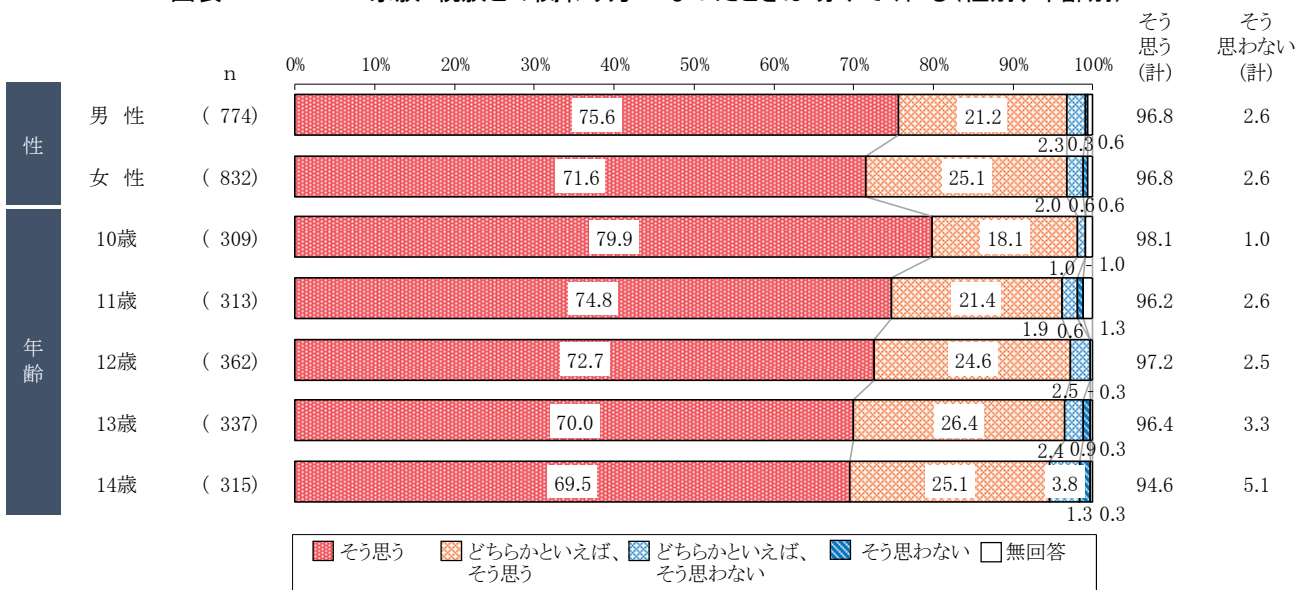
図表 2-1-3-1-2 家族・親族との関わり方:何でも悩みを相談できる人がいる(性別、年齢別)



家族・親族との関わり方における“こまったときは助けてくれる”について、性別にみると（図表 2-1-3-1-3）、男女差はみられず、男女とも『そう思う（計）』が同率の 96.8%となっている。「そう思う」との回答も、男女ともに7割台で大きな差はみられない（男性 75.6%、女性 71.6%）。

年齢別にみると（図表 2-1-3-1-3）、「そう思う」との回答は、年齢が高い層ほど低くなる傾向がみられ、10歳で79.9%であるのに対し、14歳では69.5%となっている。『そう思う（計）』は、いずれの年齢層でも9割台であるが、10歳（98.1%）で最も高く、14歳（94.6%）で最も低い。

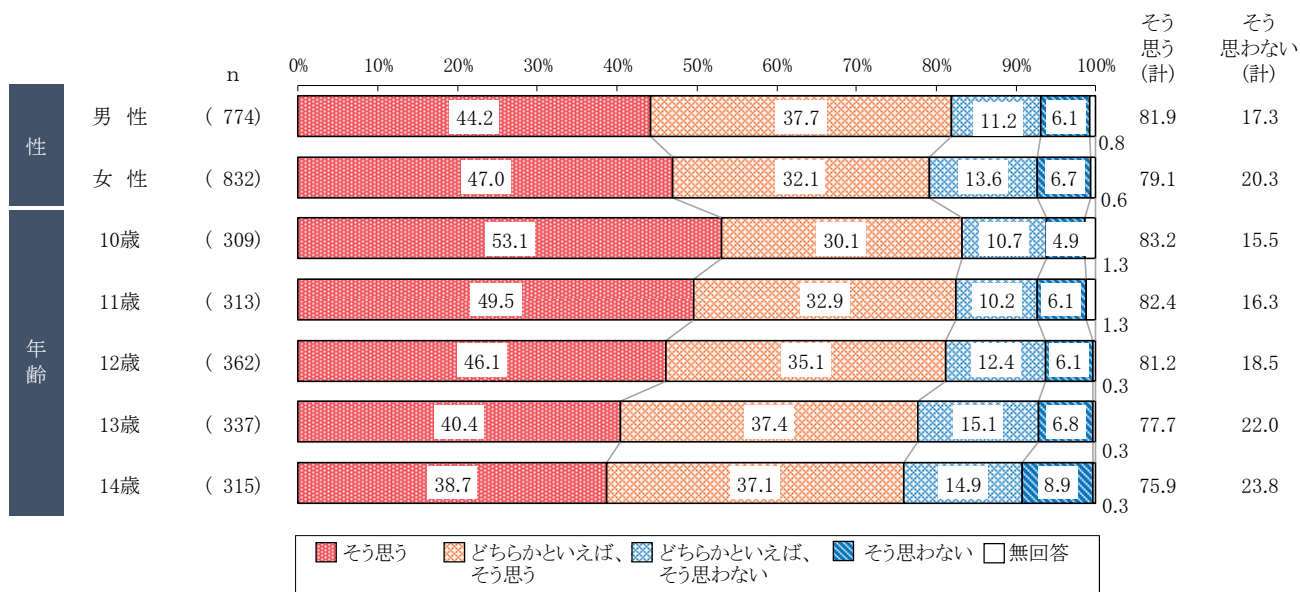
図表 2-1-3-1-3 家族・親族との関わり方:こまったときは助けてくれる(性別、年齢別)



家族・親族との関わり方における“他の人には言えない本音を話せることがある”について、性別にみると（図表 2-1-3-1-4）、男女で大きな差はみられず、『そう思う（計）』は8割前後（男性 81.9%、女性 79.1%）となっている。

年齢別にみると（図表 2-1-3-1-4）、「そう思う」との回答は年齢が高い層ほど低くなっており、10歳で53.1%であるのに対し、14歳では38.7%と開きがみられる。同様に『そう思う（計）』についても年齢が高い層ほど低く、10歳から12歳で8割台であるのに対し、13歳及び14歳では7割台である。『そう思わない（計）』については、13歳（22.0%）、14歳（23.8%）では2割を超える。

図表 2-1-3-1-4 家族・親族との関わり方：他の人には言えない本音を話せることがある（性別、年齢別）



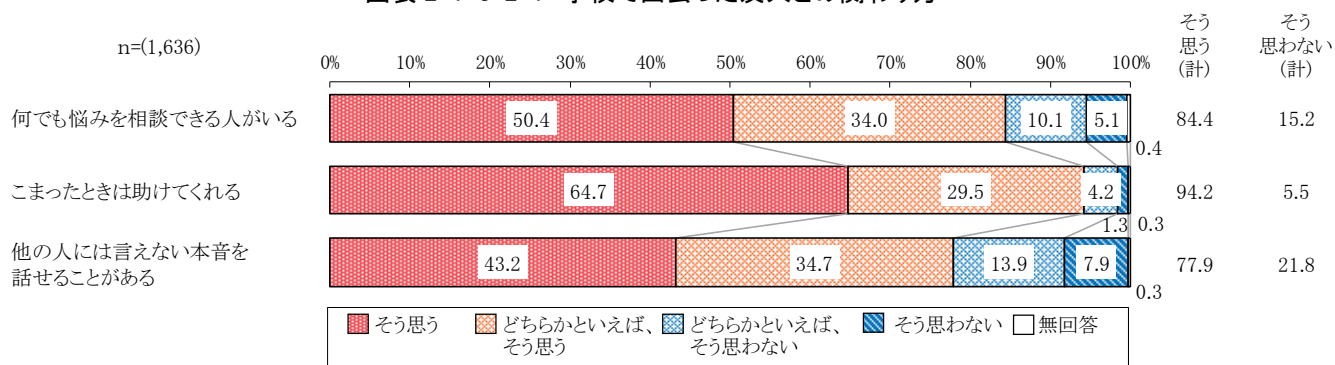
(2) 学校で出会った友人との関わり方 (問8)

問8 学校で出会った友だち（現在通っている学校やこれまでに通っていた学校の友だちなど）と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。（それぞれの質問について、あてはまる番号を1つお答えください）

回答者の他者との関わり方に関して、学校で出会った友人（現在通っている学校やこれまでに通っていた学校の友だちなど）との関わり方について、“何でも悩みを相談できる人がある”、“こまったときは助けてくれる”、“他の人には言えない本音話せることがある”の3項目を聞いた（図表 2-1-3-2-1）。

『そう思う（計）』についてみると、“こまったときは助けてくれる”は94.2%で3項目中最も高く、“何でも悩みを相談できる人がある”は84.4%、“他の人には言えない本音話せることがある”は77.9%となっている。『そう思わない（計）』については、“こまったときは助けてくれる”は5.5%であるのに対し、“他の人には言えない本音話せることがある”は21.8%で2割を超え、また“何でも悩みを相談できる人がある”は15.2%であり、1割半～2割の人には学校で出会った友人が本音や悩みを何でも話せる関わり方になっていない可能性がある。

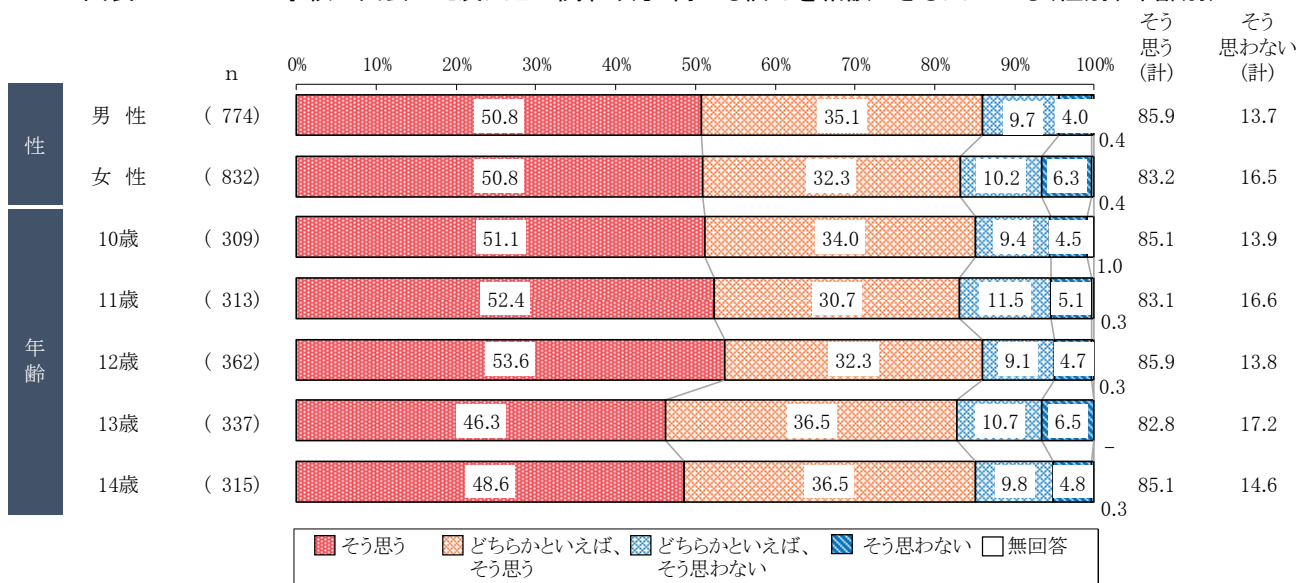
図表 2-1-3-2-1 学校で出会った友人との関わり方



学校で出会った友人との関係で“何でも悩みを相談できる人がある”について性別にみると（図表 2-1-3-2-2）、男女で大きな差はみられず、『そう思う（計）』は、男性85.9%、女性83.2%である。

年齢別にみると（図表 2-1-3-2-2）、年齢層による大きな差はみられず、いずれの年齢層でも8割台となっている。

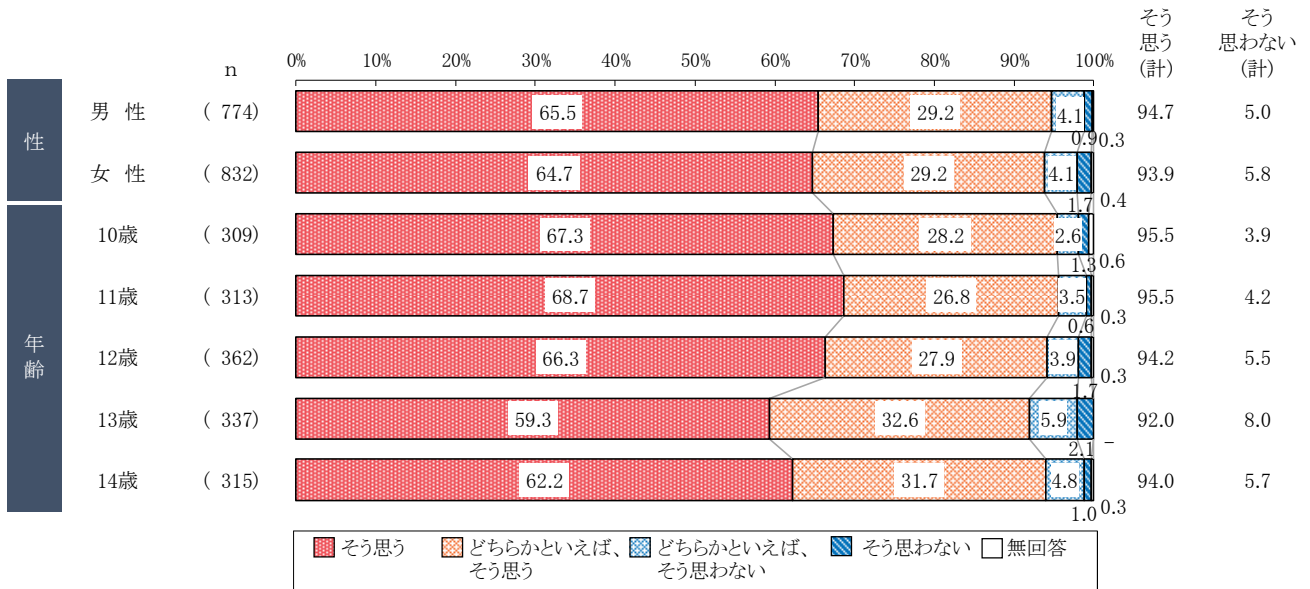
図表 2-1-3-2-2 学校で出会った友人との関わり方：何でも悩みを相談できる人がある（性別、年齢別）



学校で出会った友人との関わり方における“こまったときは助けてくれる”について、性別にみると（図表 2-1-3-2-3）、男女で大きな差はみられず、『そう思う（計）』は、男性 94.7%、女性 93.9%である。

年齢別にみると（図表 2-1-3-2-3）、年齢層による大きな差はみられず、いずれの年齢層でも 9 割台となっている。

図表 2-1-3-2-3 学校で出会った友人との関わり方:こまったときは助けてくれる(性別、年齢別)

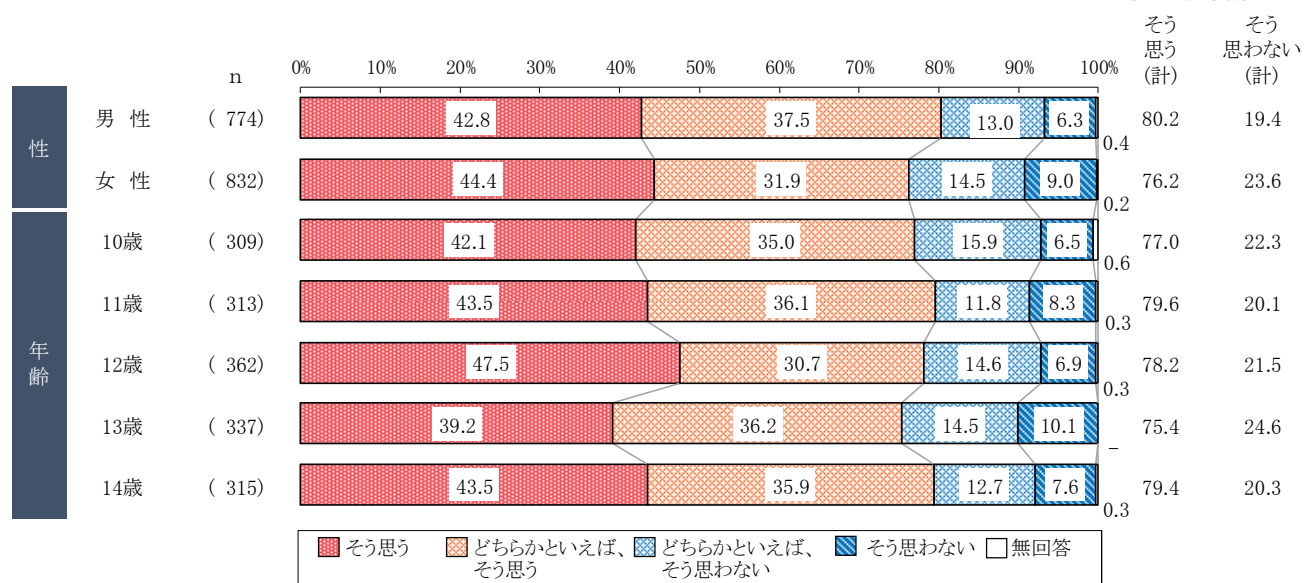


学校で出会った友人との関わり方における“他の人には言えない本音を話せることがある”について性別にみると（図表 2-1-3-2-4）、『そう思う（計）』は、男性 80.2%、女性 76.2%であり、8 割前後となっている。なお、『そう思わない（計）』は、女性は 23.6%と 2 割を超える。

年齢別にみると（図表 2-1-3-2-4）、『そう思う（計）』は、いずれの年齢層でも 7 割台で、年齢層による大きな差はみられない。

図表 2-1-3-2-4 学校で出会った友人との関わり方:他の人には言えない本音を話せることがある

(性別、年齢別)



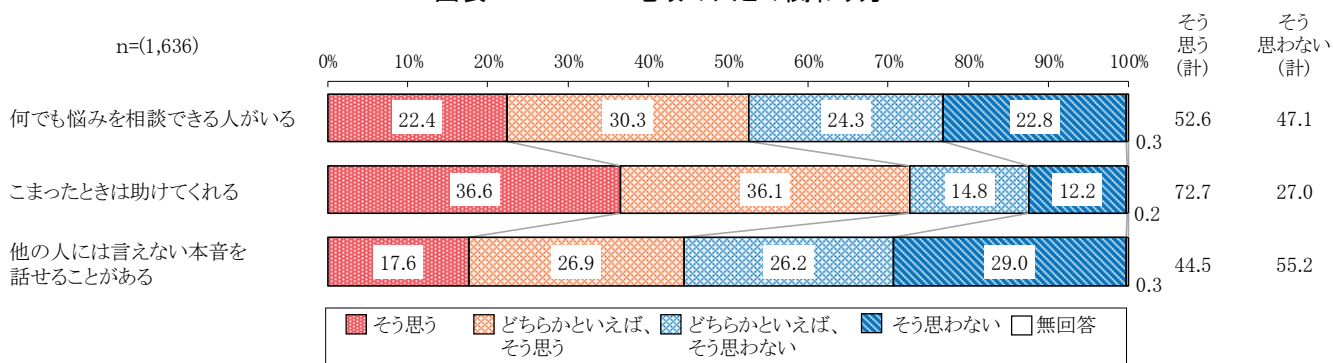
(3) 地域の人との関わり方 (問9)

問9 地域の人(近所の人、塾や習い事での友だちなど)とあなたのかかわりは、どのようなものですか。(それぞれの質問について、あてはまる番号を1つお答えください)

回答者の他者との関わり方に関して、地域の人(近所の人、塾や習い事での友だちなど)との関わり方について、“何でも悩みを相談できる人がある”、“こまったときは助けてくれる”、“他の人には言えない本音話せることがある”の3項目を聞いた(図表2-1-3-3-1)。

『そう思う(計)]をみると、“こまったときは助けてくれる”は7割を超える(72.7%)が、“何でも悩みを相談できる人がある”は約半数の52.6%、“他の人には言えない本音話せることがある”は44.5%と半数を下回っている。

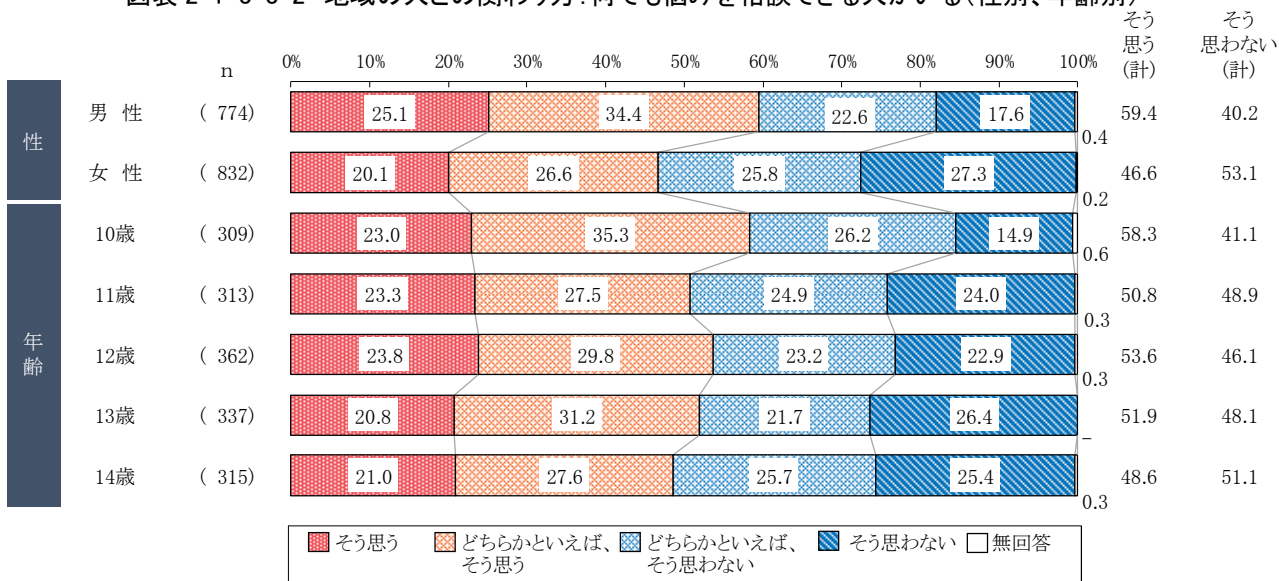
図表 2-1-3-3-1 地域の人との関わり方



地域の人との関わり方における“何でも悩みを相談できる人がある”について、性別にみると(図表2-1-3-3-2)、男性は『そう思う(計)]が約6割の59.4%で、『そう思わない(計)](40.2%)を上回っているのに対し、女性は『そう思う(計)]は46.6%、『そう思わない(計)]が53.1%で半数を超えており、男女で差がみられる。

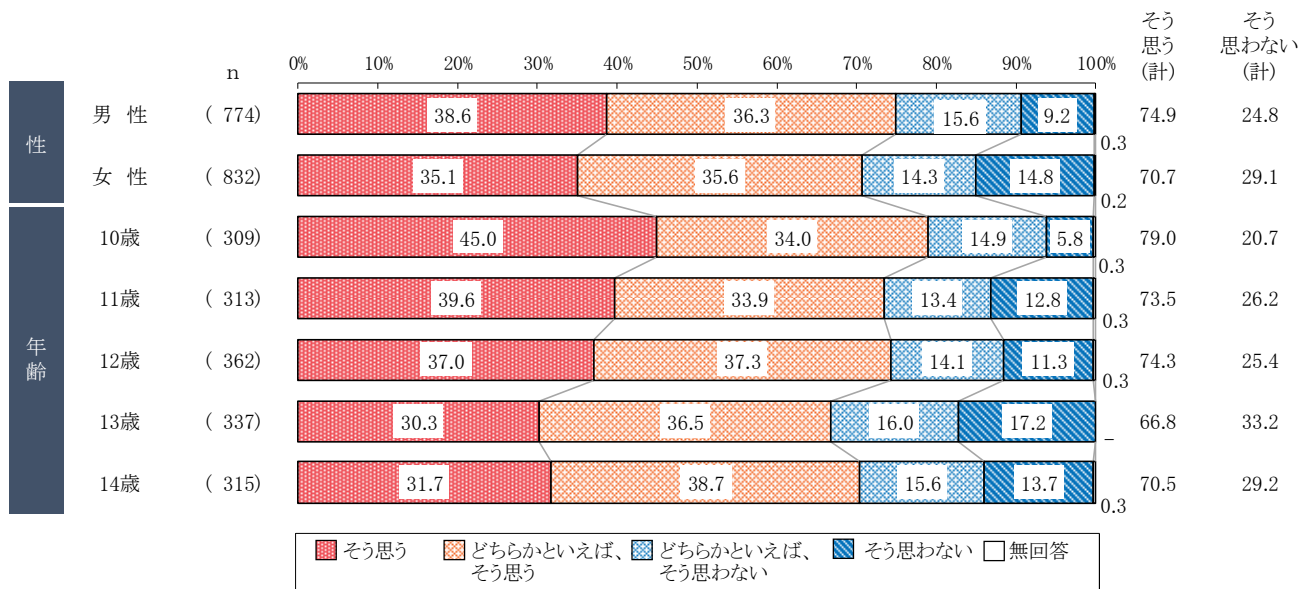
年齢別にみると(図表2-1-3-3-2)、10歳で『そう思う(計)]が6割弱の58.3%であるのに対し、11歳から14歳は5割前後となっている。

図表 2-1-3-3-2 地域の人との関わり方:何でも悩みを相談できる人がある(性別、年齢別)



地域の人との関わり方における“こまったときは助けてくれる”について、性別にみると（図表 2-1-3-3-3）、男女で大きな差はみられず、『そう思う（計）』は、男性 74.9%、女性 70.7%となっている。年齢別にみると（図表 2-1-3-3-3）、『そう思う（計）』は、10歳で8割弱の79.0%で最も高く、11歳（73.5%）、12歳（74.3%）、14歳（70.5%）は7割台、13歳（66.8%）では6割台となっている。

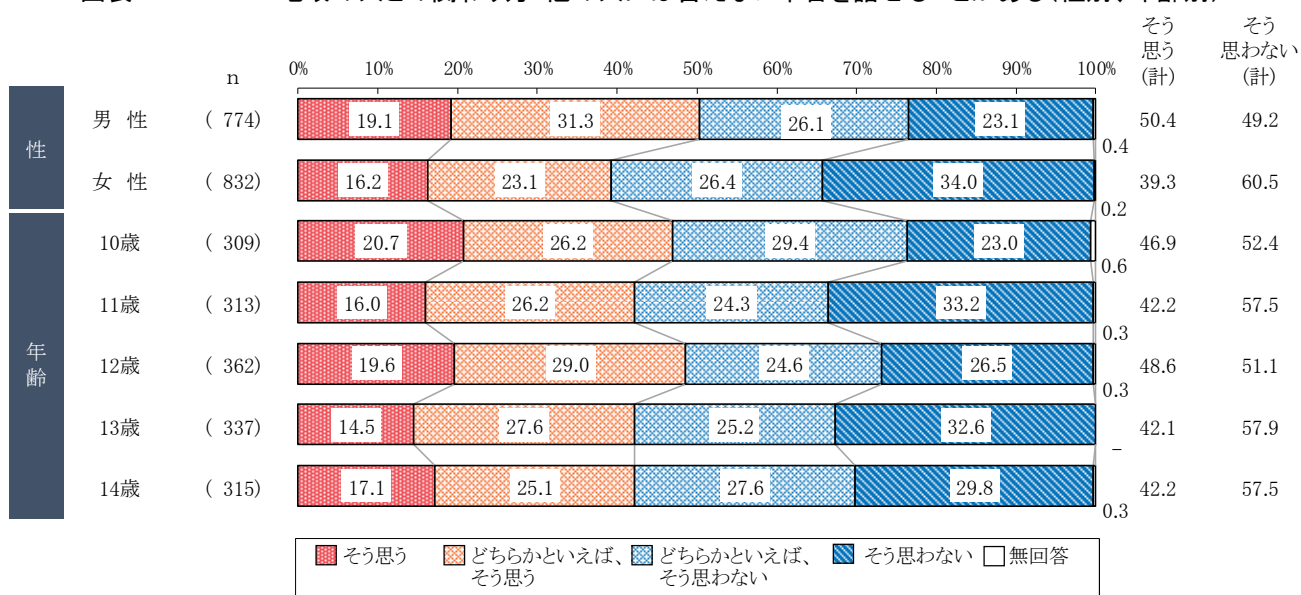
図表 2-1-3-3-3 地域の人との関わり方:こまったときは助けてくれる(性別、年齢別)



地域の人との関わり方における“他の人には言えない本音を話せることがある”について、性別にみると（図表 2-1-3-3-4）、男性は『そう思う（計）』が約半数（50.4%）であるのに対し、女性は39.3%となっており、男女で差がみられる。女性の『そう思わない（計）』は6割を超える（60.5%）。

年齢別にみると（図表 2-1-3-3-4）、年齢層による大きな差はみられず、『そう思う（計）』はいずれの年齢層でも4割台となっている。

図表 2-1-3-3-4 地域の人との関わり方:他の人には言えない本音を話せることがある(性別、年齢別)



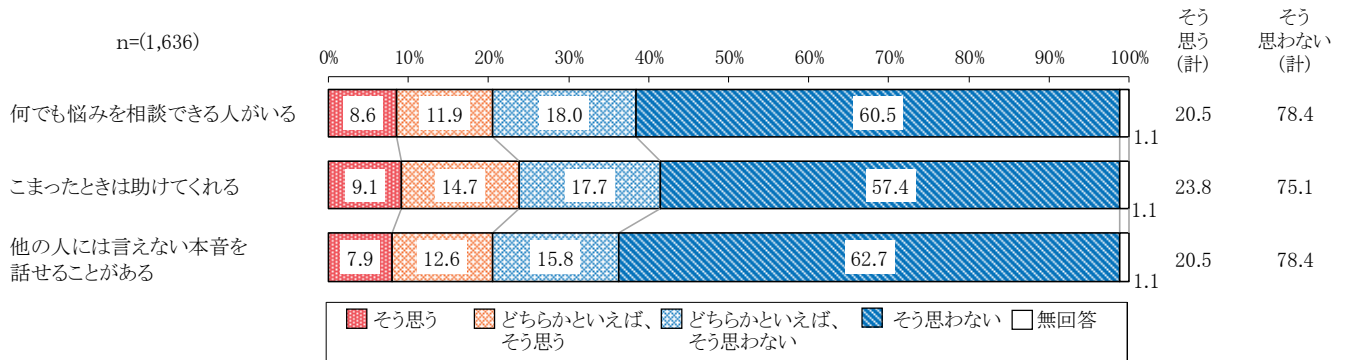
(4) インターネット上での他者との関わり方 (問 10)

問 10 インターネット上における人やグループ（実際には会ったことがなかったり、または、何回か会ったことはあっても、基本的にはインターネット中心の付き合いの人やグループ）と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。（それぞれの質問について、あてはまる番号を1つお答えください）

回答者の他者との関わり方に関して、インターネット上での他者（実際には会ったことがなかったり、または、何回か会ったことはあっても、基本的にはインターネット中心の付き合いの人やグループ）との関わり方について、“何でも悩みを相談できる人がいる”、“こまったときは助けてくれる”、“他の人には言えない本音を話せることがある”の3項目を聞いた（図表 2-1-3-4-1）。

3項目のいずれも、『そう思う（計）』は2割台（“何でも相談できる”20.5%、“助けてくれる”23.8%、“本音を話せる”20.5%）であり、『そう思わない（計）』が7割台を占める。

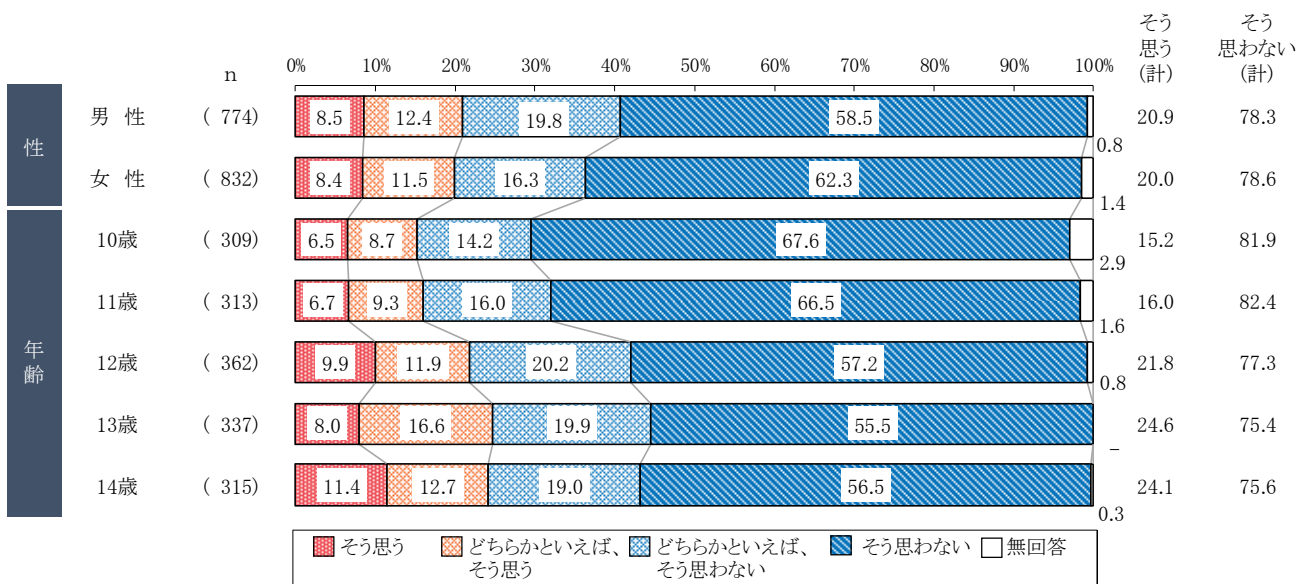
図表 2-1-3-4-1 インターネット上での他者との関わり方



インターネット上での他者との関わり方における“何でも悩みを相談できる人がいる”について、性別にみると（図表 2-1-3-4-2）、男女で大きな差はみられず、『そう思う（計）』は、男性 20.9%、女性 20.0%となっている。

年齢別にみると（図表 2-1-3-4-2）、『そう思う（計）』は、12歳から14歳では2割を超える（12歳 21.8%、13歳 24.6%、14歳 24.1%）のに対し、10歳は15.2%、11歳は16.0%であり、年齢が高い層で高くなっている傾向がみられる。

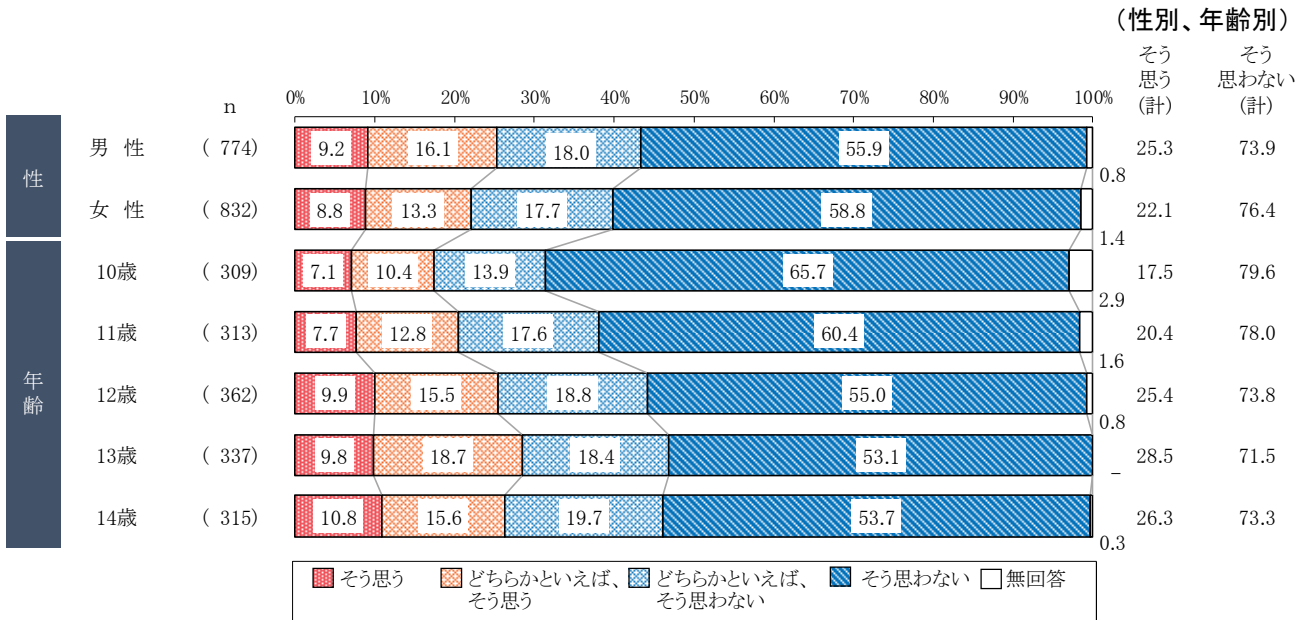
図表 2-1-3-4-2 インターネット上での他者との関わり方：何でも悩みを相談できる人がいる（性別、年齢別）



インターネット上での他者との関わり方における“こまったときは助けてくれる”について、性別にみると（図表 2-1-3-4-3）、男女で大きな差はみられず、『そう思う（計）』は、男性 25.3%、女性 22.1%となっている。

年齢別にみると（図表 2-1-3-4-3）、『そう思う（計）』は、10歳では 17.5%であるのに対し、13歳では 28.5%、14歳では 26.3%、12歳では 25.4%と開きがみられる。

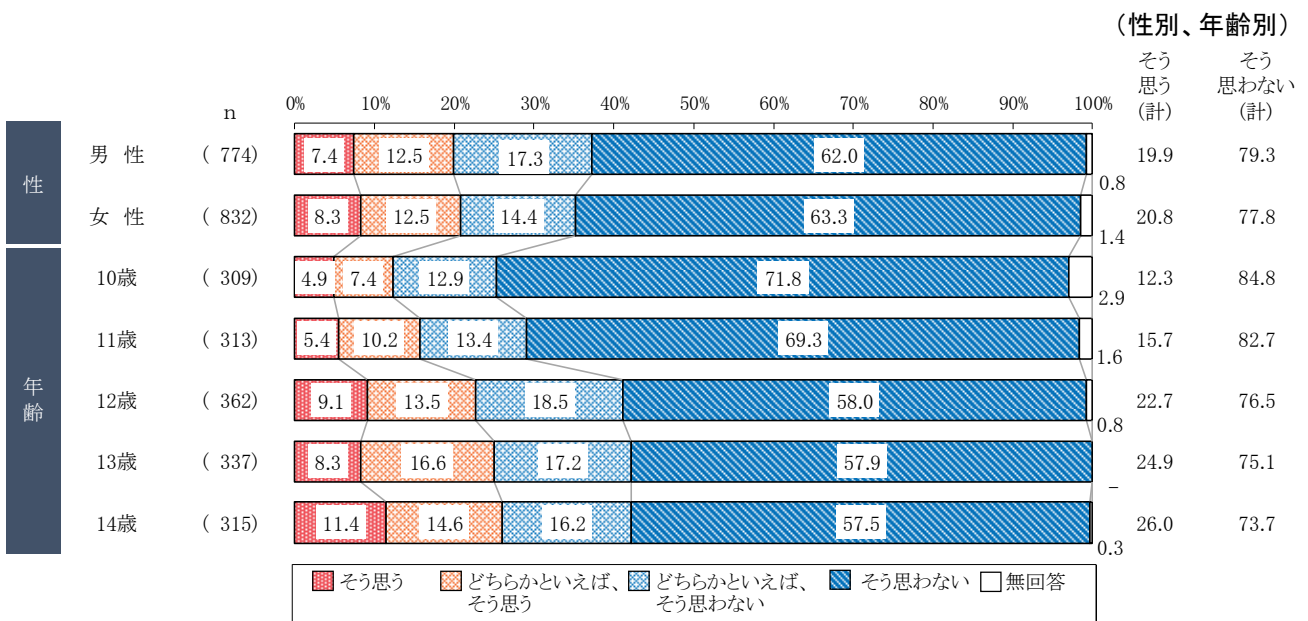
図表 2-1-3-4-3 インターネット上での他者との関わり方:こまったときは助けてくれる



インターネット上での他者との関わり方における“他の人には言えない本音を話せることがある”について、性別にみると（図表 2-1-3-4-4）、男女で大きな差はみられず、『そう思う（計）』は、男性 19.9%、女性 20.8%となっている。

年齢別にみると（図表 2-1-3-4-4）、『そう思う（計）』は、年齢が高くなるほど高い傾向がみられ、11歳以下では1割台（10歳 12.3%、11歳 15.7%）であるのに対し、12歳以上では2割台（12歳 22.7%、13歳 24.9%、14歳 26.0%）である。

図表 2-1-3-4-4 インターネット上での他者との関わり方:他の人には言えない本音を話せることがある



(5) 他者との付き合い方 (問 11)

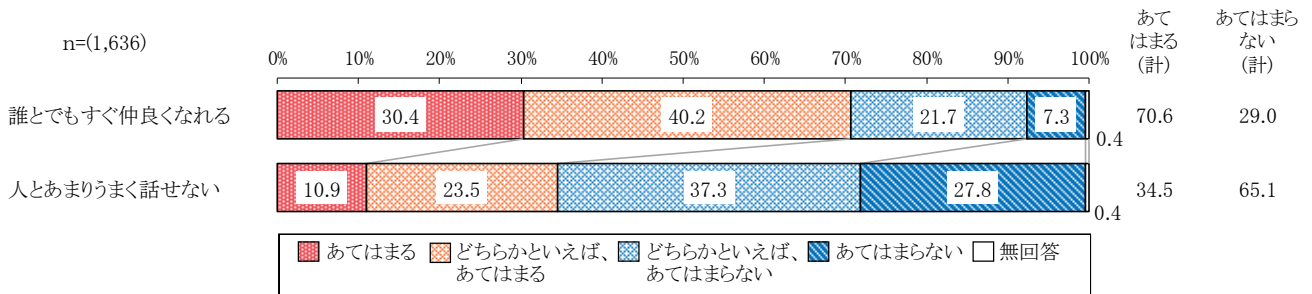
問 11 あなたは他の人と付き合う時、次のようなことがどのくらいあてはまりますか。(それぞれの質問について、あてはまる番号を1つお答えください)

回答者の他者との関わり方に関して“だれとでもすぐに仲良くなれる”こと、“人とあまりうまく話せない”ことにあてはまると思うかを聞いた (図表 2-1-3-5-1)。

“だれとでもすぐに仲良くなれる”ことに「あてはまる」と答えた回答者は 30.4%で、「どちらかといえば、あてはまる」(40.2%)を合わせると、約7割の 70.6%が肯定的な認識を示している。一方、「あてはまらない」は 7.3%、「どちらかといえば、あてはまらない」は 21.7%で、合わせると約3割 (29.0%) は否定的な認識を示している。

“人とあまりうまく話せない”ことに「あてはまる」と答えた回答者は 10.9%で、「どちらかといえば、あてはまる」(23.5%)を合わせた 34.5%が、あまりうまく話せないとの認識を示している。一方、「あてはまらない」は 27.8%、「どちらかといえば、あてはまらない」は 37.3%で、合わせて 65.1%はあまりうまく話せないことがないとの認識を示している。

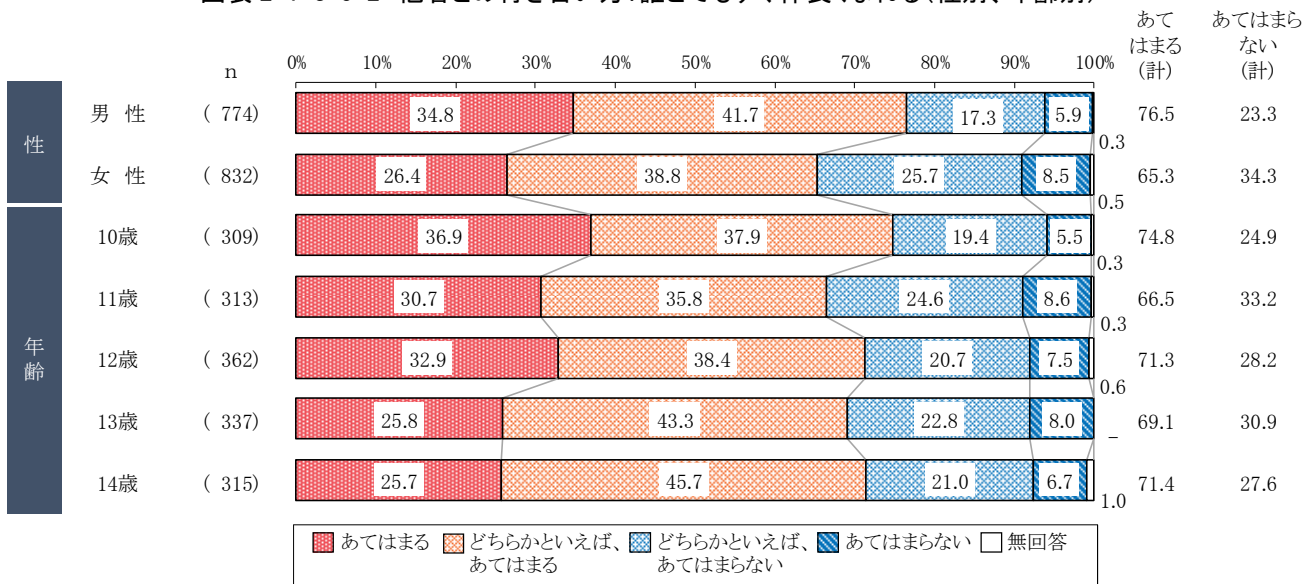
図表 2-1-3-5-1 他者との付き合い方



“だれとでもすぐに仲良くなれる”の回答を性別にみると（図表 2-1-3-5-2）、「あてはまる」との回答は、男性 34.8%に対して女性 26.4%で、男性のほうが約 8 ポイント高い。『あてはまる（計）』（「あてはまる」+「どちらかといえば、あてはまる」）では、男性では 76.5%、女性は 65.3%で、男性が女性より約 11 ポイント上回っている。一方、女性では、『あてはまらない（計）』（「あてはまらない」+「どちらかといえば、あてはまらない」）という回答者が 3 割を超え（34.3%）、男性（23.3%）を約 11 ポイント上回っている。

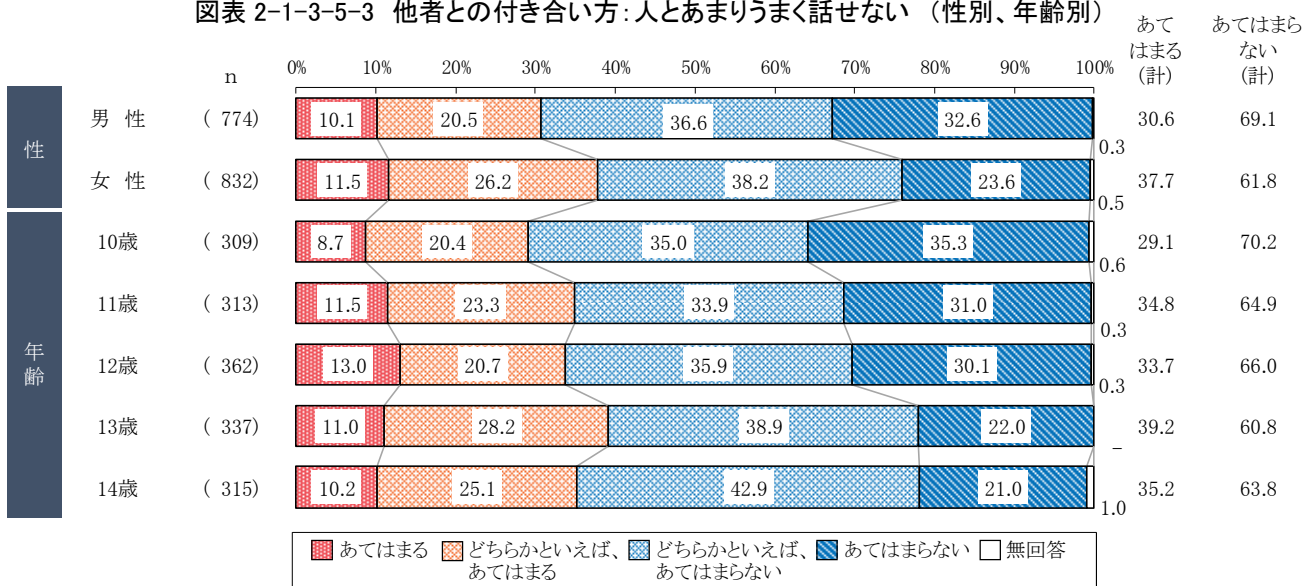
年齢別にみると（図表 2-1-3-5-2）、「あてはまる」との回答者は、12 歳以下では 3 割を超えるが（10 歳 36.9%、11 歳 30.7%、12 歳 32.9%）、13 歳及び 14 歳では 2 割台（13 歳 25.8%、14 歳 25.7%）となっている。『あてはまる（計）』では、10 歳は 74.8%で最も高いのに対して、11 歳は 66.5%と最も低い。

図表 2-1-3-5-2 他者との付き合い方：誰とでもすぐ仲良くなれる（性別、年齢別）



“人とあまりうまく話せない”への回答を性別にみると（図表 2-1-3-5-3）、『あてはまる（計）』は、男性で 30.6%、女性は 37.7%で、女性は男性よりも人とあまりうまく話せない人が約 7 ポイント高い。年齢別にみると（図表 2-1-3-5-3）、『あてはまる（計）』は、13 歳では 39.2%で最も高く、14 歳 35.2%、11 歳 34.8%、12 歳 33.7%と 3 割台で続く一方、10 歳は 29.1%で 3 割を下回っている。

図表 2-1-3-5-3 他者との付き合い方：人とあまりうまく話せない（性別、年齢別）



4. 社会参加

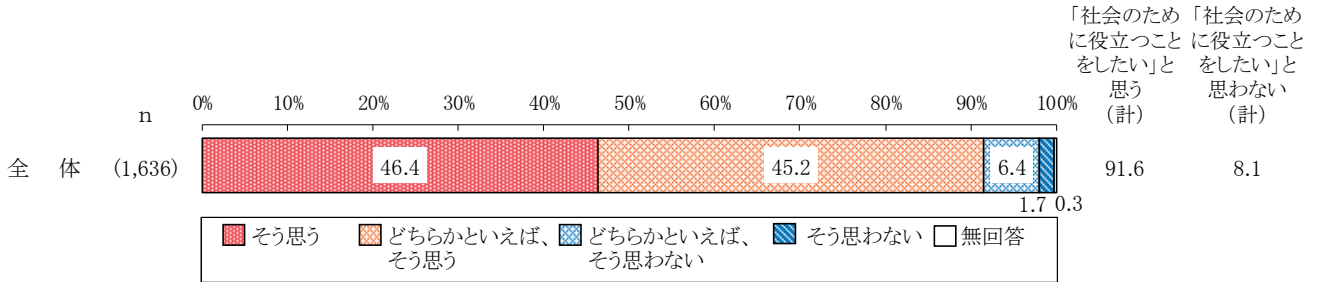
(1) 社会貢献への意欲 (問 12)

問 12 あなたは、「社会のために役立つことをしたい」と思いますか。(1つだけ)

回答者の社会参加に関する自己意識として、“社会のために役立つことをしたい”という社会貢献意欲を聞いた(図表 2-1-4-1-1)。

「そう思う」という回答者は46.4%で、「どちらかといえば、そう思う」(45.2%)を合わせると、約9割(91.6%)が社会貢献意欲を示している。

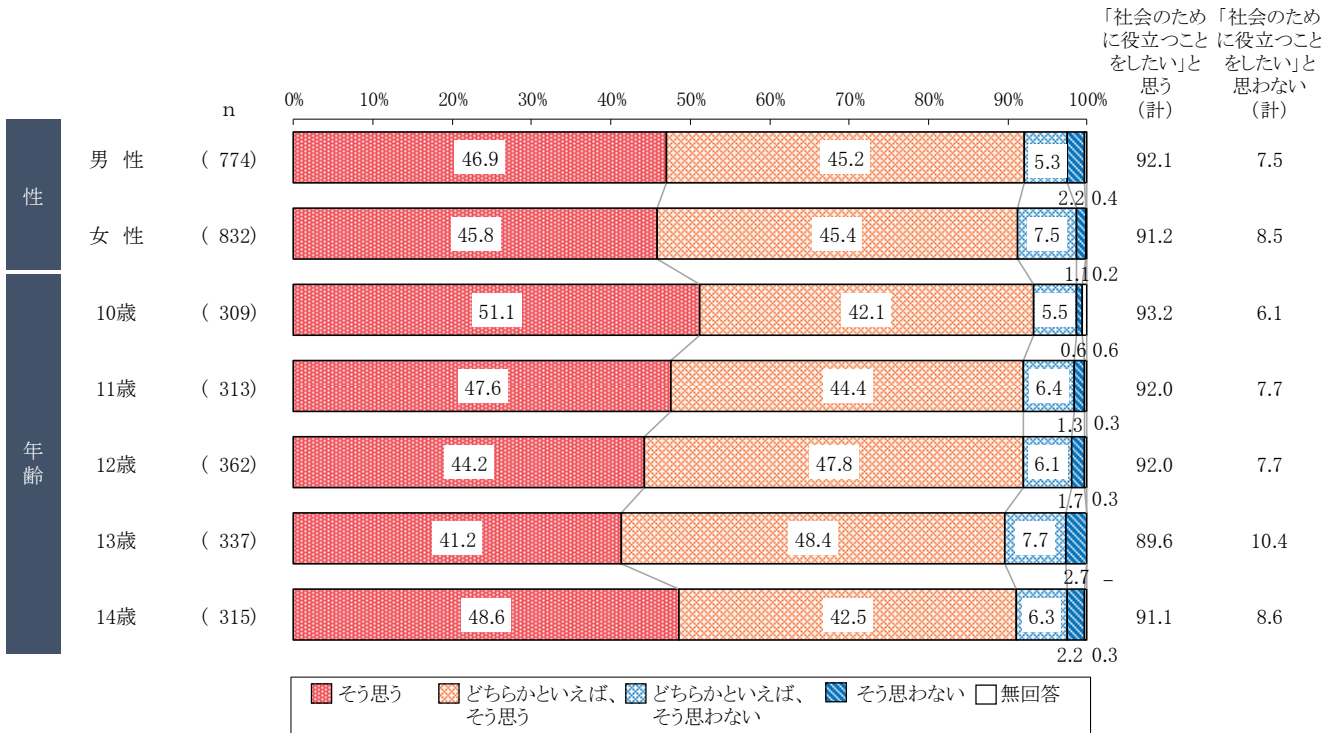
図表 2-1-4-1-1 社会貢献への意欲



性別にみると(図表 2-1-4-1-2)、男女差はみられず、『そう思う(計)』(「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う」)は男性92.1%、女性91.2%である。

年齢別にみると(図表 2-1-4-1-2)、『そう思う(計)』はいずれの年齢層でも9割前後で大きな差はみられないが、「そう思う」との回答は10歳では半数を超える(51.1%)。

図表 2-1-4-1-2 社会貢献への意欲(性別、年齢別)



5. 将来像

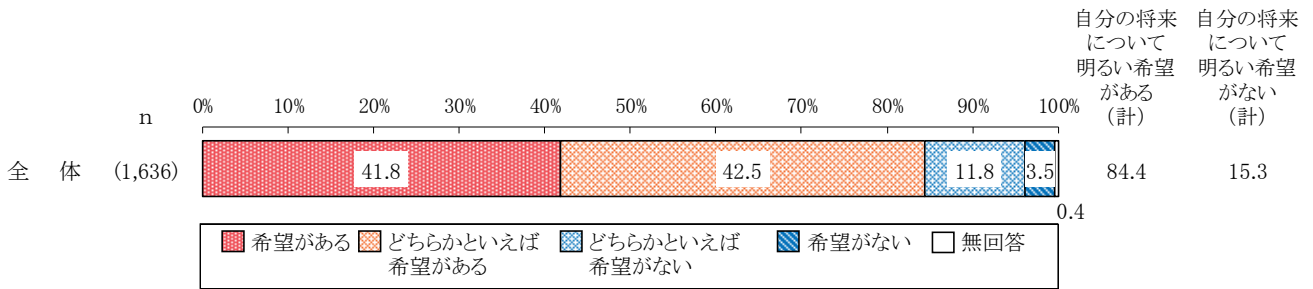
(1) 将来への希望 (問 13)

問 13 あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。(1つだけ)

将来像に関する意識に関して、“自分の将来について明るい希望を持っているか”という将来展望を聞いた(図表 2-1-5-1-1)。

「希望がある」という回答者は 41.8%で、「どちらかといえば希望がある」(42.5%)を合わせると、8割以上(84.4%)が、自身の将来への明るい希望を持っている状態を示している。

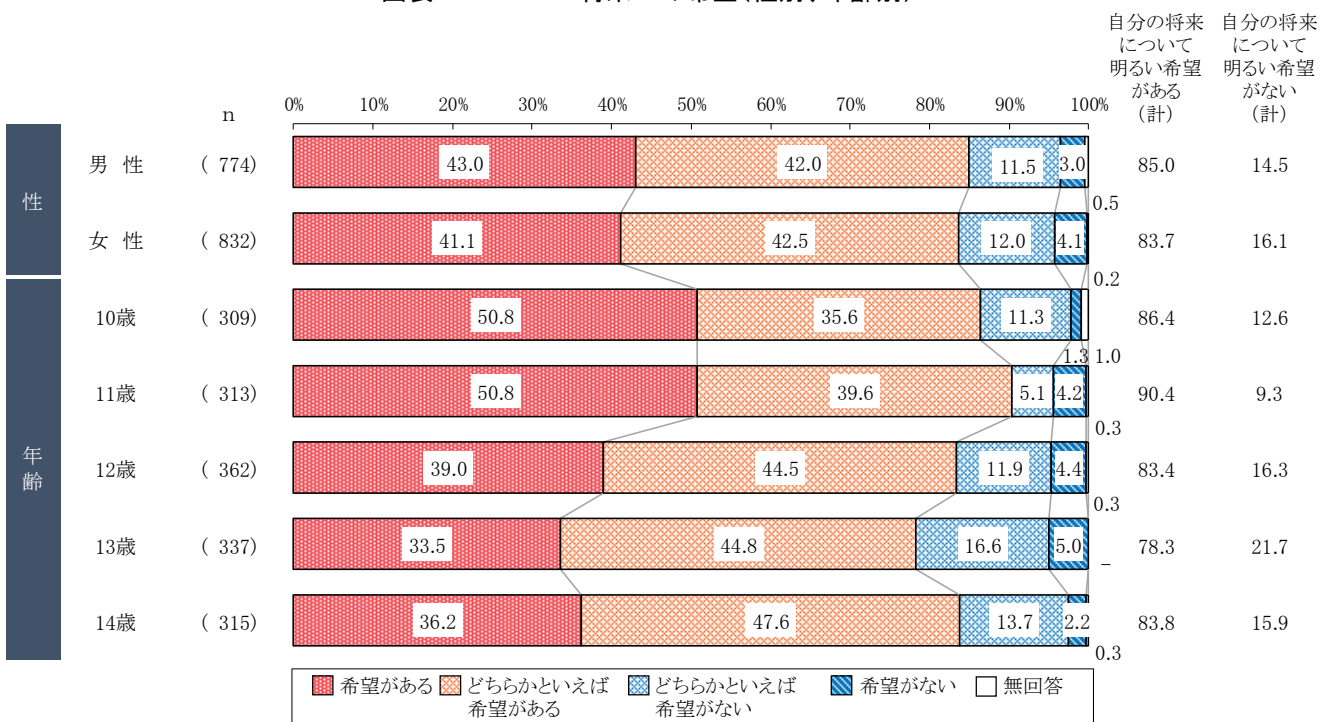
図表 2-1-5-1-1 将来への希望



性別にみると(図表 2-1-5-1-2)、『自分の将来について明るい希望がある(計)](「希望がある」+「どちらかといえば希望がある」)は男性 85.0%、女性 83.7%で、大きな男女差はみられない。なお、『自分の将来について明るい希望がない(計)](「希望がない」+「どちらかといえば希望がない」)との回答者は、女性 16.1%、男性 14.5%であり、それぞれ1割を超える人が希望がないと回答している。

年齢別にみると(図表 2-1-5-1-2)、「希望がある」という回答者は10歳及び11歳とともに50.8%と半数を占め、12歳以上に比べて多い。『自分の将来について明るい希望がある(計)]は、11歳は9割を超え(90.4%)最も高い。『自分の将来について明るい希望がない(計)]は、13歳では2割を超え(21.7%)、10歳から14歳の中で最も希望を持っていないとの回答が多い。

図表 2-1-5-1-2 将来への希望(性別、年齢別)



(2) 将来のイメージ (問 14)

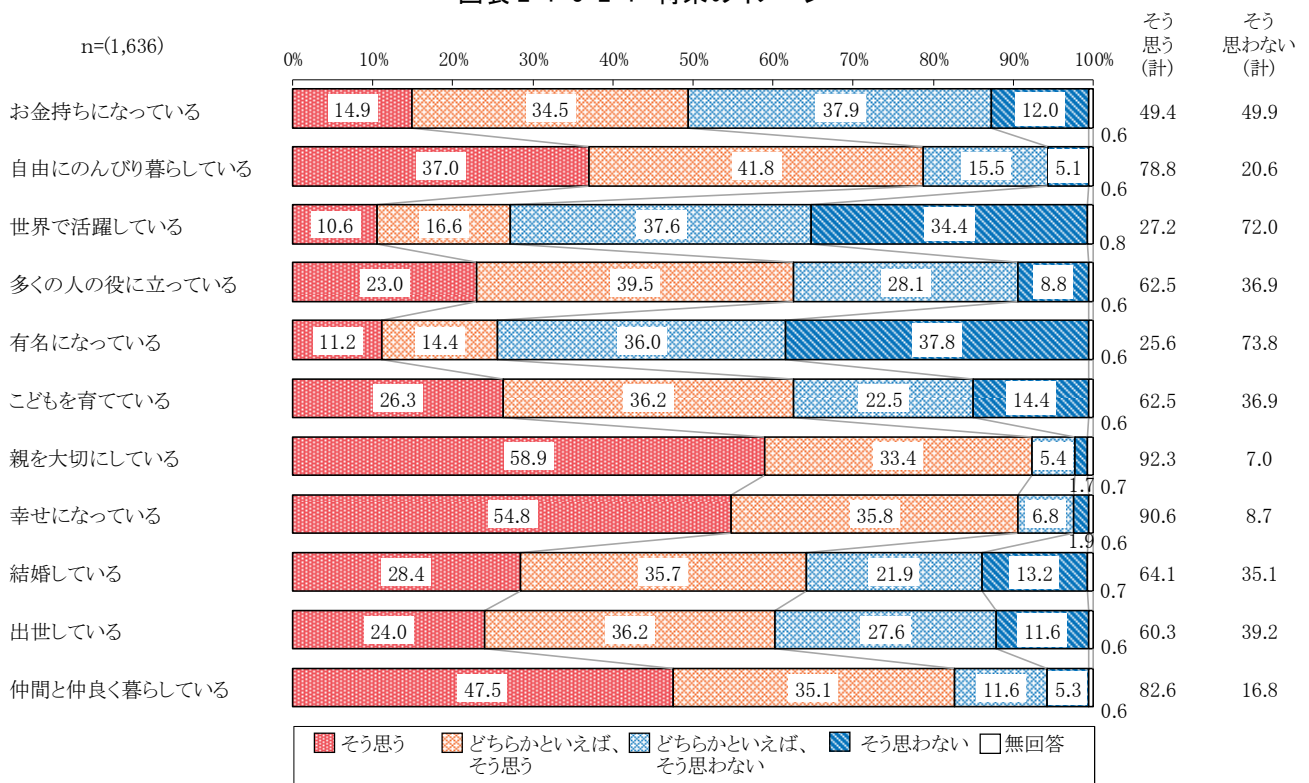
問 14 あなたが大人になったとき、どのようになっていると思いますか。(それぞれの質問について、あてはまる番号を1つお答えください)

将来像に関する意識に関して、大人になったときの将来のイメージとして、“お金持ちになっている”、“自由にのんびり暮らしている”、“世界で活躍している”、“多くの人の役に立っている”、“有名になっている”、“子どもを育てている”、“親を大切にしている”、“幸せになっている”、“結婚している”、“出世している”、“仲間と仲良く暮らしている”の11項目を聞いた(図表2-1-5-2-1)。

大人になったときの自分の姿として「そう思う」と回答した人の割合は、11項目の中では、“親を大切にしている”(58.9%)が最も高く、次いで“幸せになっている”(54.8%)であり、いずれも「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『そう思う(計)』は9割を超えている(“親を大切にしている”92.3%、幸せになっている”90.6%)。

一方、『そう思わない(計)』(「そう思わない」+「どちらかといえば、そう思わない」)の割合は、“有名になっている”(73.8%)が最も高く、次いで“世界で活躍している”(72.0%)であり、ともに7割を上回っている。

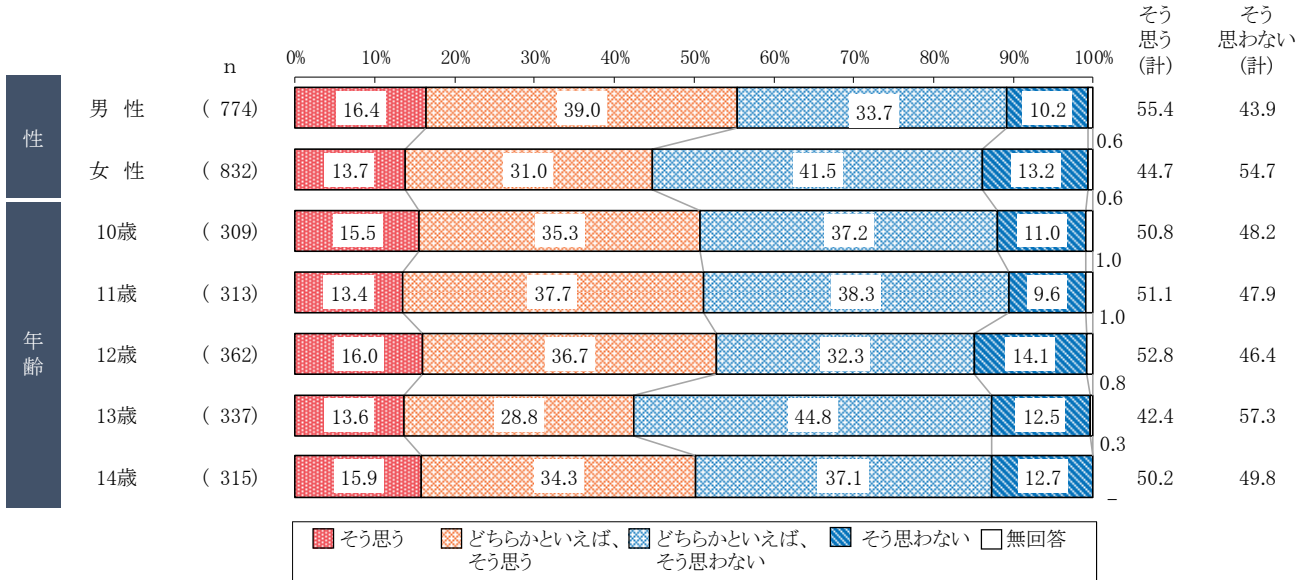
図表 2-1-5-2-1 将来のイメージ



“お金持ちになっている”について、性別にみると（図表 2-1-5-2-2）、『そう思う（計）』は、男性（55.4%）は女性（44.7%）よりも約 11 ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-1-5-2-2）、『そう思う（計）』は、13 歳では 42.4%であるのに対し、13 歳以外の年齢層では 5 割を超えている（10 歳 50.8%、11 歳 51.1%、12 歳 52.8%、14 歳 50.2%）。

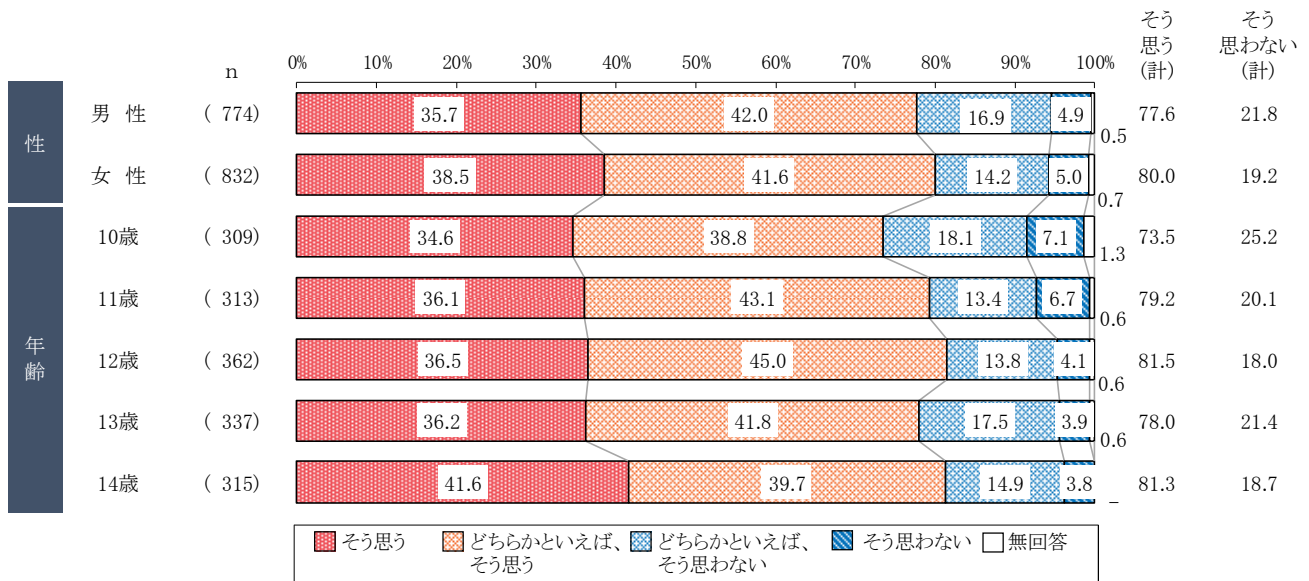
図表 2-1-5-2-2 将来のイメージ: お金持ちになっている(性別、年齢別)



“自由にのんびり暮らしている”について、性別にみると（図表 2-1-5-2-3）、男女で大きな差はみられず、『そう思う（計）』は、男性 77.6%、女性 80.0%である。

年齢別にみると、（図表 2-1-5-2-3）、『そう思う（計）』は、10 歳では 73.5%であるのに対し、12 歳（81.5%）、14 歳（81.3%）では 8 割を超えている。

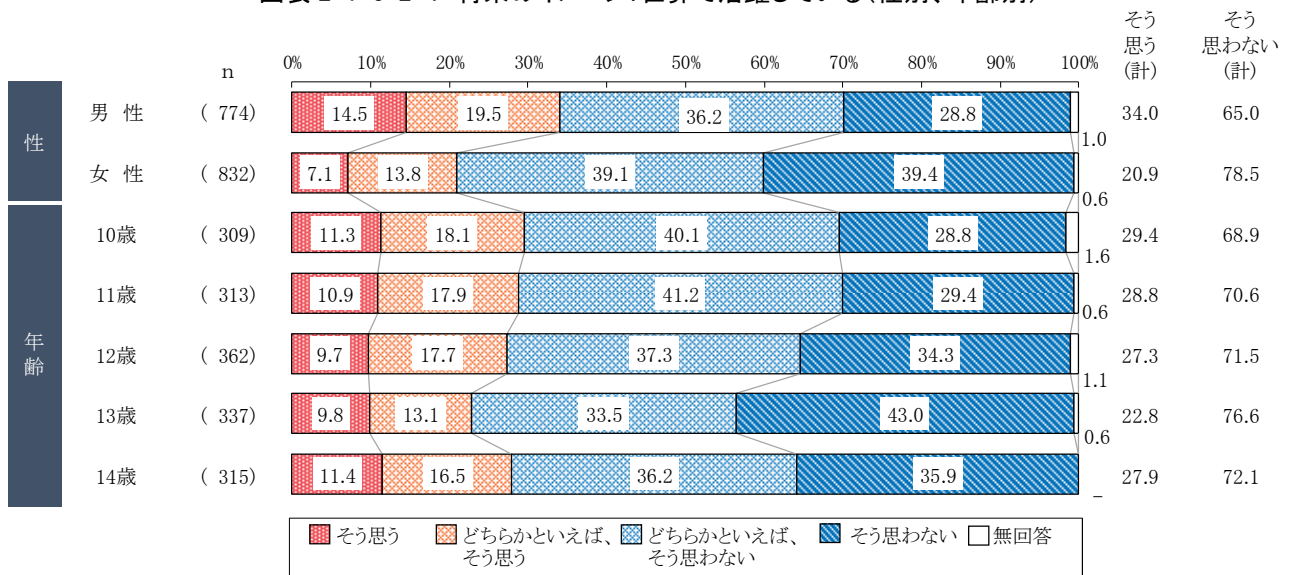
図表 2-1-5-2-3 将来のイメージ: 自由にのんびり暮らしている(性別、年齢別)



“世界で活躍している”について、性別にみると（図表 2-1-5-2-4）、「そう思う」との回答は男性で 14.5%であるのに対し女性は 7.1%で、約 7 ポイントの開きがみられる。『そう思う（計）』についても男性（34.0%）は女性（20.9%）よりも約 13 ポイント高く、女性の 8 割弱（78.5%）は、『そう思わない（計）』と回答している。

年齢別にみると（図表 2-1-5-2-4）、『そう思う（計）』という回答者は、いずれの年齢層でも 2 割台である。13 歳では「そう思わない」との回答者が 43.0%と唯一 4 割台となっており、それ以外の年齢層より多い。

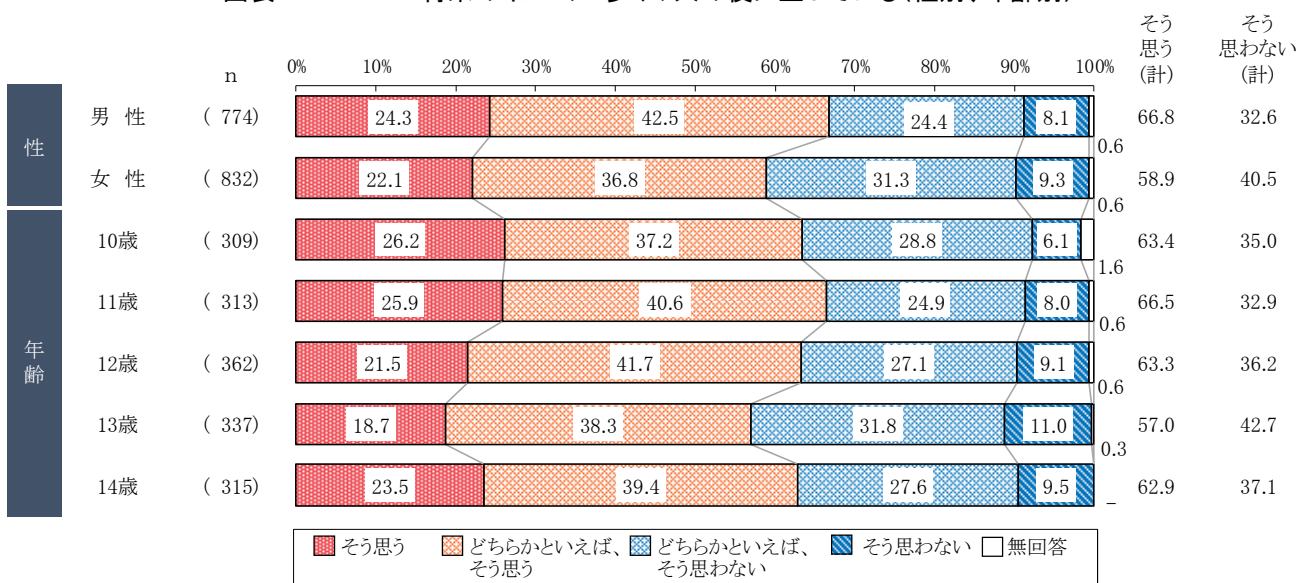
図表 2-1-5-2-4 将来のイメージ:世界で活躍している(性別、年齢別)



“多くの人の役に立っている”について、性別にみると（図表 2-1-5-2-5）、『そう思う（計）』は、男性（66.8%）が女性（58.9%）を約 8 ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-1-5-2-5）、『そう思う（計）』は 5 割台後半～6 割台であるが、13 歳では『そう思わない（計）』が唯一 4 割を超えている（42.7%）。

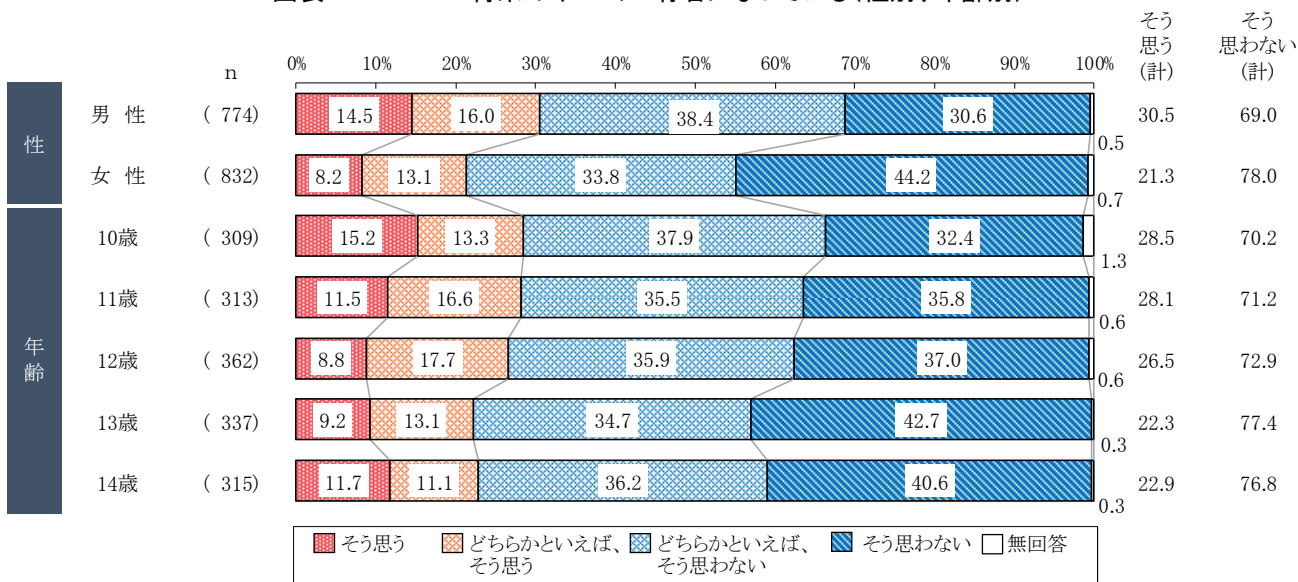
図表 2-1-5-2-5 将来のイメージ:多くの人の役に立っている(性別、年齢別)



“有名になっている”について、性別にみると（図表 2-1-5-2-6）、『そう思う（計）』は、男性（30.5%）が女性（21.3%）を約9ポイント上回っている。女性において、44.2%が「そう思わない」と回答しており、『そう思わない（計）』が8割弱（78.0%）となっている。

年齢別にみると（図表 2-1-5-2-6）、いずれの年齢層でも『そう思う（計）』は2割台、『そう思わない（計）』は7割台となっている。

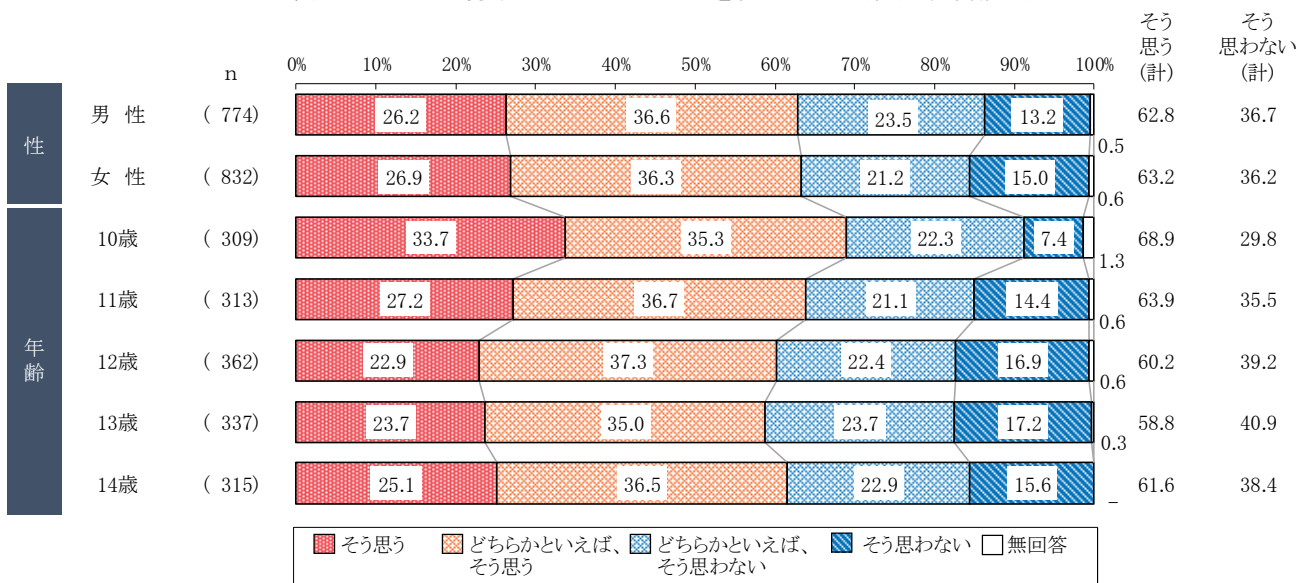
図表 2-1-5-2-6 将来のイメージ:有名になっている(性別、年齢別)



“こどもを育てている”について、性別にみると（図表 2-1-5-2-7）、男女で大きな差はみられず、『そう思う（計）』は、男女ともに6割を上回り（男性62.8%、女性63.2%）、『そう思わない（計）』は3割を上回っている（男性36.7%、女性36.2%）。

年齢別にみると（図表 2-1-5-2-7）、『そう思う（計）』は、10歳では7割弱（68.9%）であるのに対し、12歳から14歳では6割前後（12歳60.2%、13歳58.8%、14歳61.6%）となっている。

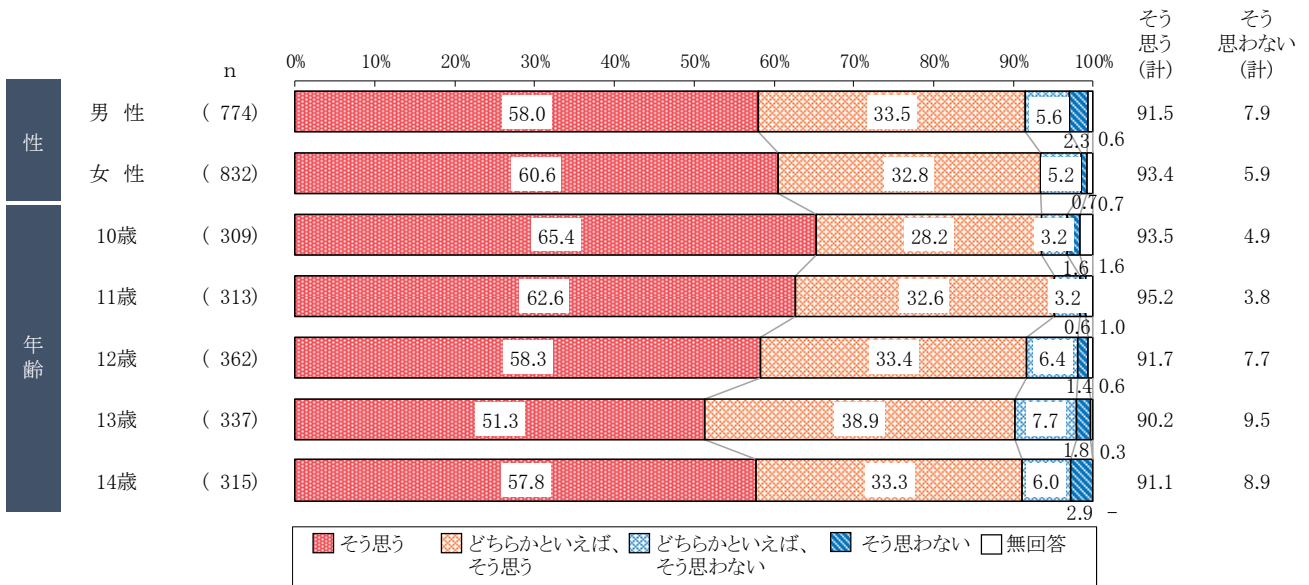
図表 2-1-5-2-7 将来のイメージ:こどもを育てている(性別、年齢別)



“親を大切にしている”について、性別にみると（図表 2-1-5-2-8）、『そう思う（計）』は、男性 91.5%、女性 93.4%で、ともに9割を超える。男女で大きな差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-1-5-2-8）、「そう思う」との回答は、10歳（65.4%）及び11歳（62.6%）で6割を超えるのに対し、13歳（51.3%）では5割台で、程度の開きはあるものの、『そう思う（計）』は、いずれの年齢層でも9割を超えている。

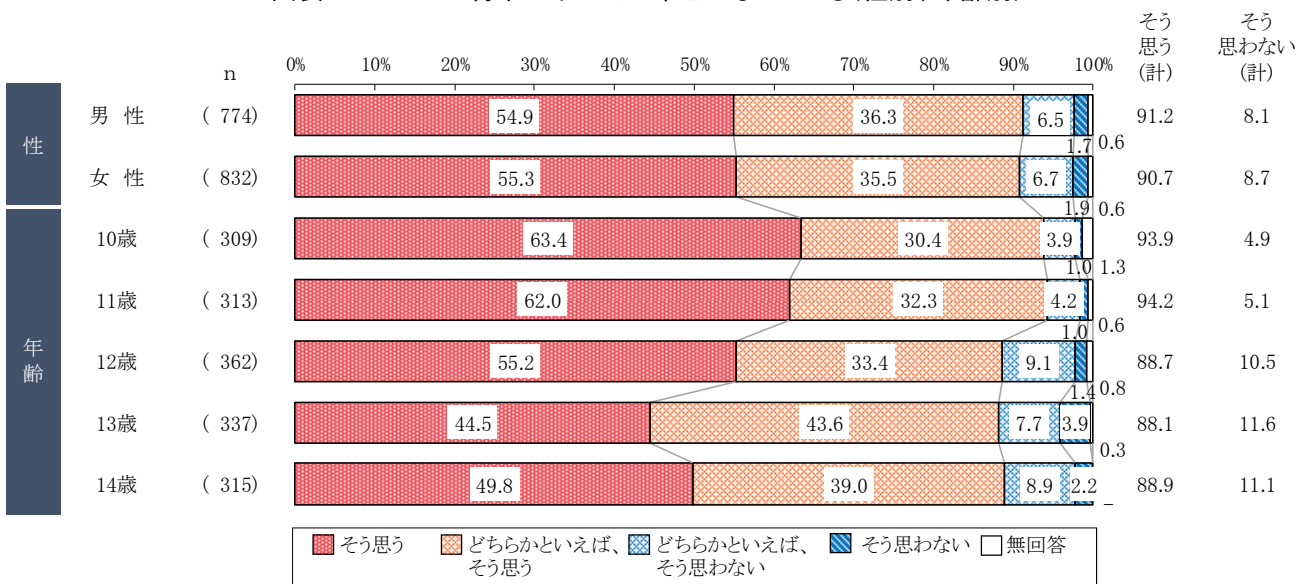
図表 2-1-5-2-8 将来のイメージ:親を大切にしている(性別、年齢別)



“幸せになっている”について、性別にみると（図表 2-1-5-2-9）、『そう思う（計）』は、男性 91.2%、女性 90.7%で、ともに9割を超え、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-1-5-2-9）、「そう思う」との回答は、10歳（63.4%）及び11歳（62.0%）で6割を超えているのに対し、12歳（55.2%）では5割台、13歳（44.5%）及び14歳（49.8%）では4割台と、年齢による開きがみられる。『そう思う（計）』については、10歳（93.9%）及び11歳（94.2%）は9割を上回っているのに対し、12歳以上では9割弱であり、『そう思わない（計）』との回答は、12歳（10.5%）、13歳（11.6%）、14歳（11.1%）で約1割を占めている。

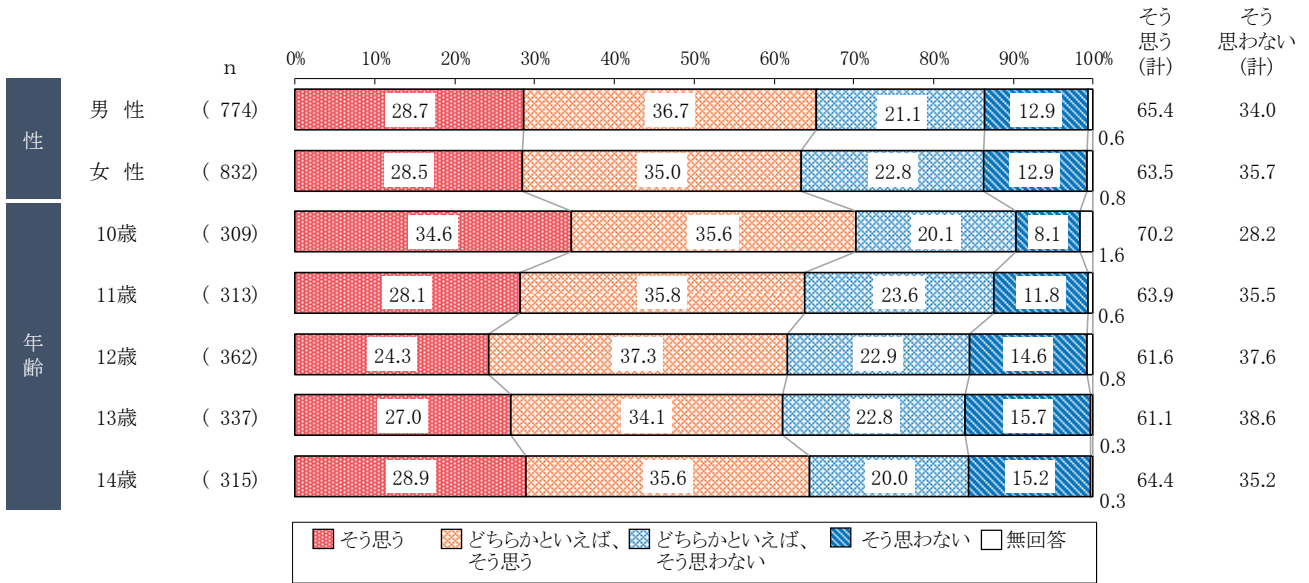
図表 2-1-5-2-9 将来のイメージ:幸せになっている(性別、年齢別)



“結婚している”について、性別にみると（図表 2-1-5-2-10）、『そう思う（計）』は、男性 65.4%、女性 63.5%で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-1-5-2-10）、「そう思う」との回答は10歳で唯一3割を超え（34.6%）、『そう思う（計）』も10歳（70.2%）では7割を超えるのに対し、11歳以上の年齢層では6割台（11歳 63.9%、12歳 61.6%、13歳 61.1%、14歳 64.4%）となっている。

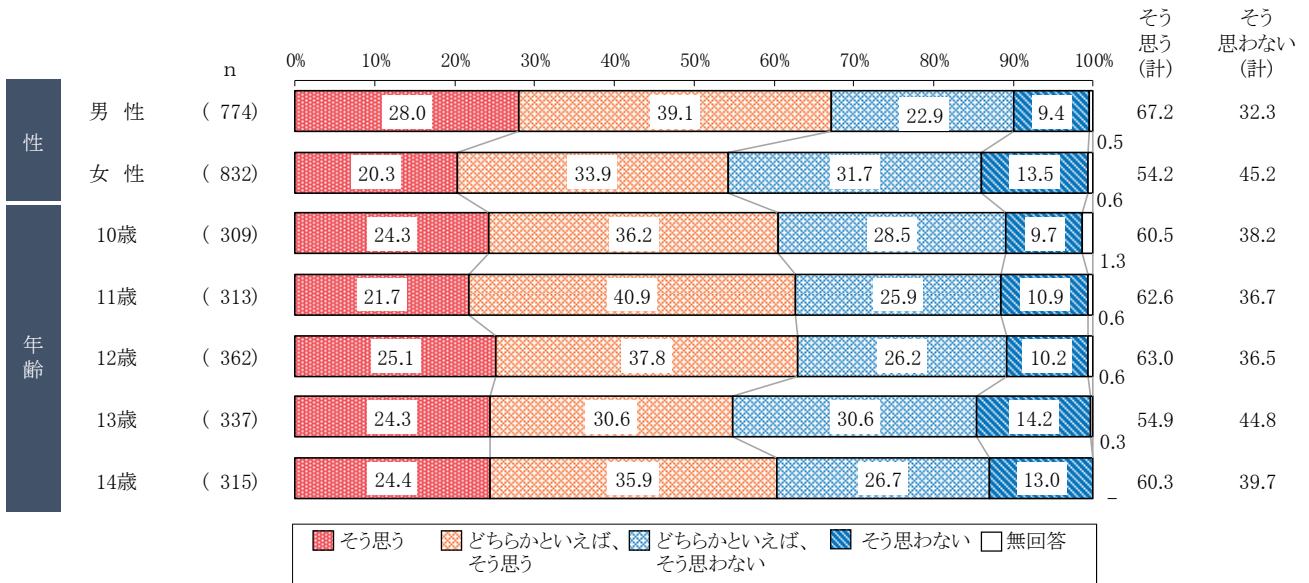
図表 2-1-5-2-10 将来のイメージ:結婚している(性別、年齢別)



“出世している”について、性別にみると（図表 2-1-5-2-11）、『そう思う（計）』は、男性（67.2%）が女性（54.2%）を約13ポイント上回っている。一方、女性の4割以上（45.2%）は、「そう思わない」または「どちらかといえば、そう思わない」と回答している。

年齢別にみると（図表 2-1-5-2-11）、『そう思う（計）』は、13歳（54.9%）以外の年齢層では6割を超えている。

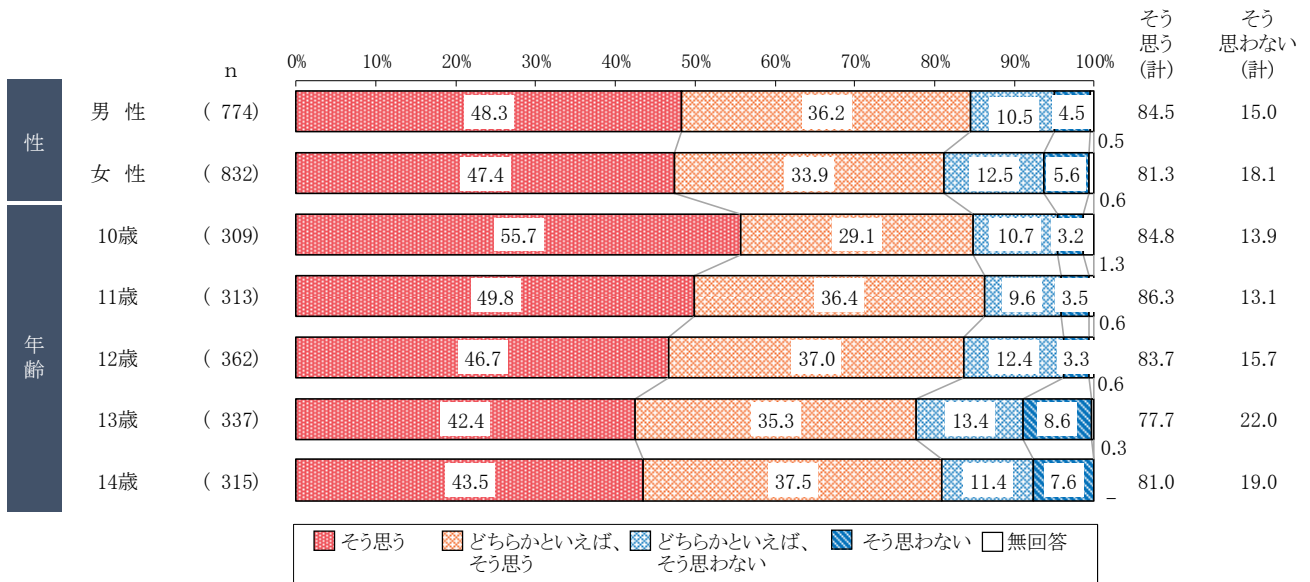
図表 2-1-5-2-11 将来のイメージ:出世している(性別、年齢別)



“仲間と仲良く暮らしている”について、性別にみると（図表 2-1-5-2-12）、『そう思う（計）』という回答者は、男女とも8割を上回り（男性84.5%、女性81.3%）、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-1-5-2-12）、10歳で「そう思う」との回答が55.7%と半数を超えているのに対し、11歳以降は4割台となっている。『そう思う（計）』は、13歳（77.7%）では7割台で、10歳から12歳及び14歳では8割を超えている。

図表 2-1-5-2-12 将来のイメージ:仲間と仲良く暮らしている(性別、年齢別)



6. 自身や周囲の状況

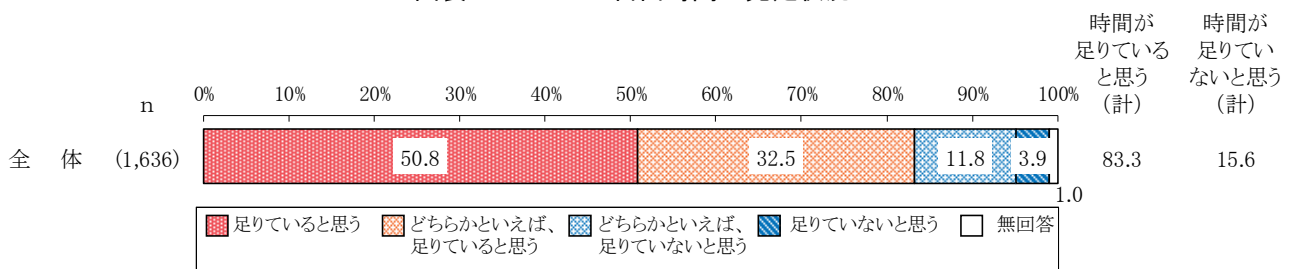
(1) 自由時間の充足状況 (問 15)

問 15 あなたは普段の生活の中で、自由時間やリラックスして過ごす時間が足りていますか。

(1つだけ)

普段の生活の中での自由時間やリラックスして過ごす時間の充足状況について聞いたところ(図表 2-1-6-1-1)、「足りていると思う」との回答は約半数(50.8%)であり、「どちらかといえば、足りていると思う」を合わせた 83.3%が、足りていると感じている。一方、「どちらかといえば、足りていないと思う」、または「足りていないと思う」と回答した人は、15.6%である。

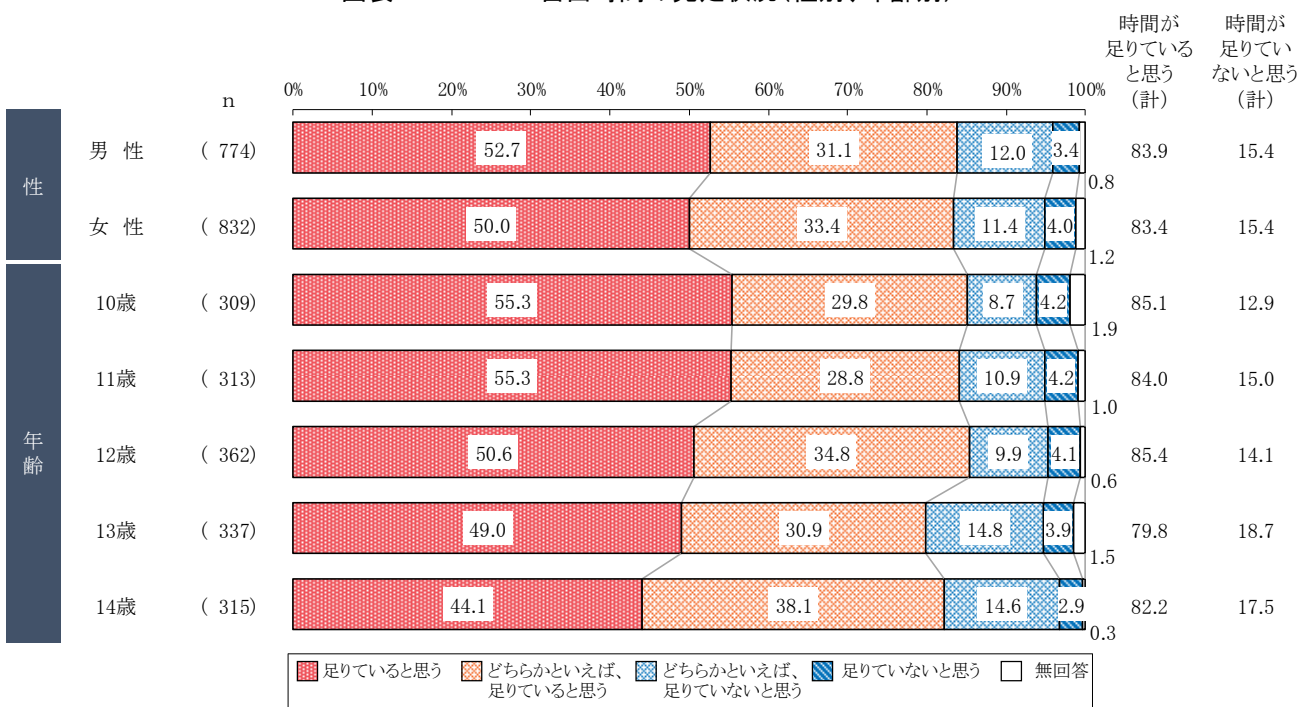
図表 2-1-6-1-1 自由時間の充足状況



性別にみると(図表 2-1-6-1-2)、『時間が足りていると思う(計)』(「足りていると思う」+「どちらかといえば、足りていると思う」)は、男女とも8割台(男性 83.9%、女性 83.4%)で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると(図表 2-1-6-1-2)、「足りていると思う」との回答は、10歳及び11歳でともに55.3%、12歳で50.6%と半数を超えているのに対し、13歳(49.0%)、14歳(44.1%)と年齢層が上がるにつれて回答割合が低くなっている。『時間が足りていないと思う(計)』(「足りていないと思う」+「どちらかといえば、足りていないと思う」)が最も高いのは13歳で18.7%、次いで高いのは14歳(17.5%)で、13歳以上の年齢層で2割弱となっている。

図表 2-1-6-1-2 自由時間の充足状況(性別、年齢別)

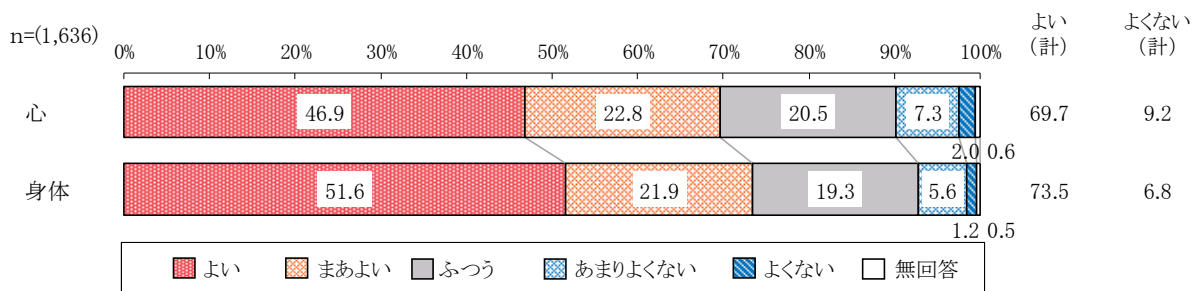


(2) 心と身体健康状態 (問 16)

問 16 あなたの現在の心と身体健康状態をお答えください。(それぞれについて1つ)

“心”と“身体”の健康状態を聞いたところ(図表 2-1-6-2-1)、「よい」との回答は、“心”に関しては46.9%であるのに対し“身体”に関しては51.6%で、“心”が“身体”を約5ポイント下回っている。「よい」と「まあよい」を合わせた『よい(計)』は、“心”は69.7%、“身体”は73.5%で、7割前後となっている。なお、“心”について、「よくない」と「あまりよくない」を合わせた『よくない(計)』は9.2%であり、約1割程度がよくないと認識を示している。

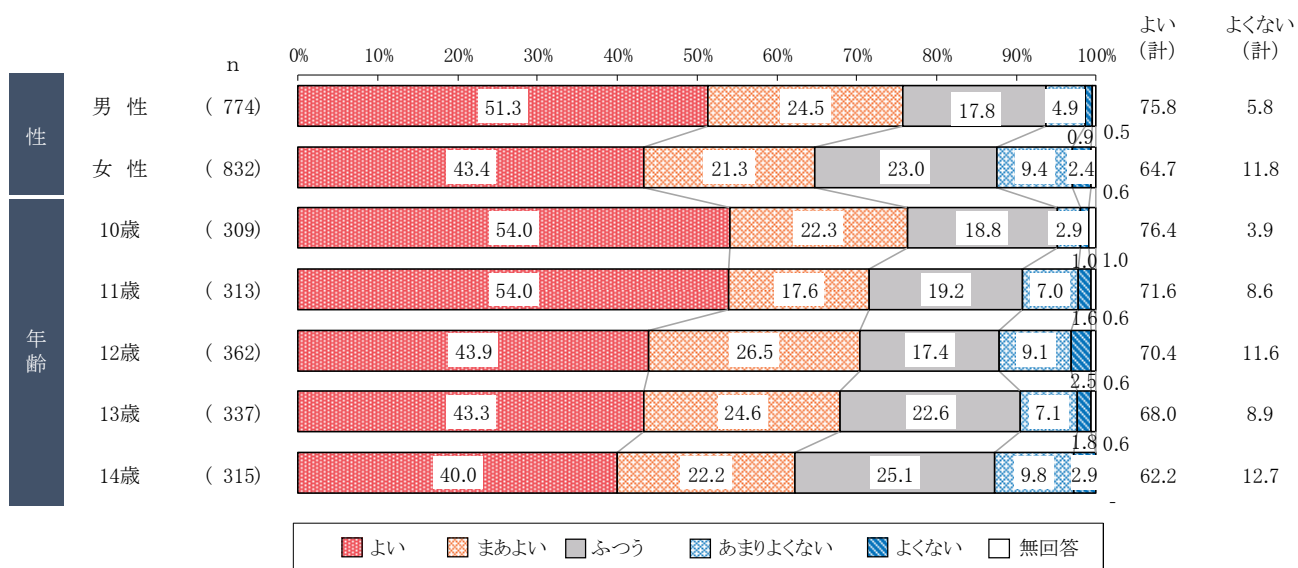
図表 2-1-6-2-1 心と身体健康状態



“心”の健康状態に対する回答を性別にみると(図表 2-1-6-2-2)、「よい」との回答は、男性は51.3%で半数を超え、女性(43.4%)を約8ポイント上回っている。『よい(計)』については、男性75.8%、女性64.7%で、男性が女性を約11ポイント上回っている。女性の『よくない(計)』は11.8%であり、約1割がよくないと認識を示している。

年齢別にみると(図表 2-1-6-2-2)、「よい」との回答は、年齢層が上がるにつれて回答割合が低くなっており、10歳及び11歳では54.0%と半数を超えているのに対し、14歳では40.0%と開きがみられる。『よい(計)』についても年齢層が上がるにつれて低くなっており、10歳で76.4%であるのに対し、14歳では62.2%となっている。

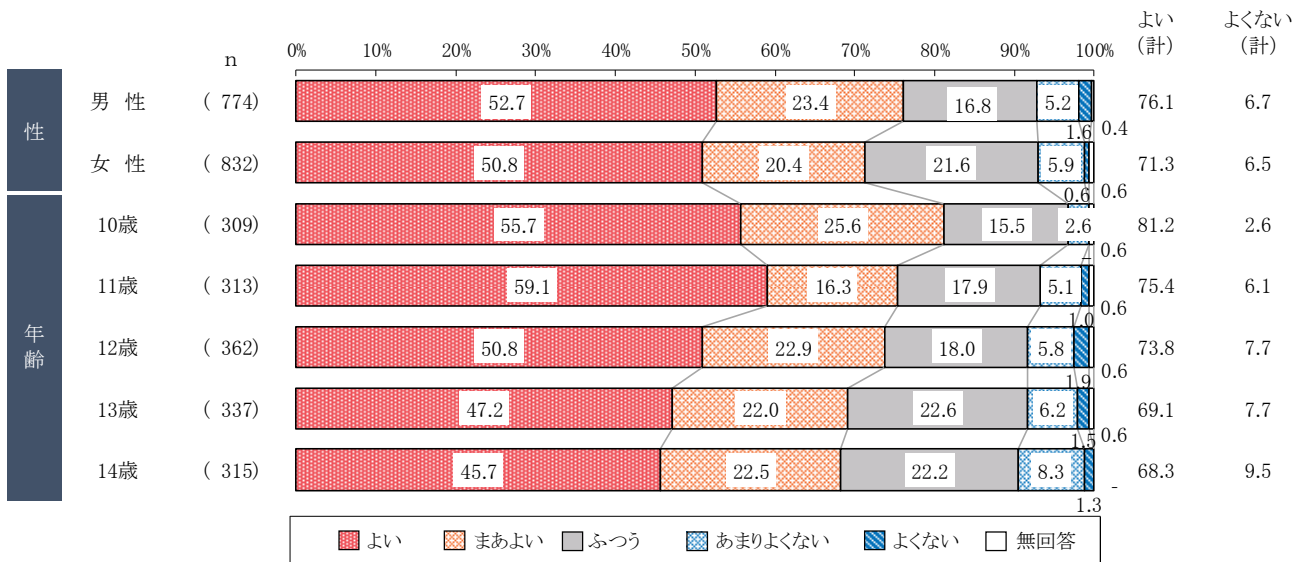
図表 2-1-6-2-2 心と身体健康状態:心(性別、年齢別)



“身体”の健康状態に対する回答を性別にみると（図表 2-1-6-2-3）、「よい」との回答は男女ともに半数を超え（男性 52.7%、女性 50.8%）、男女で大きな差はみられない。『よい（計）』は、男性 76.1%、女性 71.3%である。

年齢別にみると（図表 2-1-6-2-3）、『よい（計）』は年齢が低い層ほど高い傾向がみられ、10 歳（81.2%）では 8 割を超えているのに対し、13 歳（69.1%）及び 14 歳（68.3%）では 7 割を下回っている。

図表 2-1-6-2-3 心と身体の健康状態：身体（性別、年齢別）



(3) 個性・多様性・意見を尊重してくれる人の有無 (問 17-1)

問 17-1 あなたの周りに次のような人はどれくらいいますか。なお、答えるとき、同じ人のことを何度も思い浮かべて答えてかまいません。(それぞれの質問について、あてはまる番号を1つお答えください)

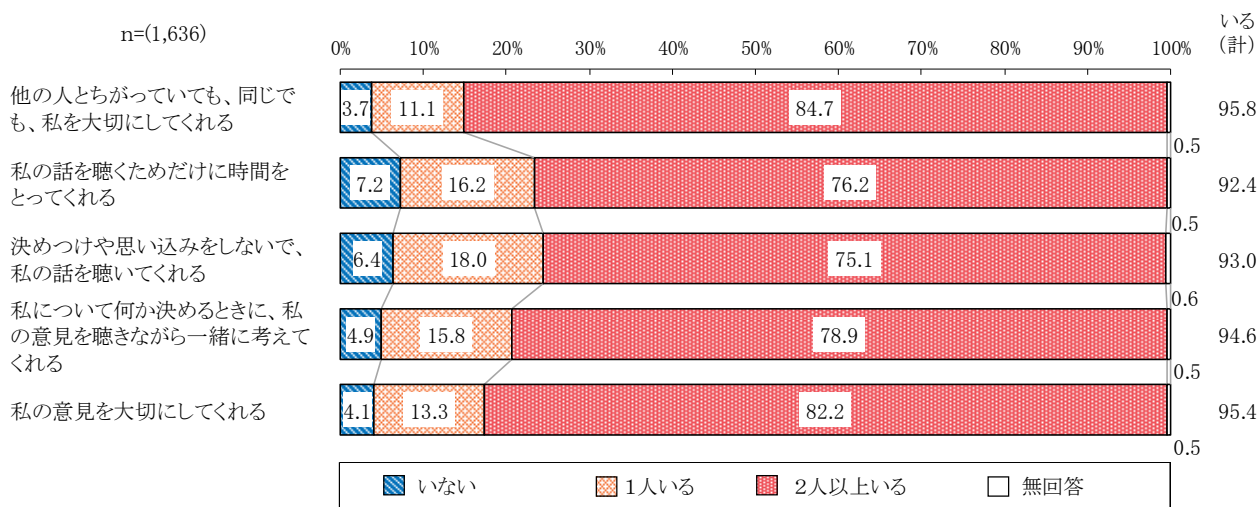
自分の個性・多様性・意見を尊重してくれる周囲の他者について、“他の人とちがっていても、同じでも、私を大切にしてくれる”、“私の話を聴くためだけに時間をとってくれる”、“決めつけや思い込みをしないで、私の話を聴いてくれる”、“私について何か決めるときに、私の意見を聴きながら一緒に考えてくれる”、“私の意見を大切にしてくれる”のそれぞれに該当する人の有無を聞いた(図表 2-1-6-3-1)。

「2人以上いる」と「1人いる」を合わせた『いる(計)』は、5つの内容すべてで9割を超える中、“他の人とちがっていても、私を大切にしてくれる”(95.8%)と“私の意見を大切にしてくれる”(95.4%)がほぼ同程度で9割後半と特に高く、「2人以上いる」との回答もともに8割を超えている。

“私について何か決めるときに、私の意見を聴きながら一緒に考えてくれる”、“決めつけや思い込みをしないで、私の話を聴いてくれる”、“私の話を聴くためだけに時間をとってくれる”の3項目も、そうした他者が周りにいるという回答者(『いる(計)』)は9割を超えているが、「2人以上いる」との回答は7割台である。

“私の話を聴くためだけに時間をとってくれる”は、該当する人が「いない」回答が7.2%で、5つの内容の中では最も多い。

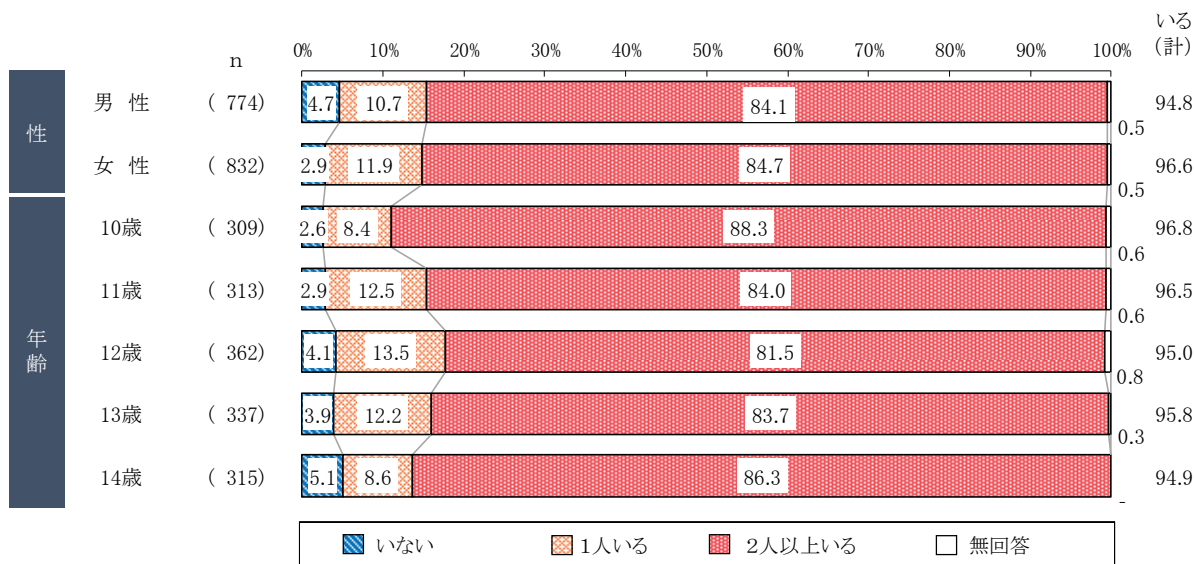
図表 2-1-6-3-1 個性・多様性・意見を尊重してくれる人の有無



“他の人とちがっていても、同じでも、私を大切にしてくれる”について、性別にみると（図表 2-1-6-3-2）、『いる（計）』は、男性 94.8%、女性 96.6%で、「2人以上いる」割合もともに8割を超えており、大きな男女差はみられない。

年齢別についても（図表 2-1-6-3-2）、いずれの年齢層でも『いる（計）』は9割を超え、年齢層による大きな差はみられない。

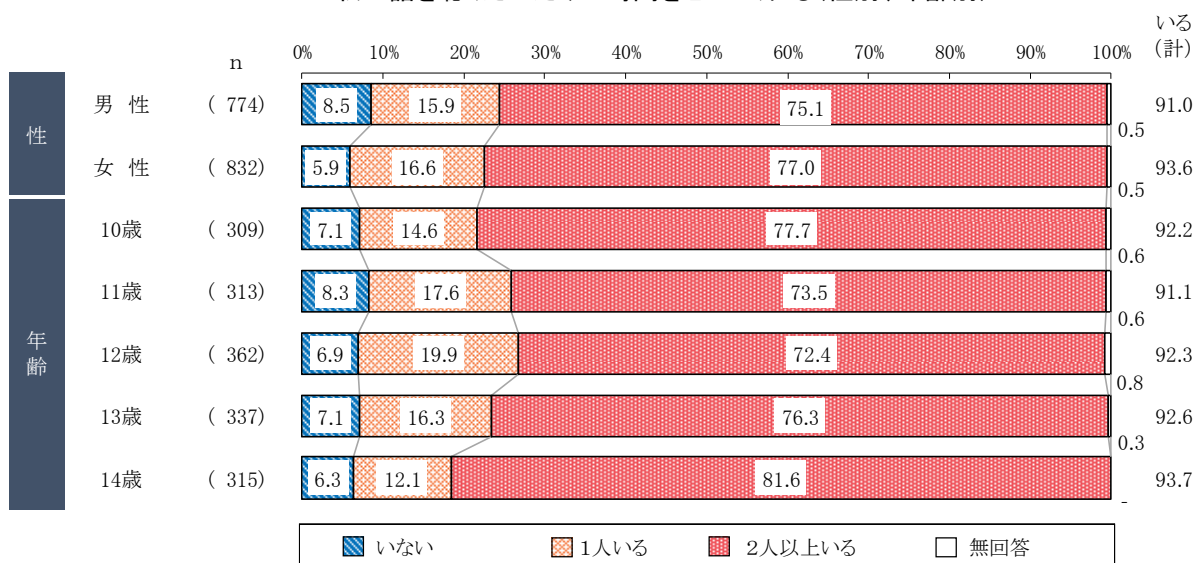
図表 2-1-6-3-2 個性・多様性・意見を尊重してくれる人の有無：
他の人とちがっていても、同じでも、私を大切にしてくれる（性別、年齢別）



“私の話を聴くためだけに時間をとってくれる”を性別にみると（図表 2-1-6-3-3）、『いる（計）』は、男性 91.0%、女性 93.6%で、大きな男女差はみられない。なお、「いない」との回答は、男性では8.5%、女性では5.9%となっている。

年齢別にみると（図表 2-1-6-3-3）、いずれの年齢層でも『いる（計）』は9割を超え、年齢層による大きな差はみられない。

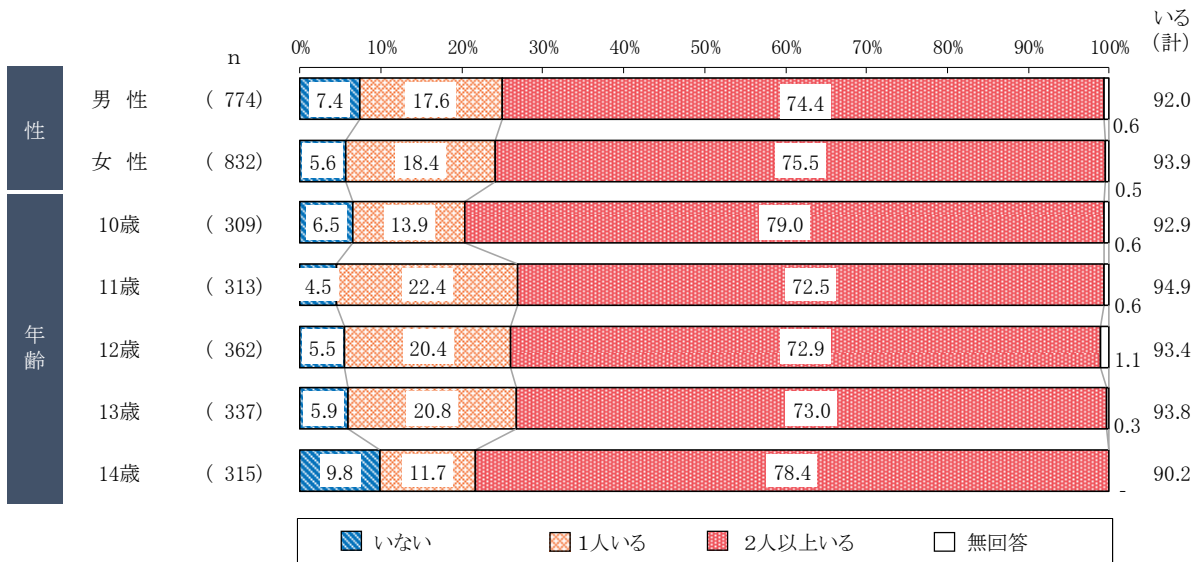
図表 2-1-6-3-3 個性・多様性・意見を尊重してくれる人の有無：
私の話を聴くためだけに時間をとってくれる（性別、年齢別）



“決めつけや思い込みをしないで、私の話を聴いてくれる”、を性別にみると（図表 2-1-6-3-4）、『いる（計）』は、男性 92.0%、女性 93.9%で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-1-6-3-4）、いずれの年齢層でも『いる（計）』は 9 割を超える。14 歳で「いない」と回答した人は 9.8%で約 1 割となっている。

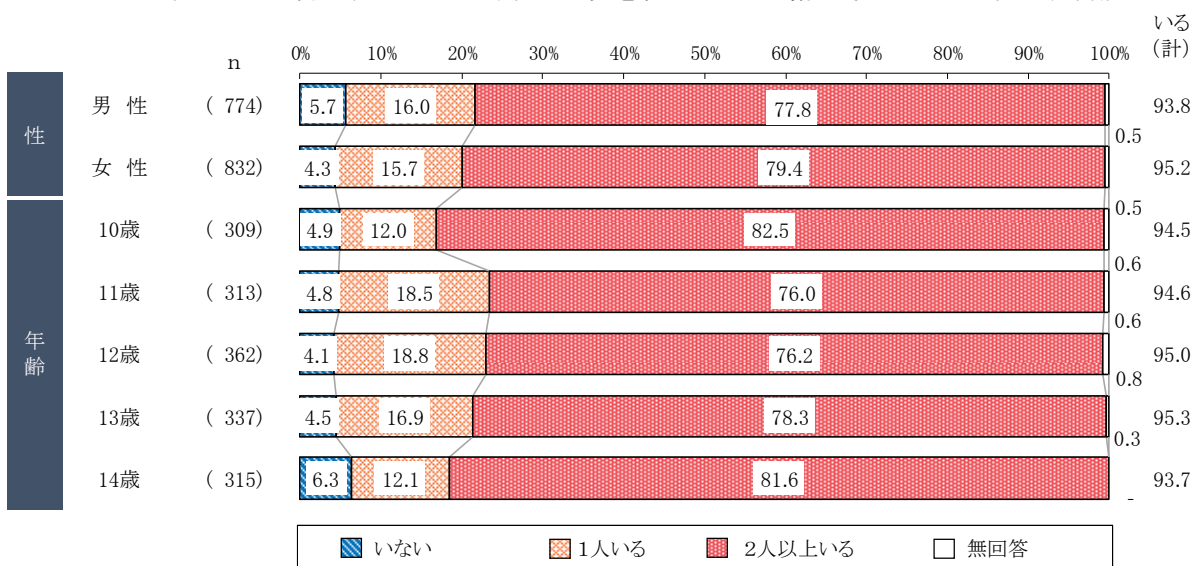
図表 2-1-6-3-4 個性・多様性・意見を尊重してくれる人の有無：
決めつけや思い込みをしないで、私の話を聴いてくれる（性別、年齢別）



“私について何か決めるときに、私の意見を聴きながら一緒に考えてくれる”を性別にみると（図表 2-1-6-3-5）、『いる（計）』は、男性 93.8%、女性 95.2%で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-1-6-3-5）、いずれの年齢層でも『いる（計）』は 9 割を超える。「2人以上いる」との回答は 10 歳（82.5%）、14 歳（81.6%）では 8 割を超え、11 歳から 13 歳は 7 割台である。

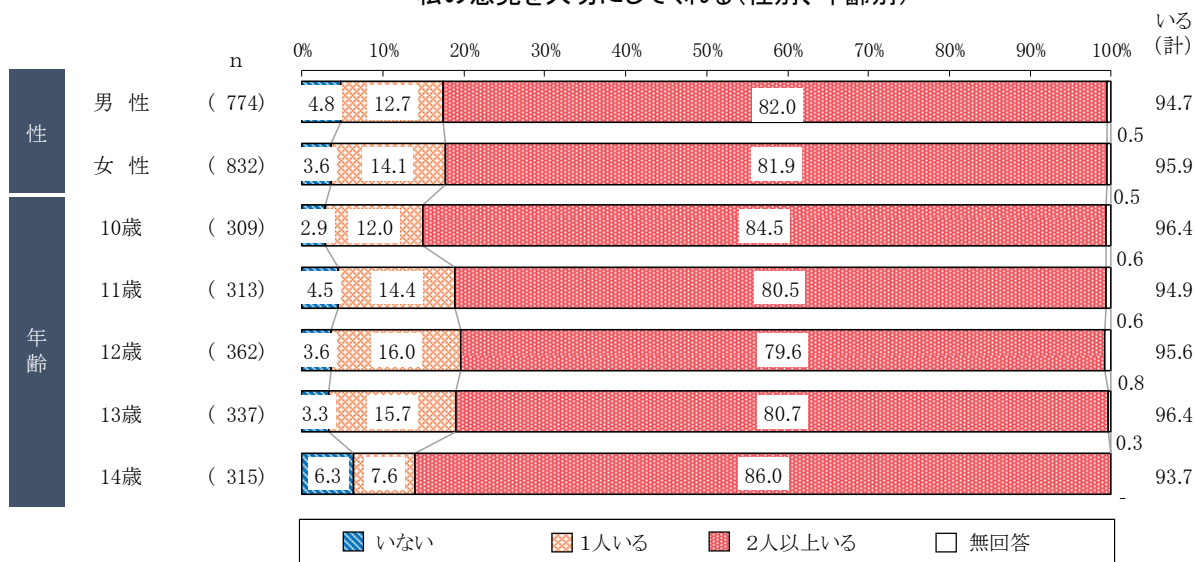
図表 2-1-6-3-5 個性・多様性・意見を尊重してくれる人の有無：
私について何か決めるときに、私の意見を聴きながら一緒に考えてくれる（性別、年齢別）



“私の意見を大切にしてくれる”を性別にみると（図表 2-1-6-3-6）、『いる（計）』は、男性 94.7%、女性 95.9%で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-1-6-3-6）、いずれの年齢層でも『いる（計）』は9割を超える。

図表 2-1-6-3-6 個性・多様性・意見を尊重してくれる人の有無：
私の意見を大切にしてくれる（性別、年齢別）



(4) 個性・多様性・意見を尊重してくれる人 (問 17-2)

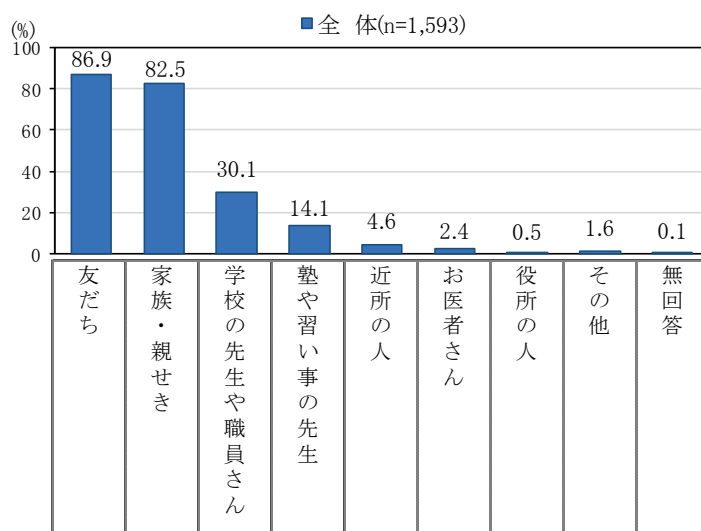
【問 17-1 で1つでも「1人いる」か「2人以上いる」を選んだ方のみ、お答えください。】

問 17-2 上 (問 17-1 ア)～オ) で思い浮かべた人は、どのような人ですか。あてはまるものをお答えください。(いくつでも)

“他の人とちがっていても、同じでも、私を大切にしてくれる”、“私の話を聴くためだけに時間をとってくれる”、“決めつけや思い込みをしないで、私の話を聴いてくれる”、“私について何か決めるときに、私の意見を聴きながら一緒に考えてくれる”、“私の意見を大切にしてくれる”の5つのうち、いずれかについて、自分の個性・多様性・意見を尊重してくれる人がいると回答した者（「1人いる」または「2人以上いる」、1,593人）に、回答の際に思い浮かべた人を聞いた（図表 2-1-6-4-1）。

最も回答が多いのは「友だち」（86.9%）で、「家族・親せき」（82.5%）がこれに続き、ともに8割を超え、「学校の先生や職員さん」（30.1%）以下の項目とは50ポイント以上の大きな開きがみられる。

図表 2-1-6-4-1 個性・多様性・意見を尊重してくれる人



性別にみると（図表 2-1-6-4-2）、男女ともに「友だち」との回答が最も多く（男性 87.6%、女性 86.2%）、「家族・親せき」（男性 84.1%、女性 81.3%）が8割台でそれに続いており、男女で大きな差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-1-6-4-2）、10歳では、「家族・親せき」との回答が86.8%で、「友だち」（86.1%）とほぼ同率となっている。「家族・親せき」の回答は、年齢が低い層ほどゆるやかに高い傾向がみられる。また、10歳では「学校の先生や職員さん」が37.4%で、11歳から13歳（11歳29.7%、12歳26.1%、13歳28.0%）に比べて回答が高い。

図表 2-1-6-4-2 個性・多様性・意見を尊重してくれる人(性別、年齢別)

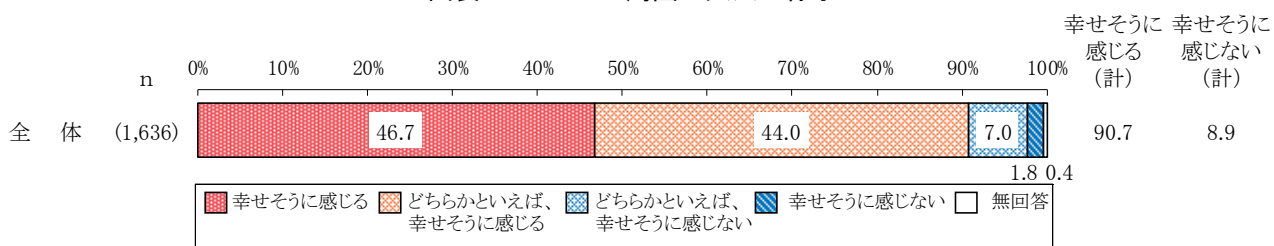
		(%)									
		n	友だち	家族・親せき	学校の先生や職員さん	塾や習い事の先生	近所の人	お医者さん	役所の人	その他	無回答
性	男性	(750)	87.6	84.1	32.3	14.9	5.7	2.1	0.7	1.9	-
	女性	(813)	86.2	81.3	27.8	13.3	3.7	2.6	0.2	1.2	0.1
年齢	10歳	(302)	86.1	86.8	37.4	16.6	7.6	3.6	2.0	2.0	-
	11歳	(306)	88.2	82.7	29.7	12.4	6.2	2.9	-	1.3	-
	12歳	(352)	87.5	82.1	26.1	11.6	2.6	2.0	-	1.4	0.3
	13歳	(329)	84.2	81.8	28.0	14.0	3.6	2.4	0.6	1.2	-
	14歳	(304)	88.5	79.3	30.3	16.4	3.6	1.0	-	2.0	-

(5) 周囲の大人の様子 (問 18)

問 18 普段あなたの周りにはいる大人たちは、あなたからみて、幸せそうに毎日を過ごしていると感じますか。あなたの実感をお答えください。(1つだけ)

周囲の大人の様子について、普段周りにいる大人たちが幸せそうに過ごしていると感じるかを聞いたところ(図表 2-1-6-5-1)、46.7%は「幸せそうに感じる」と回答し、「どちらかといえば、幸せそうに感じる」(44.0%)を合わせた90.7%が、幸せそうに感じるとの認識を示している。一方、『幸せそうに感じない(計)』(「幸せそうに感じない」+「どちらかといえば、幸せそうに感じない」)は8.9%であり、1割を下回っている。

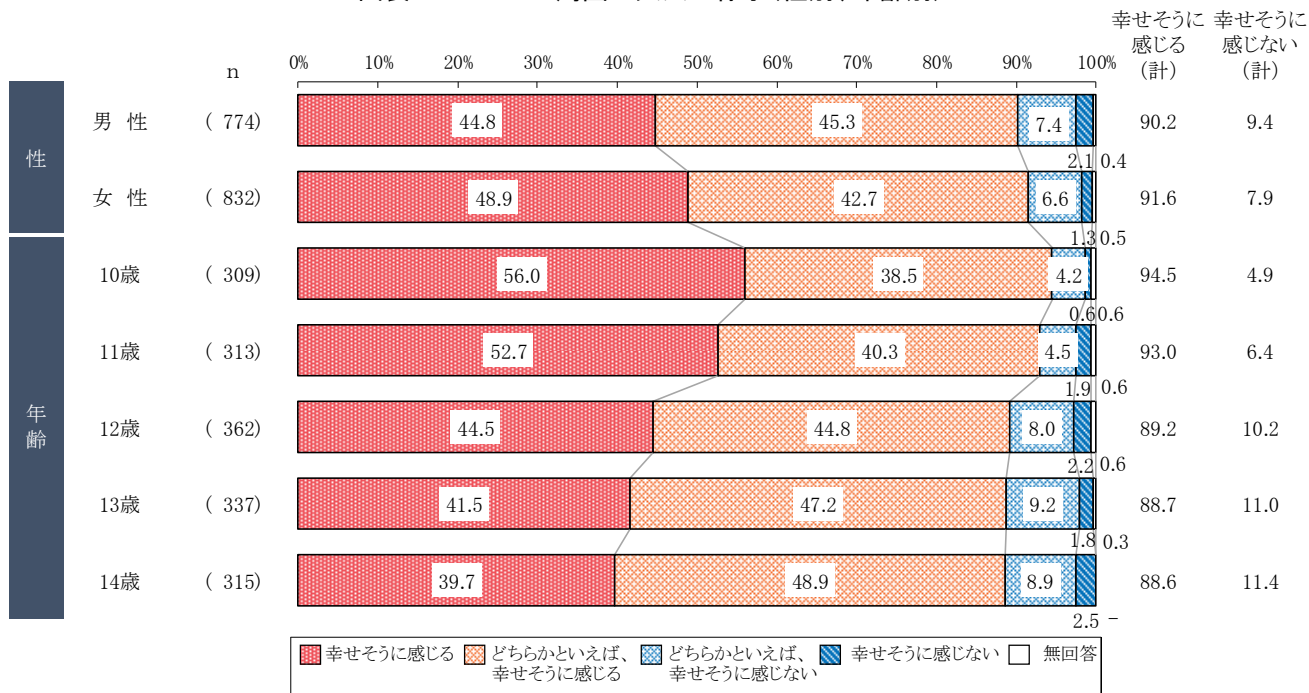
図表 2-1-6-5-1 周囲の大人の様子



性別にみると(図表 2-1-6-5-2)、『幸せそうに感じる(計)』(「幸せそうに感じる」+「どちらかといえば、幸せそうに感じる」)は、男性90.2%、女性91.6%であり、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると(図表 2-1-6-5-2)、「幸せそうに感じる」との回答は年齢が低い層ほど高く、10歳(56.0%)、11歳(52.7%)では半数を超えるのに対し、12歳(44.5%)、13歳(41.5%)では4割台、14歳(39.7%)では4割を下回っている。『幸せそうに感じる(計)』についても、高い年齢層ほどゆるやかに低くなっており、10歳(94.5%)及び11歳(93.0%)では9割を超え、12歳以上は9割未満となっている。

図表 2-1-6-5-2 周囲の大人の様子(性別、年齢別)



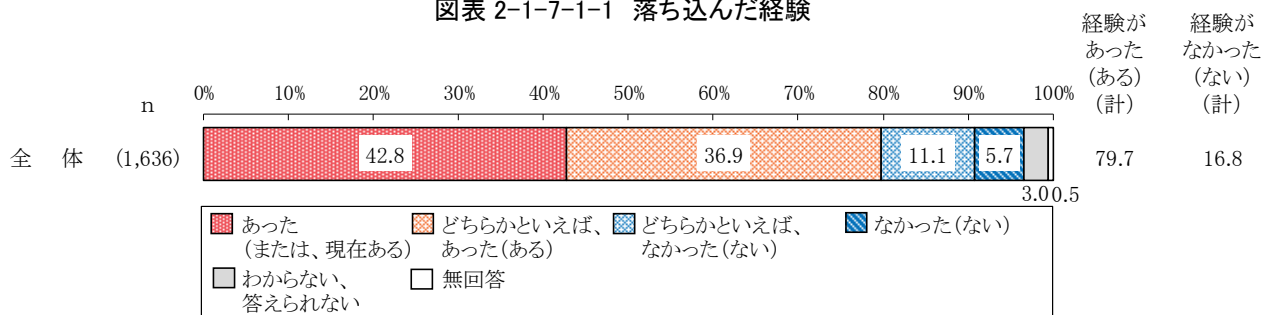
7. ものごとがうまくいかず落ち込んだ経験

(1) 落ち込んだ経験 (問 19)

問 19 あなたは今までに、ものがうまくいかず落ち込んだ経験があったと思いますか。または、現在、ありますか。最もあてはまるものを選んでください。(1つだけ)

今までものごとがうまくいかず落ち込んだ経験が「あった (または、現在ある)」という回答者は 42.8%、「どちらかといえば、あった (ある)」は 36.9%であり、『経験があった (ある) (計)』(「あった (または、現在ある)」+「どちらかといえば、あった (ある)」) は約 8 割の 79.7%を占めている (図表 2-1-7-1-1)。

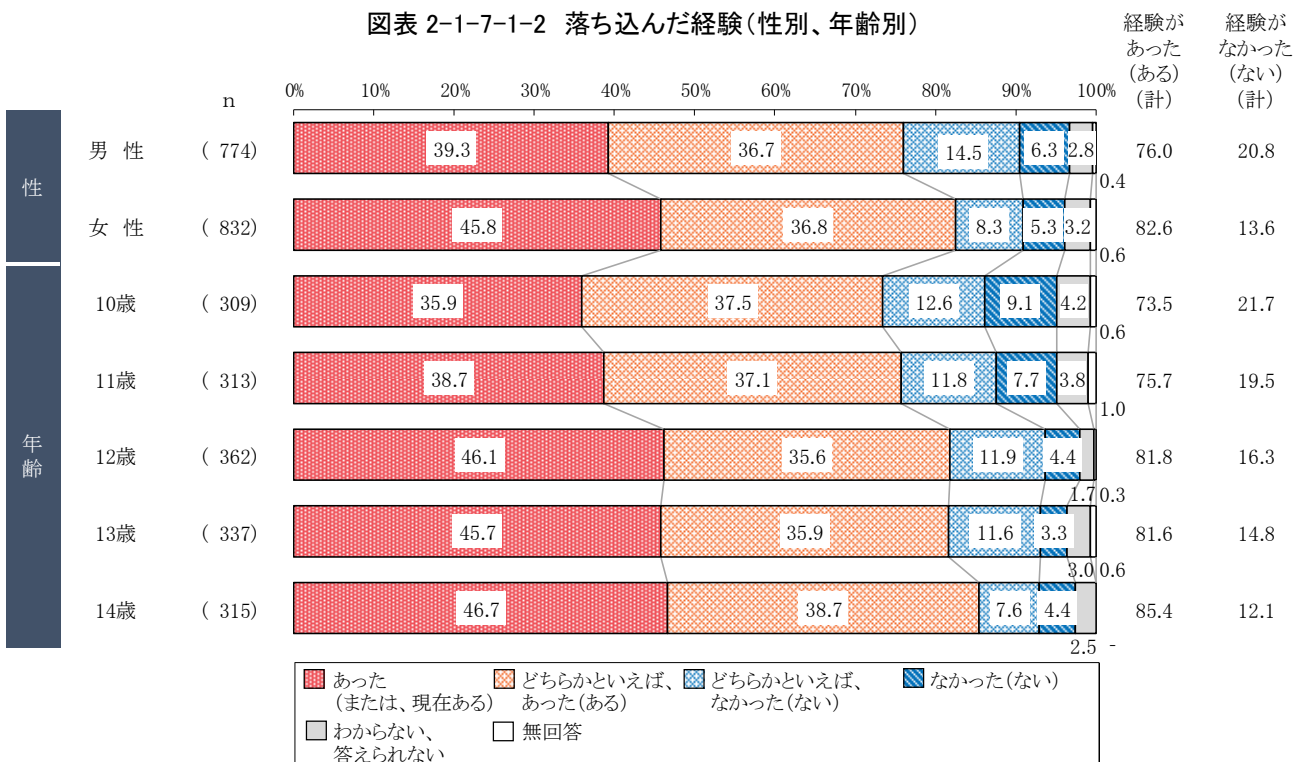
図表 2-1-7-1-1 落ち込んだ経験



性別にみると (図表 2-1-7-1-2)、落ち込んだ経験が「あった (または、現在ある)」という回答は、女性 (45.8%) が男性 (39.3%) を約 7 ポイント上回っており、『経験があった (ある) (計)』は、女性では 82.6%、男性では 76.0%となっている。

年齢別にみると (図表 2-1-7-1-2)、『経験があった (ある) (計)』は、概ね年齢が高い層ほど高く、10 歳では 73.5%、11 歳では 75.7%と 7 割台であるのに対し、12 歳から 14 歳では 8 割を超える (12 歳 81.8%、13 歳 81.6%、14 歳 85.4%)。

図表 2-1-7-1-2 落ち込んだ経験 (性別、年齢別)



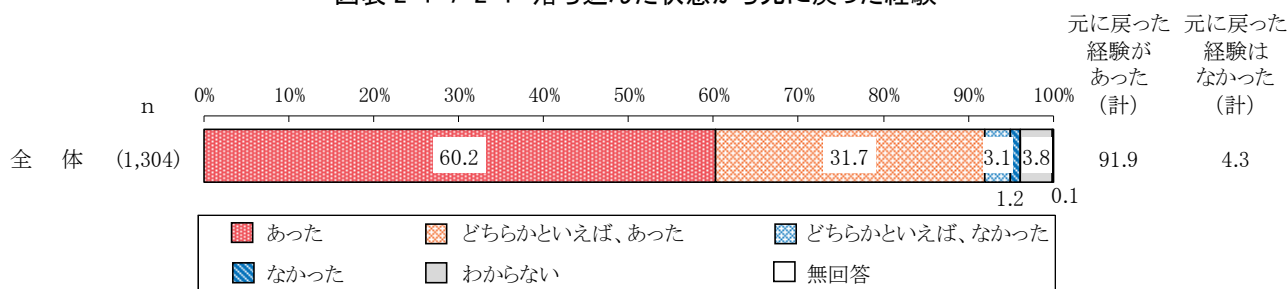
(2) 落ち込んだ状態から元に戻った経験 (問 20)

【問 19で「1」又は「2」を選んだ方のみ、お答えください。】

問 20 あなたは今までに、ものごとがうまくいかず落ち込んだ状態から元にもどった経験があったと思いますか。最もあてはまるものを選んでください。(1つだけ)

今までにものごとがうまくいかず落ち込んだ経験 (問 19) について、「経験があった (または、現在ある)」、または「どちらかといえば、あった (ある)」と答えた者 (1,304 人) に、その状態から元に戻った経験の有無を聞いたところ (図表 2-1-7-2-1)、60.2%は元に戻った経験が「あった」と回答し、「どちらかといえば、あった」(31.7%)を合わせると、91.9%は改善した経験を持っている。一方、元に戻った経験は「なかった」、または「どちらかといえば、なかった」は、合わせて4.3%である。

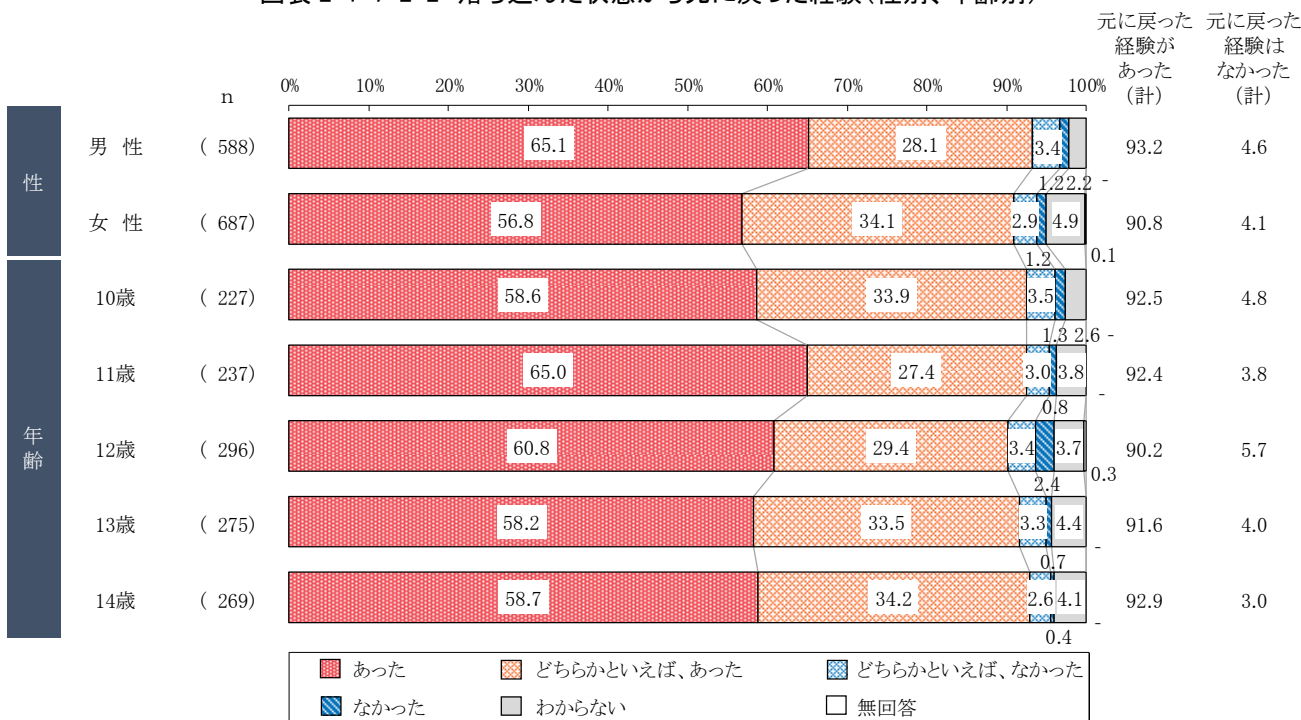
図表 2-1-7-2-1 落ち込んだ状態から元に戻った経験



性別にみると (図表 2-1-7-2-2)、落ち込んだ状態から元に戻った経験が「あった」という回答は、男性 65.1%、女性 56.8%で、「どちらかといえば、あった」(男性 28.1%、女性 34.1%)を合わせると、『元に戻った経験があった (計)』は、男性 93.2%、女性 90.8%であり、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると (図表 2-1-7-2-2)、『元に戻った経験があった (計)』は、いずれの年齢層でも9割台となっており、年齢層による大きな差はみられない。

図表 2-1-7-2-2 落ち込んだ状態から元に戻った経験 (性別、年齢別)



(3) 落ち込んだ状態から元に戻ったきっかけ (問 21)

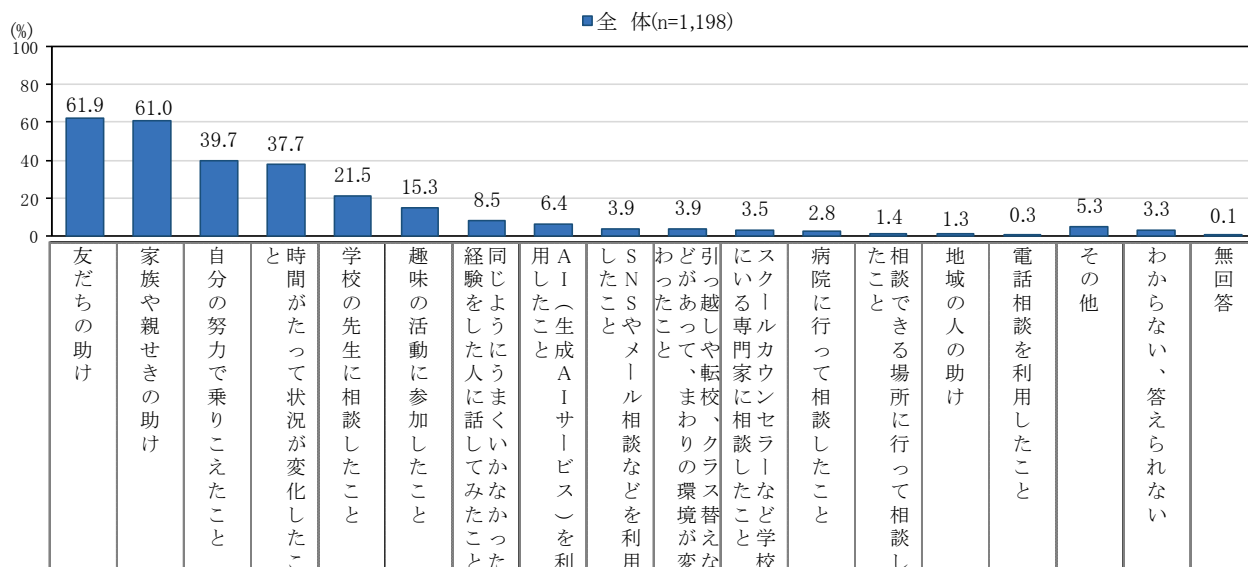
【問 20 で「1」又は「2」を選んだ方のみ、お答えください。】

問 21 落ち込んだ状態から元にもどったのは、どのようなことがきっかけだったと思いますか。

(いくつでも)

問 20 で、落ち込んだ状態から元に戻った経験が「あった」または「どちらかといえば、あった」と答えた者 (1,198 人) が、そのきっかけとして挙げているものについてみると (図表 2-1-7-3-1)、「友だちの助け」(61.9%)と「家族や親せきの助け」(61.0%)が6割台で上位に挙げられている。次いで、「自分の努力で乗り越えたこと」が 39.7%、「時間がたって状況が変化したこと」が 37.7%となっている。

図表 2-1-7-3-1 落ち込んだ状態から元に戻ったきっかけ



性別にみると（図表 2-1-7-3-2）、男女ともに、上位には「友だちの助け」、「家族や親せきの助け」が約 6 割で挙げられている。「時間がたって状況が変化したこと」は、女性では 4 割を超え（40.4%）、男性（34.5%）を約 6 ポイント上回っている。また、女性は「A I（生成 A I サービス）を利用したこと」がほぼ 1 割（9.1%）となっている。

年齢別にみると（図表 2-1-7-3-2）、10 歳では「家族や親せきの助け」が 65.2%であり、14 歳（55.6%）を約 10 ポイント上回っている。14 歳では「時間がたって状況が変化したこと」は半数弱（49.2%）であり、13 歳以下の層に比べて多い。また、14 歳では「A I（生成 A I サービス）を利用したこと」がほぼ 1 割（9.6%）となっている。

図表 2-1-7-3-2 落ち込んだ状態から元に戻ったきっかけ（性別、年齢別）

		n	友だちの助け	家族や親せきの助け	自分の努力で乗りこえたこと	時間がたって状況が変化したこと	学校の先生に相談したこと	趣味の活動に参加したこと	同じようにうまくいかなかった経験をした人に話してみたこと	A I（生成 A I サービス）を利用したこと	S N S やメール相談などを利用したこと	引越したり、まわりの環境が変わったこと	スクールカウンセラーなど学校にいる専門家に相談したこと	病院に行って相談したこと	相談できる場所に行って相談したこと	地域の人の助け	電話相談を利用したこと	その他	わからない、答えられない	無回答
性	男性	(548)	60.9	61.5	42.0	34.5	20.4	13.0	8.4	3.1	1.8	3.3	2.9	3.3	1.6	2.0	0.2	4.6	4.0	-
	女性	(624)	63.1	60.6	38.1	40.4	21.8	17.0	8.5	9.1	5.6	4.2	4.2	2.4	1.3	0.8	0.5	6.3	2.4	0.2
年 齢	10歳	(210)	59.0	65.2	33.8	31.9	24.3	11.9	8.6	3.8	1.0	5.7	1.4	2.9	1.4	1.9	-	3.8	6.2	-
	11歳	(219)	63.0	61.2	40.2	32.0	24.2	11.0	8.7	5.0	2.3	5.0	2.7	2.3	0.9	1.8	-	5.5	3.2	-
	12歳	(267)	64.4	60.7	40.8	40.4	18.4	17.2	11.2	6.7	6.0	3.0	4.5	2.6	1.5	1.1	0.4	7.5	1.1	-
	13歳	(252)	61.9	63.1	40.1	33.3	17.9	15.1	6.0	6.3	4.0	4.0	4.4	4.0	2.4	0.8	0.8	6.0	3.6	-
	14歳	(250)	60.4	55.6	42.8	49.2	24.0	20.0	8.0	9.6	5.6	2.4	4.0	2.0	0.8	1.2	0.4	3.6	2.8	0.4

8. 相談・支援

(1) 落ち込んだときの相談相手 (問 22)

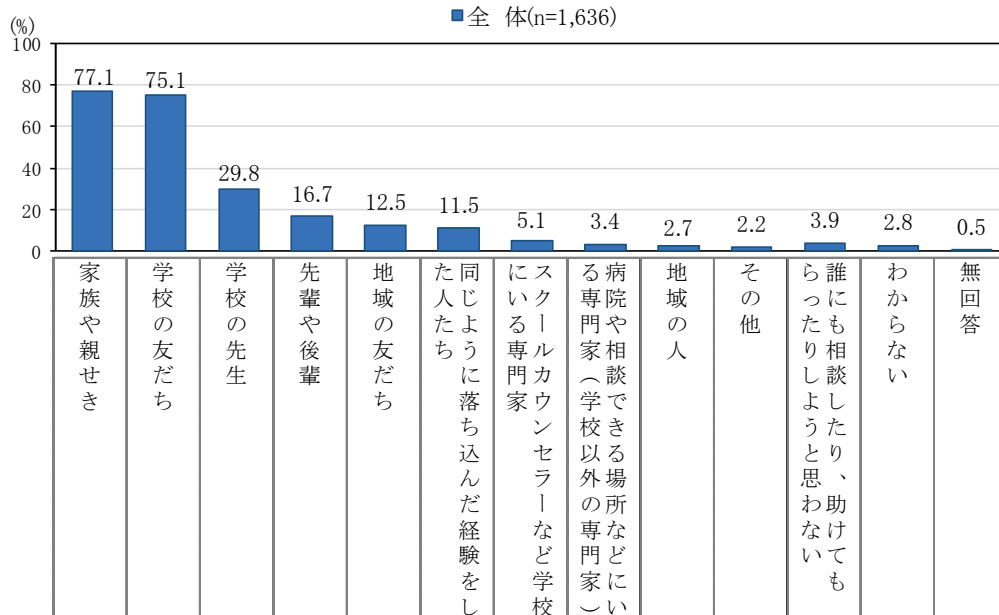
問 22 あなたが、ものごとがうまくいかず落ち込んだときに、どういった人なら、相談したり、助けてもらったりしやすいと感じますか。あてはまるものすべてを選んでください。
(いくつでも)

ものごとがうまくいかず落ち込んだときに、相談したり、助けてもらったりしやすいと感じる相談相手を聞いた (図表 2-1-8-1-1)。

落ち込んだ時の相談相手としては、「家族や親せき」(77.1%)と「学校の友だち」(75.1%)がともに7割台で上位に挙げられている。以下、「学校の先生」(29.8%)、「先輩や後輩」(16.7%)、「地域の友だち」(12.5%)、「同じように落ち込んだ経験をした人たち」(11.5%)の順となっている。

一方、「誰にも相談したり、助けてもらったりしようと思わない」という回答者は3.9%である。

図表 2-1-8-1-1 落ち込んだときの相談相手



性別にみると（図表 2-1-8-1-2）、「家族や親せき」と「学校の友だち」が男女ともに7割を超えて上位に挙げられている。「地域の友だち」（男性 16.4%、女性 9.3%）や「先輩や後輩」（男性 19.0%、女性 14.5%）などは女性より男性に多く挙げられている。

年齢別にみると（図表 2-1-8-1-2）、「家族や親せき」は年齢が低い層ほど多い傾向がみられ、10歳（83.8%）では8割を超える。「地域の友だち」は10歳では18.8%で、11歳以上の年齢層に比べて多く挙げられている。「先輩や後輩」は、12歳以上で2割前後となっている（12歳 20.7%、13歳 18.7%、14歳 17.8%）。

図表 2-1-8-1-2 落ち込んだときの相談相手（性別、年齢別）

		(%)													
n		家族や親せき	学校の友だち	学校の先生	先輩や後輩	地域の友だち	同じように落ち込んだ経験をした人たち	スクールカウンセラーなど学校にいる専門家	病院や相談できる場所などにいる専門家（学校以外の専門家）	地域の人	その他	誰にも相談しように思わなくても	わからない	無回答	
性	男性 (774)	78.6	76.0	31.7	19.0	16.4	11.1	5.2	3.7	4.0	1.3	3.5	3.2	0.4	
	女性 (832)	76.1	74.8	27.8	14.5	9.3	11.9	5.2	3.2	1.6	3.0	4.0	2.0	0.6	
年齢	10歳 (309)	83.8	74.1	32.0	12.6	18.8	12.3	4.9	3.6	7.1	1.3	3.2	2.9	0.6	
	11歳 (313)	78.3	74.8	31.9	13.1	12.8	11.5	6.1	3.8	1.9	2.9	4.5	2.2	1.0	
	12歳 (362)	77.1	77.1	25.7	20.7	9.9	11.6	5.2	3.6	1.7	1.9	4.1	2.8	0.3	
	13歳 (337)	74.2	73.9	29.1	18.7	9.5	9.5	5.0	4.2	1.2	2.4	3.6	2.7	0.6	
	14歳 (315)	72.4	75.6	30.8	17.8	12.4	12.7	4.4	1.9	1.9	2.5	3.8	3.2	-	

(2) 相談しようと思わない理由 (問 23)

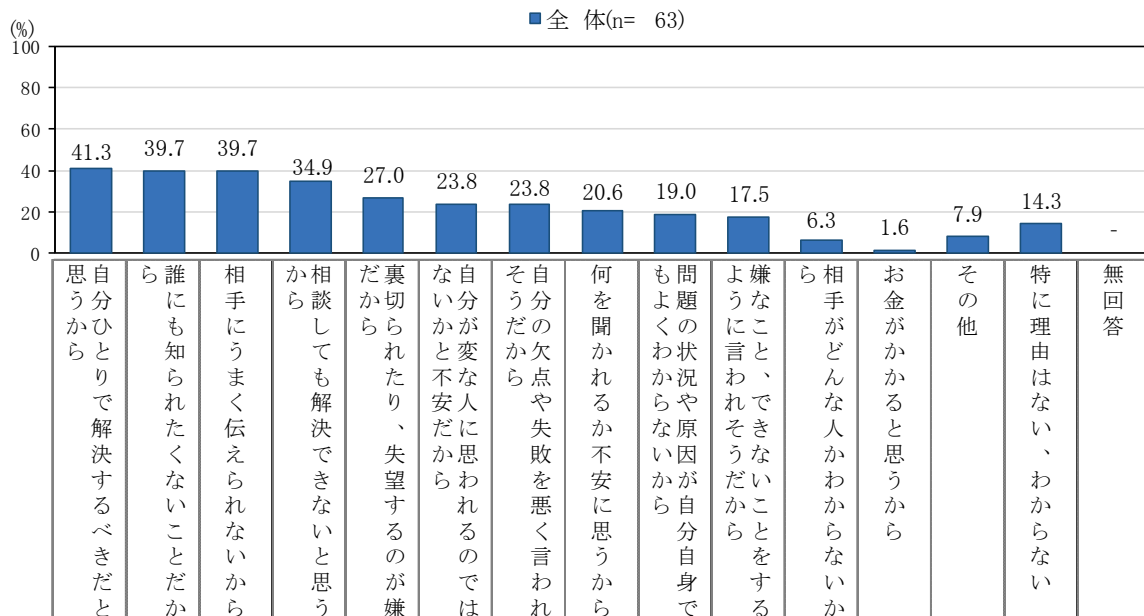
【問 22 で「11」を選んだ方のみ、お答えください。】

問 23 「誰にも相談したり、助けてもらったりしようと思わない」の理由をお答えください。

(いくつでも)

ものごとがうまくいかず落ち込んだときに、相談したり助けてもらったりしやすいと感じる相談相手に関して (問 22)、「誰にも相談したり、助けてもらったりしようと思わない」と答えた者 (63 人) にその理由について聞いたところ (図表 2-1-8-2-1)、「自分ひとりで解決するべきだと思うから」(41.3%)、「誰にも知られたくないことだから」、「相手にうまく伝えられないから」(ともに 39.7%)、「相談しても解決できないと思うから」(34.9%)、「裏切られたり、失望するのが嫌だから」(27.0%)、「自分が変な人に思われるのではないかと不安だから」、「自分の欠点や失敗を悪く言われそうだから」(ともに 23.8%) の順となっている。

図表 2-1-8-2-1 相談しようと思わない理由



図表 2-1-8-2-2 相談しようと思わない理由(性別、年齢別)⁵

(%)

	n	自分ひとりで解決するべきだと思うから	誰にも知られたくないことだから	相手にうまく伝えられないから	相談しても解決できないと思うから	裏切られたり、失望するのが嫌だから	自分を変な人と思われるのではないかと不安だから	自分の欠点や失敗を悪く言われそうだから	何を聞かれるか不安に思うから	問題の状況や原因が自分自身でもよくわからないから	嫌なこと、できないことをするようには言われそうだから	相手がどんな人かわからないから	お金がかかると思うから	その他	特に理由はない、わからない	無回答
性	男性 (27)	44.4	25.9	33.3	25.9	11.1	18.5	18.5	11.1	3.7	14.8	-	-	14.8	14.8	-
	女性 (33)	36.4	48.5	42.4	39.4	39.4	27.3	27.3	27.3	27.3	18.2	9.1	-	3.0	12.1	-
年齢	10歳 (10)	30.0	40.0	50.0	20.0	10.0	30.0	10.0	30.0	20.0	20.0	-	-	20.0	10.0	-
	11歳 (14)	50.0	21.4	28.6	21.4	7.1	14.3	21.4	7.1	14.3	-	-	-	14.3	14.3	-
	12歳 (15)	26.7	53.3	60.0	26.7	46.7	40.0	26.7	33.3	26.7	20.0	13.3	6.7	6.7	13.3	-
	13歳 (12)	58.3	50.0	41.7	58.3	33.3	16.7	33.3	16.7	16.7	33.3	-	-	-	8.3	-
	14歳 (12)	41.7	33.3	16.7	50.0	33.3	16.7	25.0	16.7	16.7	16.7	16.7	-	-	25.0	-

⁵ 回答者些少のため、参考値として掲載。

(3) 相談場所の認知度 (問 24)

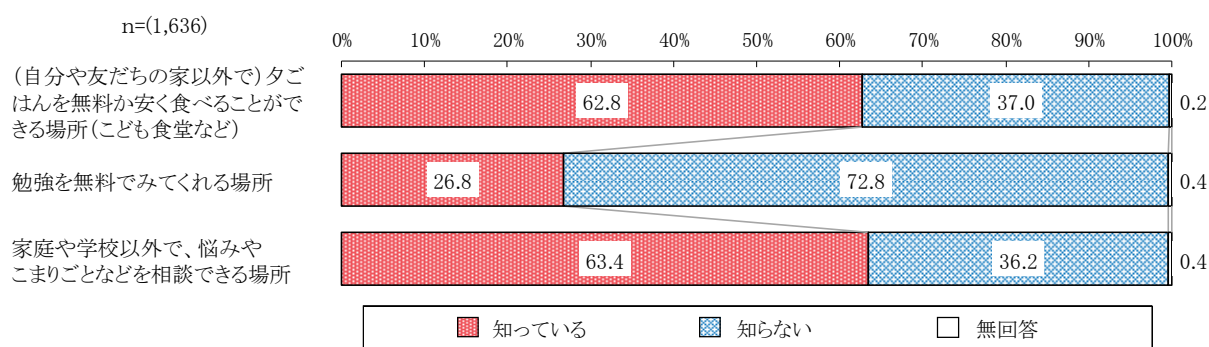
問 24 あなたは、次のような場所があることを知っていますか。(1つだけ)

相談場所について、“(自分や友だちの家以外で) タごはんを無料か安く食べることができる場所 (こども食堂など)”、“勉強を無料でみてくれる場所”、“家庭や学校以外で、悩みやこまりごとなどを相談できる場所”の認知をそれぞれ聞いた (図表 2-1-8-3-1)。

「知っている」との回答は、“(自分や友だちの家以外で) タごはんを無料か安く食べることができる場所 (こども食堂など)” (62.8%) と “家庭や学校以外で、悩みやこまりごとなどを相談できる場所” (63.4%) については6割を超え、「知らない」を上回っている。

“勉強を無料でみてくれる場所”は、「知らない」との回答が7割を超え (72.8%)、「知っている」 (26.8%) を上回っている。

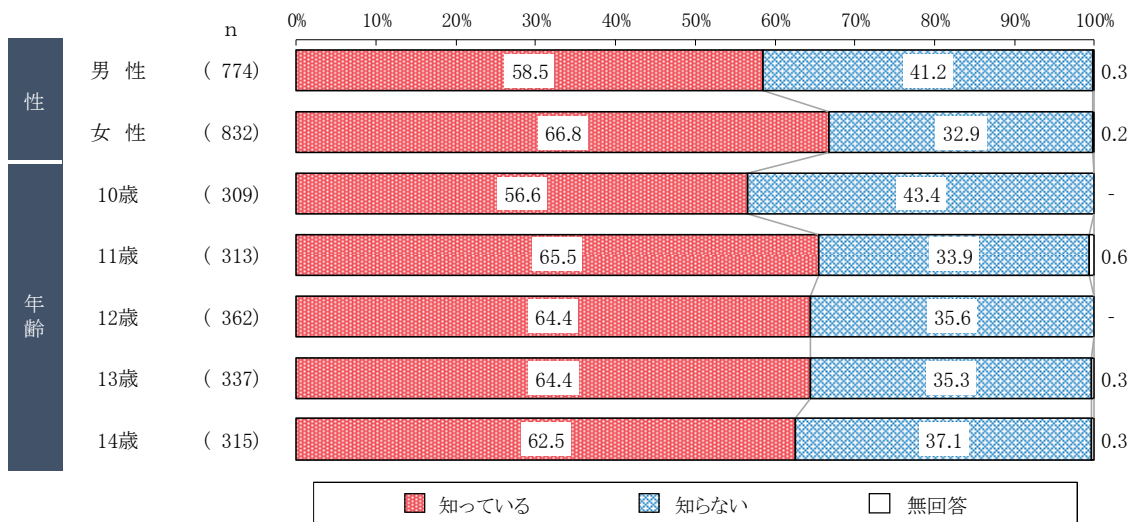
図表 2-1-8-3-1 相談場所の認知度



“(自分や友だちの家以外で) タごはんを無料か安く食べることができる場所 (こども食堂など)”の認知状況を性別にみると (図表 2-1-8-3-2)、「知っている」という回答は、女性 (66.8%) では6割を超え、男性 (58.5%) を約8ポイント上回っている。

年齢別にみると (図表 2-1-8-3-2)、「知っている」という回答は、10歳 (56.6%) では6割を下回っているが、11歳以上では6割台となっている (11歳 65.5%、12歳 64.4%、13歳 64.4%、14歳 62.5%)。

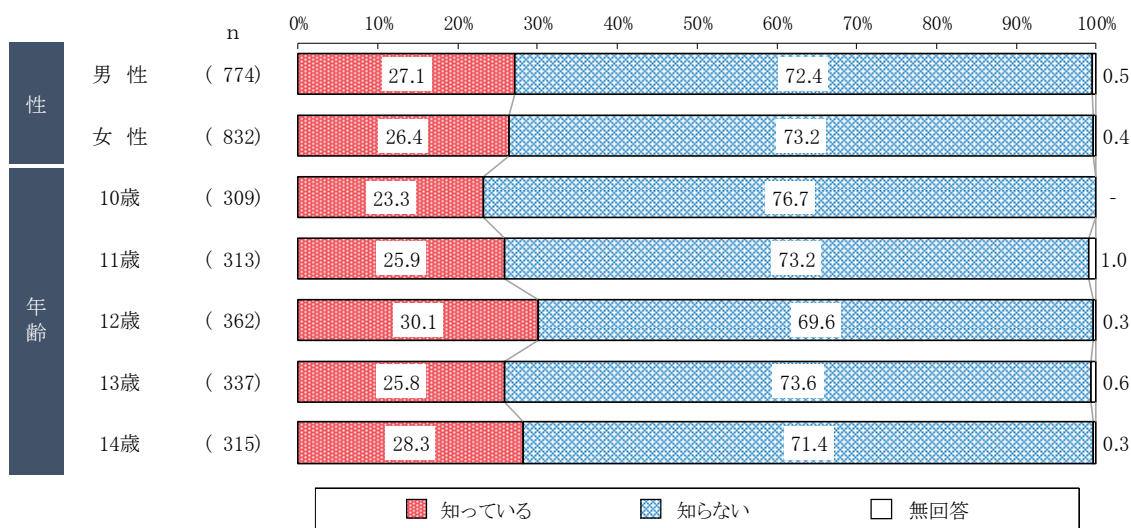
図表 2-1-8-3-2 相談場所の認知度: (自分や友だちの家以外で) タごはんを無料か安く食べることができる場所 (こども食堂など) (性別、年齢別)



“勉強を無料でみてくれる場所”の認知状況を性別にみると（図表 2-1-8-3-3）、男女ともに「知っている」という回答は、2割台（男性 27.1%、女性 26.4%）で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-1-8-3-3）、「知っている」との回答は、12歳では 30.1%で、12歳以外では 2割台となっている。

図表 2-1-8-3-3 相談場所の認知度：勉強を無料でみてくれる場所（性別、年齢別）



“家庭や学校以外で、悩みやこまりごとなどを相談できる場所”の認知状況を性別にみると（図表 2-1-8-3-4）、「知っている」との回答は、男性は 60.2%であるのに対し、女性は 66.3%で、女性のほうが約 6 ポイント高い。

年齢別にみると（図表 2-1-8-3-4）、「知っている」との回答は、10歳では 6割を下回っている（57.6%）が、11歳以上では 6割台となっている（11歳 65.8%、12歳 64.1%、13歳 64.1%、14歳 65.4%）。

図表 2-1-8-3-4 相談場所の認知度：家庭や学校以外で、悩みやこまりごとなどを相談できる場所（性別、年齢別）

